



『モノグラフ・高校生』vol.57

大学受験の「現在」

要 約

第1章 調査の意図と方法

① 社会と教育の接点に、生徒の進路意識がある。変化、変革の時代の中にあって、高校生の進路意識の実態を明らかにしたのが、本調査である。

② 全国を7つのブロック（北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州）に分け、それぞれのブロックから1～2校ずつ公立高校を選び、高校2年生に調査をお願いした。全国の12の高校から、4,266名（男子2,190名、女子2,062名、不明14名）の回答を得た。調査時期は1999年2月～3月である。

③ 調査対象校を高校入学時の学力や大学進路実績等によってA（4校）B（5校）C（3校）の3つのグループに分け、高校間格差（グループ）の指標として分析に使用した。4年制大学進学希望者の割合はAグループ校93.5%、Bグループ校87.8%、Cグループ校54.9%と、今回の調査対象校は、日本の全体の学力レベルからすると中の上以上の高校である。（p.9 表1 - 1）

第2章 高校生活

① 入学した高校が、「希望する高校だった」者が半分（53.4%）いる。「どちらかといえば希望する高校だった」（30.4%）を合わせると、8割が希望する高校に入っている。（p.12 表2 - 1）

② 小学校や中学校の頃は、成績がよかった者が多いが（「上」が小学校高学年の頃34.7%、中学3年生の頃37.7%）調査対象が上のレベルの高校のためか現在の成績がよい者は少ない（成績「上」6.2%）。（p.12 表2 - 2～p.13 表2 - 4）

③ 現在の高校生活で満足度の高いのは「友だち」「部活動」で、満足度の低いのは「成績」や「進路相談」である。中間に「先生」や「授業」がある。（p.15 表2 - 7、p.16 図2 - 2）

第3章 高校卒業後の進路と 大学受験について

- ① 高校卒業後の進路は、4年制大学志望が全体では8割(81.4%)いる。男子89.2%、女子73.1%と男子に多い。その中でも「難関4年制大学」志望は、全体で4割(40.3%)で、男子46.1%、女子34.1%と、男子に多い。学校グループ別では、Aグループ校は4年制大学志望93.5%(難関大学志望67.5%)、Bグループ校は4大87.8%(難関31.7%)、Cグループ校は4大54.9%(難関16.8%)と、グループ差がかなりある。(p.21 表3-1)
- ② 「難関4年制大学」への進学を意識する高校生は、比較的早い時期からその進路を考えている。(p.21 表3-2)
- ③ 大学進学における専門分野の選択は、文系4割強、理系4割弱、学際系1割となっている。男女差もみられる。Aグループ校に理系志望者が多い。(p.23 表3-3)
- ④ 大学・短大受験の形態は、「センター試験+学力試験」が3分の2(65.6%)と一番多い。センター試験希望者が72.6%いる。推薦希望者は13.3%と少ない。(p.25 表3-5)
- ⑤ 大学の入試選抜方法において、「志望大学の教科試験」「共通テスト」「志望動機に関する自己申告」を大事にしてほしいと考えている。(p.27 図3-1)
- ⑥ 第一希望の大学に入れなかったとき、「浪人する」は22.0%。「第二、第三希望の大学に入学する」は56.5%と、ほどほど主義の

高校生が多い。「浪人する」は、男子、Aグループ校の生徒に多い(男子28.3%、Aグループ校34.7%) (p.29 図3-3)

- ⑦ 難関4年制大学へは、「このままいったら」入れないが、「一生懸命勉強したら」あるいは「一浪してねばったら」入れると考えている者が多い(「きっと+なんとか入れる」は順に、5.4%、53.0%、61.4%) (p.30 表3-8)

第4章 進路選択と大学生活への期待

- ① 大学・学部の選択において、「就職実績」「大学の有名度」「偏差値」より「自分の希望する学部」を優先する傾向が全体として非常に強い。ただし、就職状況を反映してか、「就職実績」を重視する者が、他の2つより多く、女子とCグループ校でその傾向が強い。逆に、「大学の有名度」や「偏差値」を優先する者は、男子とAグループ校の生徒に多い。(p.35 表4-1)
- ② 大学・短大へ進学する理由を因子分析にかけると、4つの因子が抽出された。勉学志向 同調志向 就職・将来志向 娯楽志向である。全体では、周囲の意向に流される同調的な理由は少なく、大学での勉学や将来を念頭に置いた 勉学志向 就職・将来志向 の選択基準が重視されている。男子は 同調志向 が強く、女子は 勉学志向 が強い。また、高校の難易度が低いほど、親や友だちの影響を受けやすく、「やりたい勉強」よりも「資格」や「社会的地位」など将来の保証を重視している。(p.37 表4-2、p.39 表4-3)

③ 大学・短大の選択基準は、5つの因子からなる。有名度重視 大学手段視 大学目的視 制度重視 一人暮らし重視 である。男子は、有名度重視 一人暮らし重視 が強く、女子は 大学手段視 大学目的視 制度重視 が強い。また、高校の難易度が高いほど 有名度重視 大学目的視 が強く、難易度が低いほど 大学手段視 制度重視 が強い。(p.43 表4 - 4、p.45 表4 - 5)

④ キャンパスで体験したいことは、3つの因子からなる。娯楽体験 スポーツ体験 勉学体験 である。全体として 娯楽体験 への期待が高く、特に男子でその傾向が強い。(p.47 表4 - 6、p.48 表4 - 7)

④ 「つきたい職業」「将来の目標」は「ある」としている者が多いが、それを達成するためのプロセスや手段に関する見通しを持っている者は少ない。(p.58 表5 - 5)

⑤ 「洗濯」など身の回りのことは、親まかせで生活的に自立していない生徒が多い。とりわけ、男子、Aグループ校の生徒が親に頼りきった生活を送っている。(p.59 図5 - 3、p.60 表5 - 6)

⑥ 「女性は結婚してもずっと仕事を持ち続ける」ことを望ましいと思うのは、男子より女子に多い。Aグループ校の生徒に、女性の仕事継続への賛成が強い。(p.61 図5 - 4、p.62 表5 - 7)

第5章 高校生の学歴意識と将来像

① 「有名大学 大企業」のルートを感じているのは、男子、Aグループ校、成績上位者、難関4年制大学希望者である。(p.53 表5 - 1、p.54 表5 - 2)

② 将来像に関しては、結婚や家庭のことなどプライベートなことには明るい見通しを持っているが、一流大学、大企業、社会的名声といったパブリックな業績の達成は無理と感じている。(p.55 表5 - 3)

③ 社会的に高い地位の職業につけるという自信は、あまりない。とりわけ、女子や、Bグループ校、Cグループ校の生徒は、威信の高い職業や高い地位の達成は困難と感じている。(p.56 表5 - 4)

第6章 進路意識の差異(分化)構造

① Aグループ校の生徒は第一志望の高校に入っている(A 70.8%、B 56.0%、C 25.7%)。学校の授業や先生への満足度はAグループ校で高く、部活動はBグループ校で高く、友だちや成績はCグループ校で高くなっている。

② 高校卒業後の進路希望を聞くと、「4年制大学」(A 93.5%、B 87.8%、C 54.9%)と「難関4年制大学」(A 67.5%、B 31.7%、C 16.8%)は大きな学校グループ差がある。

③ 大学や短大選択の基準では、Aグループ校の生徒は大学の伝統的な価値(学問)を重視しているのに対して、Cグループ校の生徒は、就職と入学しやすさと大学生生活の楽しさを重視している。第一志望の大学に入れなかった場合には、「浪人する」はAグループ校に多い(A 34.7%、B 16.5%、C 9.9%)

④ Aグループ校に在籍し成績が上位（現在の成績が「上」ないし「中の上」）の生徒は学校の授業にまじめに取り組み、部活動や友人への満足度も高く、学校生活全体が楽しいと感じている。自我像も明るい。難関大学を目指し、大学選択の理由も、専門の勉強のためという明確な問題意識を持っている。自分の将来についても、しっかりと目標を持っている。

⑤ Cグループ校の成績が下位の生徒は、勉強に熱心に打ち込んでいない。部活動への参加も中途半端である。学校生活全体が、あまり楽しくない。高校卒業後は入れる大学や短大、場合によっては専門学校や就職してもよいと考えている。

⑥ 女子は、大学入学のために浪人することはできないと考えている。

⑦ 「大学の知名度」「高い偏差値」より「自分の希望する学部」を優先するという志向は、男子より女子に多い。女子は「有名な大学」より「学びたいカリキュラム」「資格が取れる」「伝統や校風」「自宅から通学できる」を重視している。大学への進学理由も、男子に比べ女子の方が、積極的に学ぶ姿勢がみられる。男子の方が、学歴社会意識に囚われている。男子は、有名大学へ行けば高い収入、希望する職業、望みの人生が得られる可能性が高いと信じている。女子の方が、そうでない現実をしっかり認識している。

⑧ しかし、今の日本の職業社会は男性優位の社会であり、女性はなかなか希望する職業につけないし、女性向きでない職業も多いと、多くの女子生徒はアスピレーションを冷却している。

〔調査概要〕

対象 北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州の公立高校12校の高校2年生

時期 1999年2月～3月

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプル数 4,266名（男子2,190名、女子2,062名、不明14名）

〔執筆分担〕

はじめに・第2章・まとめに代えて
深谷昌志（東京成徳短期大学教授）

第1・6章
武内 清（上智大学教授）

第3章
島内行夫（ベネッセ教育研究所代表）

第4章
岩田 考（東京学芸大学大学院生）

第5章
浜島幸司（上智大学大学院生）

はじめに ||||

不透明な中で 模索する大学教育

下位の大学が危機

大学の関係者が集まると、「おたくの大学はどうしている」が、このところの決まり文句である。「どう」の意味は、入学者の減少がどういう状況なのかと、それに対して、どういう対抗策を講じているかである。

大学が危機感を持っている背景は、いうまでもなく少子化である。周知のように、団塊ジュニアが最も生まれたのが昭和48年の209万人で、これをピークに出生数が減少を続ける。昭和55年がピーク時の74%にあたる155万人、昭和61年は136万人で65%である。ちなみに、平成9年は119万人が出生数で、これはピーク時の57%である。

大づかみにすると、子どもの数が最盛時の7割となる。進学率が多少高まっても、在籍学生の減少は避けられない。そうした事情はある程度まで予感していた。しかし、実際に学生数が減少しはじめると、多くの混乱やとまどいが生まれた。

特に「進学者が7割になる」というとき、平均して受験生が3割減ると考えていた。しかし、1000万あった収入が300万も減収する重みがわかっていなかった。それと同時に、学生減の影響は平均的でなかった。具体例を

あげて考えてみよう。10大学に各1000名の学生が入学していたとする。それが、3割減の700名の学生数となった。もっとも、10大学のうち、上位3校は有力校なので、危機感に燃えて、大学の見直しを行い、魅力的な大学作りを試み、これまで通りの1000名の学生が入学してくる（これで3000名）。残りの4大学も、がんばって2割減の800名を確保できたとする（3200名）。そうすると、下位の3大学に入学する生徒は全部で800名しか残っていないので、1大学平均267名で、入学者は7割以上の減となる。

ということは、入学者の3割減は平均値、実際に各大学に与える影響は大学のランクによって異なる。上位3大学にはこれまで通りの数の学生が入学する。しかし、中位の4校は2割減、下位3校が7割減となって、下位3大学は廃学の危機に迫られる。といて、最上位の大学もこれまで上位10%しか入学していなかったのに、7000人中の1000名なので上位14%まで、2位の大学は2割までから28%までの生徒が入学してくる。そうした意味では学生の質が低下したという印象を持つかもしれない。

こうしたシミュレーションは決して仮定の話ではない。現実には高等教育機関の中でも、弱者ともいべき立場の短大の中には、地方

の国文科や英文科を中心に廃校を迫られている事例が少なくない。4年制大学でも、中堅級以下の場合、入学者が減少し、学部改組や転学を試みている大学が多い。そして、上位の名門大学も安泰なだけでなく、気を緩めれば転落する危機を感じている。

混迷の中での大学改革

この数年来、大学の規制緩和が進んでいる。一般教育の枠が緩められ、専門科目との垣根がなくなった。同時に、外国語や体育について各大学の状況に応じた履修方法の設定が可能になった。さらに、これまでは考えられなかった学部の新設や改組が可能になり、各大学ともそれぞれの思惑に応じて、大学の将来構想を描くようになった。

そうした改革の機運が大学拡張期に展開されたのなら、明るい未来像を描けたのかもしれない。しかし、入学者減といういわば外圧によって、改組を強いられたので、どの大学も明確な理念や自信を持ってないまま、改革に着手している感じである。

かつての大学では、専任講師に採用されると、その大学に定年まで勤める人生設計を描いた。しかし、現在40代の教員で、定年まで籍を置けると思っているのは皆無なのではないか。

経済界でもこれまでの常識をくつがえすような企業の統合や合併が行われ、リストラ旋風があれまわっている。現在の大学をめぐる状況も、そうした日本社会全体が直面している改革の一側面なのかもしれない。そして、この時期をうまく乗りきることができれば、古い体質を抱えた大学も21世紀に向かって再生できるのかもしれない。しかし、現在は混迷のさなかで、大学内に疑心暗鬼の気配が強い。

これと同じような状況があったと思いつき起こした。30年以上前、学園紛争がさかんだった頃だ。世界的に紛争が広がり、学内にバリケードが張られ、象牙の塔的な既成の学問が否定された。その頃、筆者は32歳の専任講師と

して奈良の小さな教育大学に赴任した。そして赴任直後、紛争に巻き込まれた。院生気分が抜けない自分と教員という立場の自分との間で、揺れ動き続けた。学生の言い分はわかるが、教員としては学生の要求のすべてに応じることはできない。そうした苦悩だった。

筆者だけでなく、大学の構成員が「大学は何をやるか」を真剣に考えた時代である。しかし、少なくとも日本の場合、学園紛争はそれから先の大学のあり方にあまりよい影響を与えなかったような気がする。

現代の大学の危機は、後になったとき、どういう意味を持つことになるのか。生涯学習の気運が強まって、大学はいつでも誰でも学べる場が変わってきた、大学間の壁が弱まり、大学間の交流が可能になり、個性に応じた進路選択が可能になった、多様な大学が増え、自分に合った大学探しができるようになった、教員たちが学生の動向に関心を持つようになり、教育の質が高まった、などが、明るく描いた時の変化となる。そうした反面、教員が安心して在籍していないので、研究や教育の質が低下する、流動性が高まって、学生たちが母校に愛着心を持たなくなり、大学はとりあえずの籍を置く場にすぎなくなる、その結果、学風や大学文化などが希薄になって、社会的に大学教育の機能が失われるなどが、暗い未来像として浮かんでくる。

これまでの大学は財政的に貧しかったが、その中で教員を中心に私塾的な雰囲気をかもしだしながら、ゼミに象徴される独特な大学文化を作ってきた。そうした密着した人間関係が大学教育の本質だったような気がする。そうしたものが失われたとき、大学は教育機関として生き残れるのか。そこらに、これからの大学の問題が潜んでいるように思われる。

これまで大学のサイドから現状を描写してきた。それでは、高校生は進学をどう思っているのか。変化する大学の状況に対する評価を加えながら、現在の進学状況にふれることにしたい。

第1章

調査の意図と方法

1 調査の意図とサンプルの構成

21世紀を前にして、社会や教育のあり方が大きく変わりつつある。長びく不況の中で、新卒者の就職も厳しくなっている。大学も18歳人口の減少や大学改革の波の中で、受験生獲得を目指して、さまざまな入試改革を行っている。小中高も個性化、自由化、私事化といったキーワードのもとに学校週5日制、チームティーチング、総合学習、総合学科、公立中高一貫教育、飛び級など、さまざまな教育改革の中にある。男女共同参画社会の中で、進学に関しても男女平等の意識が浸透している。

社会と教育の接点に、生徒の進路意識がある。変化、変革の時代の中であって、高校生の進路意識は、どう変化しているのか。その実態を明らかにしたいというのが本調査の目的である。また、高校生の進路意識の全体像を明らかにするだけでなく、高校や生徒の中の差異や分化にも注目したい。高校生の進路意識は、住んでいる地域、学校、性別、成績、その他の要因によって分化していることが十分考えられる。このような現代の高校生の進

路意識の実態を明らかにすることは、学校や教師が高校生の進路形成やキャリア形成にどのようにかかわるべきかを考えるのに役立つであろう。

現在、全国に高校は5,481校ある（1999年度）。東京をはじめとする一部の大都市を除き4年制大学への進学の高い実績があるのは、全国的にみれば公立高校である。そこで、今回は公立高校の生徒を対象に、全国サンプルで進路意識に関する調査を実施した。

全国を7つのブロック（北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州）に分け、それぞれのブロックから原則として2校ずつ対象校を選定した（関東と関西はそれぞれ1校）。それぞれのブロックで、大学進学者の多い学校の2校（特に1校は「名門進学校」）に調査をお願いした。対象は高校2年生とし、各学校4～5クラスに調査をお願いした。調査時期は1999年2月～3月であり、高3になる直前で1年先の受験を具体的に意識し考えはじめる時期の調査である。調査は全国の12の高校から、4,266名の回答を得た。

2 調査対象校の特質

調査対象校の特質は表1-1に示した。

周知のように、日本の高校には、入ってくる生徒に学力の差があり、高校間に格差が存在する。その点で日本の高校は、住んでいる地域の高校にほとんどが通い同じ学校に多様な学力レベルの生徒が混在するアメリカの公立高校とは対照的である。そして、日本ではその高校レベル(グループ)の間で、学校の指導のあり方も生徒文化の特質も違いが生じている。

そこで、ここでは、調査対象校を、高校入学時の学力や大学進路実績等によってABCの3つのグループに分け、高校間格差(グループ)の指標として分析に使用した。今回の

調査対象校では、a、f、h、kの4校がAグループ校に入り、大都市の国立大学や有名私立大学への進学が多い超進学校である。c、e、g、i、jの5校がBグループ校に入り、それらは地元の国立大学に多く進学する進学校である。b、d、lの3校がCグループ校で、4年制大学進学希望者の平均は54.9%と他の高校より少なくなっている(Aグループ校は93.5%、Bグループ校は87.8%)

このように、今回の調査対象校は、日本の全体の学力レベルからすると、中の上以上の高校である。また大都市を中心にかなり存在する私立高校を今回のサンプルは含んでいないことを、お断りしておく。

表1-1 調査対象校の特質

学校略号	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	計
所在地	北海道	北海道	東北	東北	関東	中部	中部	関西	中四国	中四国	九州	九州	
4年制大学進学希望率	87.1	46.5	90.0	76.4	87.9	86.3	92.9	95.1	84.3	84.5	95.2	54.4	84.3
難関大学進学希望率	52.1	11.7	28.0	17.8	50.4	69.0	39.8	72.2	30.8	15.2	76.9	20.6	40.3
センター試験受験希望率	77.6	50.2	62.3	61.1	63.3	90.5	80.3	88.6	80.9	76.3	86.9	24.3	72.6
中3の成績(上)	42.9	1.9	44.6	6.8	44.0	73.9	50.4	80.8	30.8	6.0	75.5	2.0	37.7
第一志望入学率(ととも)	59.1	19.7	65.2	42.5	60.2	83.4	63.6	70.1	69.4	26.8	72.6	20.1	53.4
父親大学卒率	47.9	35.9	58.7	29.6	49.7	62.2	39.5	54.2	48.8	43.1	68.7	33.3	47.6
母親大学・短大卒率	38.8	35.1	47.6	29.9	42.4	55.9	40.5	52.1	42.6	42.1	54.6	29.4	42.0
東大・京大合格者数 (平成10年度)	0	0	0	0	1	25	5	32	1	0	12	0	76
浪人率(平成10年度;%)	28	6	12	16	37	45	17	—	36	5	39	8	23
学校グループ	A	C	B	C	B	A	B	A	B	B	A	C	

3 調査対象者の属性

学校別の調査回答者数は、表1 - 2に示した。

調査対象の生徒の基本的属性の、いくつかを示しておこう。

① 性別

男子51.3% / 女子48.3% / 不明0.3%

② 学年

2年生100%

③ 希望の高校だったか

希望する高校だった51.8% / どちらかといえば希望する高校だった29.5% / どちらかといえば希望する高校ではなかった10.4% / 希望する高校ではなかった5.3% / 不明3.0%

④ 小学校高学年の頃の成績

上34.5% / 中の上32.6% / 中23.1% / 中の下6.4% / 下3.0% / 不明0.4%

⑤ 中学3年生の頃の成績

上37.6% / 中の上34.5% / 中21.1% / 中の下5.1% / 下1.4% / 不明0.3%

⑥ 現在の成績

上6.1% / 中の上19.0% / 中28.9% / 中の下22.6% / 下21.8% / 不明1.5%

⑦ 高校卒業後の進路希望

入るのが難しい4年制大学40.2% / ふつう程度の4年制大学36.9% / 入るのがやさしい4年制大学4.0% / 短期大学5.1% / 専修学校専門学校7.6% / 就職2.4% / 家業の手伝いなど0.2% / きちんと考えたことがない1.4% / その他1.8% / 不明0.3%

⑧ 父親の学歴

中学4.1% / 高校28.0% / 短大・高専3.3% / 大学(大学院)39.1% / その他0.8% / わからない6.8% / 不明17.8%

⑨ 母親の学歴

中学2.6% / 高校36.3% / 短大・高専17.9% / 大学(大学院)17.1% / その他1.6% / わからない6.9% / 不明17.6%

*注意；以下の各章の集計の数値パーセントは、回答不明を除いた数（回答者数）を母数として計算したもので示した（ただし5章の図のみ回答不明を含んでいる）。回答不明を含んだ数を母数とした割合を、巻末の集計表に示した。

表1 - 2 調査回答数（学校・男女別）

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	全体
全体	389	368	281	292	266	319	380	345	364	402	424	436	4,266
男子	208	174	87	163	137	213	201	181	181	200	248	197	2,190
女子	181	194	194	126	129	104	179	162	182	199	173	239	2,062
不明	0	0	0	3	0	2	0	2	1	3	3	0	14

第2章

高校生活

1 希望する高校だったか

第1章でふれたように、今回の調査は大学受験を目的とする生徒を対象としている。受験の問題を考える前に、そうした生徒がどういう高校生活を送っているのかを概観してみよう。

表2-1によれば、在籍している高校について、53.4%が「希望する高校だった」と答えている。「どちらかといえば」を含めると、83.8%が希望校だったという反応である。不本意な高校に入学する生徒が多い中で、図2-1の通りに、Aグループ校に在籍する生徒の70.8%は「希望する高校だった」と答えている。それに対し、Cグループ校は、「希望する高校だった」が25.7%にとどまる。学校間格差(グループ)によって、生徒の意識が異なるのがわかって、興味を引くデータである。

表2-2に小学校高学年の頃の成績を示し

た。大学に進学する生徒の場合、少なくとも「中の上」以上の成績をとっていた者が3分の2に達する。中でも、Aグループ校の生徒の53.1%が、成績が上位だったと答えている。

そうした傾向は、表2-3の中学3年生の頃の成績にも表れている。ほぼ4割の生徒が中学でも成績が上位だったという。そうした意味では、小学校から中学校までの成績が、上位あるいは「中の上」の者が進学校に進んだのであろう。ただし、現在の成績は、表2-4が示すように、中位から「中の下」の者が多い。

このように生徒たちが希望する高校に在籍していることは確かだが、「学校へ行くのが楽しみか」について、「わりとそう思う」が36.3%で、それほど楽しみにしていないようにみえる(表2-5)。

表2 - 1 希望する高校だったか × 性・学校グループ

(%)

		希望する高校 だった	どちらかといえば 希望する高校だった	どちらかといえば 希望する高校では なかった	希望する高校では なかった
全 体		53.4	30.4	10.8	5.4
性 別	男 子	51.6	33.4	10.1	4.9
	女 子	55.4	27.2	11.4	6.0
学 校 グ ル ー プ	A	70.8	22.9	3.9	2.4
	B	56.0	29.4	8.7	5.8
	C	25.7	42.2	23.3	8.9

図2 - 1 希望する高校だったか × 学校グループ

(%)

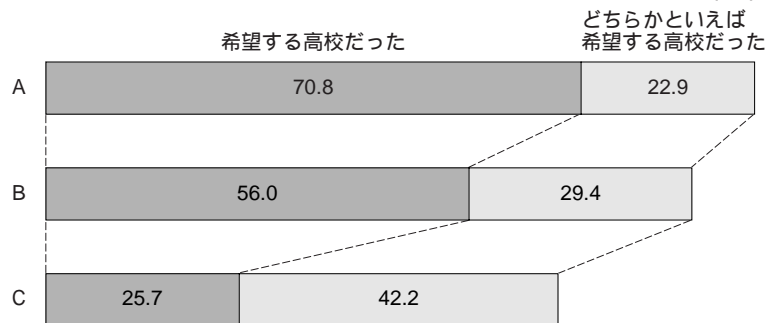


表2 - 2 小学校高学年の頃の成績 × 性・学校グループ

(%)

		上	中の上	中	中の下	下
全 体		34.7	32.7	23.2	6.4	3.0
性 別	男 子	36.6	30.6	21.4	7.0	4.4
	女 子	32.6	34.9	25.2	5.8	1.5
学 校 グ ル ー プ	A	53.1	30.5	11.4	3.0	2.0
	B	33.2	36.4	21.6	6.2	2.6
	C	12.1	29.9	41.7	11.5	4.8

表2 - 3 中学3年生の頃の成績 × 性・学校グループ

(%)

		上	中の上	中	中の下	下
全 体		37.7	34.6	21.2	5.1	1.4
性 別	男 子	40.5	33.2	19.3	5.2	1.8
	女 子	34.6	36.1	23.3	5.0	1.0
学 校 グ ル ー プ	A	67.8	27.1	4.1	0.3	0.7
	B	33.7	47.5	15.4	2.3	1.1
	C	3.3	24.9	53.0	16.1	2.7

表2 - 4 現在の成績 × 性・学校グループ

(%)

		上	中の上	中	中の下	下
全 体		6.2	19.3	29.4	22.9	22.1
性 別	男 子	6.7	18.2	26.8	22.5	25.7
	女 子	5.7	20.5	32.3	23.3	18.2
学 校 グ ル ー プ	A	6.2	18.1	28.9	21.8	24.9
	B	5.8	18.1	29.6	24.5	21.9
	C	6.9	22.8	29.7	22.1	18.6

表2 - 5 学校へ行くのが楽しみ × 性・学校グループ

(%)

		とても そう思う	わりと そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
全 体		11.4	36.3	27.2	16.5	8.6
性 別	男 子	9.4	34.2	29.1	16.6	10.7
	女 子	13.4	38.5	25.2	16.4	6.5
学 校 グ ル ー プ	A	12.3	38.6	25.3	16.1	7.7
	B	12.4	38.8	27.1	14.5	7.2
	C	8.4	29.5	29.9	20.0	12.2

2 高校生活への満足

高校生活について、生徒は表2-6のように答えている。「遅刻はしない」ようにし、「休み時間を楽しみに」、「昼食を楽しみに」しながら、「忘れ物をしないように」している。授業に積極的に参加していることは少ないが、まじめな高校生の姿が浮かんでくる。

高校生活についての評価を表2-7にまとめてみた。満足度が最も高いのが「友だち関

係」、次いで「部活動」で、「授業」や「先生」に満足感を味わっている者は3割にとどまっている。なお、学校グループ別に集計すると(図2-2)、「友だち関係」はそれほどの開きがみられないが、Aグループ校の生徒は「授業」に満足している割合が高い。つまり、「授業」に関心を持てるのがAグループ校の生徒となる。

表2-6 高校での生活 × 性・学校グループ

	全 体	性 別		学校グループ		
		男 子	女 子	A	B	C
遅刻はしない	43.6	42.7	44.5	48.5	42.2	39.2
休み時間が楽しみだ	30.8	26.6	35.2	28.2	31.8	32.7
昼食が楽しい	30.8	21.8	40.3	27.6	32.1	33.1
忘れ物をしない	17.1	17.3	16.9	19.8	14.6	17.4
宿題や提出物は期限までにきちんとやる	15.6	12.3	19.1	17.8	13.4	15.9
テスト勉強はがんばる	13.2	13.6	12.8	15.3	9.5	16.2
授業中はまじめに取り組んでいる	7.6	8.5	6.7	8.9	7.1	6.7
勉強は得意な方である	2.8	4.0	1.6	4.0	2.4	2.0
発言をよくする	2.2	3.0	1.4	2.1	2.1	2.6

「とてもそう思う」割合

「この1年間の変化」と問われて、生徒は表2-8のように答えている。「寝る時間が午前0時をすぎる日が多くなった」が55.0%と半数を超える。次いで、「授業中、内職やいねむりが増えた」も39.2%に達する。本サンプルは高校2年生で、大学受験は1年も先のことだが、そろそろ進学 of 圧力を感じはじめている生徒が増加している。

表2-9に自己評価を示した。大づかみにすると、「苦しいこともがまんができ」、「心がやさしく」、「友だちが多い」が自己評価の平均値となる。こうみえてくると、進学校の高校生はまじめに学校へ通い、友だちと雑談し、

夜遅くまで勉強に取り組む生徒である。授業の荒れや非行、援助交際などとは無縁の生徒たちのようにみえる。

なお、表2-10によれば、塾や予備校に通う生徒は2割弱で、自分で勉強している者が多い。また、表2-11で、通信添削を利用している生徒も2割以下にとどまっている。

このように、一昔前の高校生を思いださせる姿が概観できたように思えた。しかし、これは表面的な考察で、進学となると、もう少し深刻な問題が潜んでいるのかもしれない。以下、進学 of 状況を考えることにしたい。

表2-7 現在の高校生活への満足 × 性・学校グループ

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
友だち	とても	34.0	26.1	42.4	30.5	36.0	35.6
	わりと	42.6	46.9	38.2	43.8	41.5	42.7
	小計	76.6	73.0	80.6	74.3	77.5	78.3
部活動	とても	18.7	17.1	20.4	20.7	19.9	13.3
	わりと	24.6	24.5	24.5	25.2	27.2	18.9
	小計	43.3	41.6	44.9	45.9	47.1	32.2
授業	とても	3.5	4.1	2.8	5.4	2.7	2.0
	わりと	30.4	29.5	31.3	36.1	29.4	24.2
	小計	33.9	33.6	34.1	41.5	32.1	26.2
先生	とても	5.7	6.0	5.4	7.1	5.5	4.1
	わりと	27.8	27.7	27.8	29.8	29.1	23.0
	小計	33.5	33.7	33.2	36.9	34.6	27.1
進路相談	とても	2.9	3.2	2.7	2.9	2.6	3.6
	わりと	14.1	13.7	14.5	15.8	14.4	11.3
	小計	17.0	16.9	17.2	18.7	17.0	14.9
成績	とても	1.9	2.8	1.0	1.6	1.6	3.0
	わりと	11.5	10.8	12.2	10.4	10.5	14.4
	小計	13.4	13.6	13.2	12.0	12.1	17.4
高校生活全般	とても	6.7	6.3	7.1	6.6	7.5	5.5
	わりと	36.1	32.8	39.6	37.4	38.6	30.3
	小計	42.8	39.1	46.7	44.0	46.1	35.8

とても = 「とても満足している」
わりと = 「わりと満足している」

図2 - 2 現在の高校生活への満足 × 学校グループ

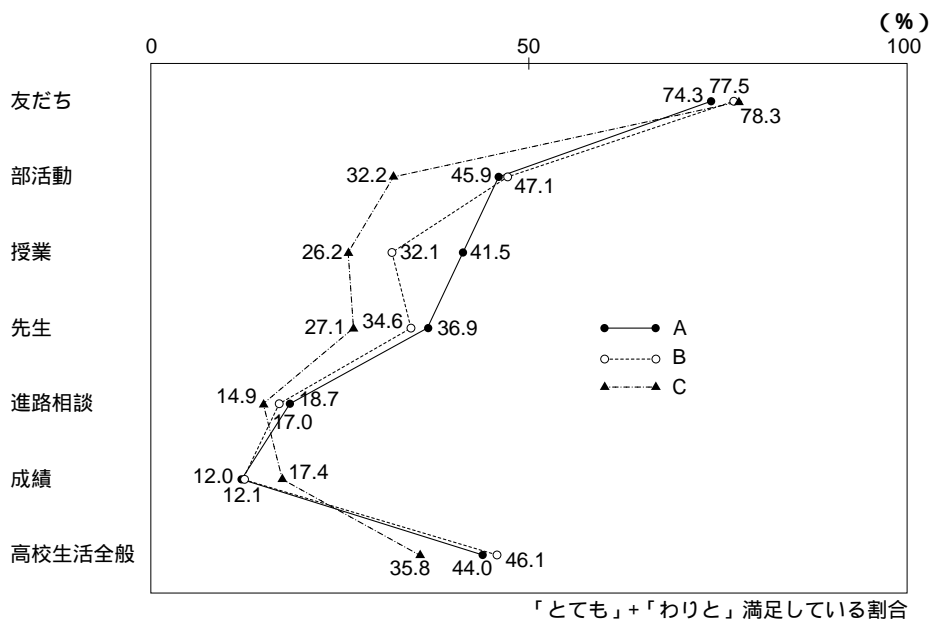


表2 - 8 この1年間の変化 × 性・学校グループ

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
寝る時間が午前0時をすぎる日が多くなった	とても	32.1	35.9	27.9	31.7	32.3	32.2
	少し	22.9	23.2	22.7	22.7	24.0	21.5
	小計	55.0	59.1	50.6	54.4	56.3	53.7
授業中、内職やいねむりが増えた	とても	13.6	16.3	10.8	16.7	12.8	10.8
	少し	25.6	26.3	24.9	28.6	24.0	24.1
	小計	39.2	42.6	35.7	45.3	36.8	34.9
受験用の問題集や参考書で勉強する時間が増えた	とても	4.3	5.4	3.1	4.9	4.6	2.9
	少し	20.2	22.4	17.9	24.0	20.5	14.4
	小計	24.5	27.8	21.0	28.9	25.1	17.3
友人と雑談したりゲームをしたりする時間がなくなった	とても	10.7	11.2	10.2	10.8	9.8	12.0
	少し	12.3	12.4	12.1	11.4	13.8	11.1
	小計	23.0	23.6	22.3	22.2	23.6	23.1
受験が頭のすみにあって遊んでいても今一つのれなかった	とても	4.2	5.3	3.0	5.5	3.9	2.9
	少し	10.9	12.7	9.1	12.0	11.4	8.9
	小計	15.1	18.0	12.1	17.5	15.3	11.8

とても = 「とてもそう思う」
 少し = 「少しそう思う」

表2 - 9 自己評価 × 性・学校グループ

(%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
苦しいことがまんできる	とても	14.0	14.7	13.2	13.9	12.8	15.8
	少し	43.6	41.6	45.6	45.0	42.2	43.7
	小計	57.6	56.3	58.8	58.9	55.0	59.5
心がやさしい	とても	12.7	16.3	8.7	12.8	11.6	14.4
	少し	37.2	37.8	36.6	38.4	36.5	36.6
	小計	49.9	54.1	45.3	51.2	48.1	51.0
友だちが多い	とても	11.6	10.9	12.3	11.1	10.8	13.3
	少し	35.5	34.4	36.6	34.9	35.2	36.7
	小計	47.1	45.3	48.9	46.0	46.0	50.0
冗談を言ってよく人を笑わせる	とても	10.4	9.1	11.7	8.6	10.8	12.1
	少し	30.5	26.2	35.2	29.2	30.7	31.8
	小計	40.9	35.3	46.9	37.8	41.5	43.9
努力型	とても	11.0	10.7	11.4	12.5	10.0	10.5
	少し	27.7	25.3	30.2	28.2	25.9	29.7
	小計	38.7	36.0	41.6	40.7	35.9	40.2
体力なら負けない	とても	11.0	13.1	8.8	11.3	9.8	12.4
	少し	26.3	27.3	25.3	25.7	26.9	26.1
	小計	37.3	40.4	34.1	37.0	36.7	38.5
音楽や芸能界の話題にくわしい	とても	10.2	10.0	10.4	9.1	10.1	11.8
	少し	25.9	24.7	27.3	25.5	24.6	28.6
	小計	36.1	34.7	37.7	34.6	34.7	40.4
運動神経がいい	とても	7.9	10.4	5.1	7.0	7.7	9.3
	少し	26.2	30.3	21.8	26.5	25.5	26.8
	小計	34.1	40.7	26.9	33.5	33.2	36.1
行動力がある	とても	9.3	9.3	9.4	9.6	9.6	8.5
	少し	24.0	24.1	23.9	24.5	22.7	25.4
	小計	33.3	33.4	33.3	34.1	32.3	33.9
みんなから信頼されている	とても	4.0	4.7	3.1	4.1	3.7	4.1
	少し	23.1	19.6	26.8	24.4	22.1	22.9
	小計	27.1	24.3	29.9	28.5	25.8	27.0
なんとなく目立つ	とても	6.3	7.9	4.7	7.0	5.9	6.1
	少し	16.6	17.5	15.7	18.2	15.6	15.9
	小計	22.9	25.4	20.4	25.2	21.5	22.0
流行を先取りしている	とても	3.7	4.3	3.0	3.8	3.1	4.3
	少し	15.5	15.9	15.1	15.9	14.1	17.0
	小計	19.2	20.2	18.1	19.7	17.2	21.3
担任の先生からかわいがられる	とても	3.3	3.9	2.7	3.9	3.3	2.7
	少し	12.5	11.5	13.5	12.8	13.1	11.1
	小計	15.8	15.4	16.2	16.7	16.4	13.8
勉強がよくできる	とても	2.2	3.3	1.1	2.5	2.1	1.9
	少し	13.5	15.1	11.7	15.1	12.2	13.2
	小計	15.7	18.4	12.8	17.6	14.3	15.1
異性に人気がある	とても	2.1	2.9	1.3	2.0	2.1	2.4
	少し	4.1	5.1	2.9	5.2	3.7	3.1
	小計	6.2	8.0	4.2	7.2	5.8	5.5

とても = 「とてもそう思う」
 少し = 「少しそう思う」

表 2 - 10 塾・予備校 × 性・学校グループ

(%)

	全 体	性 別		学校グループ		
		男 子	女 子	A	B	C
行っていない	80.0	78.3	82.0	80.8	71.5	92.3
模試のみ	1.6	2.1	1.1	2.0	1.2	1.8
行っている	18.3	19.6	17.0	17.2	27.3	6.0

表 2 - 11 通信添削 × 性・学校グループ

(%)

	全 体	性 別		学校グループ		
		男 子	女 子	A	B	C
利用している	18.9	17.9	19.9	21.1	23.8	8.1
利用していたがやめた	24.6	21.2	28.2	24.6	29.0	17.8
利用したことはない	56.5	60.9	52.0	54.3	47.1	74.1

第3章 IIIII

高校卒業後の進路と 大学受験について

はじめに

戦後、子どもたちの人口構成の波は、第二団塊の世代といわれる1971年から1974年生まれの人々（現在20歳代後半の世代。それぞれ200万人以上）を戦後第二番目のピークとして、それ以降ずっと少子化傾向にあり、今回の調査の対象となった、高校2年生（17歳）の総人口は約151万人である（1998年時点にて）。この戦後の人口構成のダイナミックな動きは、政治的、文化的な諸要因ともからんで、子どもたちの教育環境や、さまざまなレベルでの教育政策にも大きな影響を与えてきた。

今回の調査の主旨に沿っていえば、高等教育の大衆化の進展（平成9年には大学・短大進学率が40%を超えた）とともに、それぞれの大学など高等教育機関の、いわゆる生き残りを賭けた経営戦略、そして当事者である子どもたち自身の、進路、および大学への進学意識をどのように形成していくかが、これからの教育の動向をみる重要なカギとなるだろう。

そこで本章では、今日の高校生たちが、卒

業後の進路についてどのような意識を持っているのか、また、今回の調査では、調査サンプルの構成上、卒業後の進路選択で大学進学者が多いことが予想されたことから、特に高校生の進路選択と、大学受験の関係を明らかにしようと試みた。

まず第1節では、Q11の高校卒業後の進路意識を分析し、またその進路はいつ頃から考えるようになったか（Q12）をみた。

第2節では大学や短大などへ進学するとしたら、どの分野を志望しているか（Q13）を「理系」「文系」などに大まかに分け分析した。

第3節は大学、短大へ進学するときの選抜方法として、どのようなやり方（Q14）や観点（Q15）が望ましいかを、生徒自身の回答から分析した。

第4節では、もしも第一希望に入れなかった場合のこと（Q16）や、難関といわれる大学にがんばれば入れると思うかどうか（Q17）など意欲や態度について分析した。

分析においては、全体、性別、成績別、学

校グループ別（ランク別）とのクロス分析を基本的な柱とした。また、今回の調査における対象（サンプル）は、必ずしも日本の高校

生全体を代表するものではないが、表現上、特に断りを入れない限り、調査対象を「高校生」とした。

1 高校卒業後の進路について

今、高校生たちは、高校卒業後の進路をどのように考えているのだろうか。Q11では特に高等教育への進路を「入るのが難しい4年制大学（難関4年制大学）」「ふつう程度の4年制大学（普通4年制大学）」「入るのがやさしい4年制大学（やさしい4年制大学）」「短期大学（短大）」の4つに分類し、また「専修学校・専門学校」「就職」などを加え、合計9つの選択肢から選んでもらった。

なお、調査概要でも述べたように、対象校は、大学進学に比較的熱心な普通高校である。その点を念頭に置いた上で分析を試みたい。

表3 - 1はQ11における回答を、性別、成績別、また学校グループ別にクロス分析を行った集計表である。

まず、全体でみると、「難関4年制大学」には40.3%が進学を考えており、「普通4年制大学」「やさしい4年制大学」を加えると、4年制大学には81.4%、「短大」までを加えると86.5%が大学への進学を考えていることになる。

平成10年度の文部省統計によると、平成10年度の大学進学率は42.4%である。それと比べても、今回の調査対象となった高校生たちの進学意識は極めて高いことがわかる。

性別でみると、「難関4年制大学」を志向する男子は、女子より12ポイントほど多く、「短大」志望者は女子9.9%、男子0.6%である。「短大」も加えた合計でみると、男子は約90%、女子も83%が大学進学を考えている。一般的には「難関4年制大学」は首都圏や大都市圏に集まっているので、女子に根強いといわれる地元志向が、この男女差をもたらしているのであろうか。

「就職」「家業の手伝いなど」は、合計してもわずか2～3%である。調査対象校が普通高校で進学校が多いことから表れた数字だが、近年、高校卒での求人や採用が減少していることも影響しているのであろう。

成績別でみると、上位層の6割が「難関4年制大学」を志望するのは理解できるとして、自己の成績が「下」と答えている層でも、3割が「難関4年制大学」を目指していることに注目したい（ここでの分析ではQ8のクラスでの成績の自己申告をそのまま用いた）

次に学校グループ別でみると、Aグループでは「難関4年制大学」への志望率が67.5%と最も高く、「普通4年制大学」24.1%と、これを合わせただけで91.6%にも上る。Bグループでは「難関4年制大学」31.7%、「普通4年制大学」51.6%と、ちょうどAグループと入れ替えた形を示している。Cグループは「普通4年制大学」が32.0%と最も多いが、「専修学校・専門学校」18.9%、「短大」13.8%と、他のグループに比べ、分散している。また「就職」も6.6%ある。わが国の普通高校が、生徒の学力ランクによって構成されていることが、生徒の進路意識によっても裏づけられる結果になったといえよう。

<進路を考えた時期>

それでは高校生たちは、Q11で示した進路に、いつ頃から進もうと思うようになったのだろうか。表3 - 2はQ11で分類した進路をQ12の「小学入学以前」から「高校2年生になってから」までを8段階に分け、それぞれの進路をいつ頃考えたかを表した。

表3 - 1 高校卒業後の進路をどう考えているか × 性・成績・学校グループ

(%)

	全 体	性 別		成 績					学校グループ		
		男 子	女 子	上	中の上	中	中の下	下	A	B	C
難関4年制大学	40.3	46.1	34.1	59.8	52.0	38.2	34.8	33.2	67.5	31.7	16.8
普通4年制大学	37.1	38.3	35.8	29.9	32.1	41.0	42.4	32.7	24.1	51.6	32.0
やさしい4年制大学	4.0	4.8	3.2	1.5	2.0	2.4	3.6	9.2	1.9	4.5	6.1
短 大	5.1	0.6	9.9	2.3	5.7	6.2	5.3	4.0	2.2	2.0	13.8
専修学校・専門学校	7.7	3.8	11.8	3.1	5.5	8.0	8.8	9.2	1.2	6.0	18.9
就 職	2.4	2.5	2.4	1.1	1.6	1.8	2.5	4.3	0.6	1.4	6.6
家業の手伝いなど	0.2	0.2	0.1	0.4	0.2	0.1	0.0	0.3	0.2	0.1	0.3
考えたことがない	1.4	1.6	1.3	0.8	0.5	0.9	1.1	3.3	0.9	1.4	2.1
その他	1.8	2.2	1.4	1.1	0.4	1.5	1.5	3.9	1.3	1.3	3.4

表3 - 2 高校卒業後の進路をいつ頃から考えたか

(%)

	小学校 入学以前	小学校 低学年	小4、5	小6	中1、2	中3	高1	高2
全 体	2.3	1.4	3.5	4.3	11.1	14.6	28.9	33.8
難関4年制大学	3.9	1.8	4.9	5.4	12.3	13.7	30.2	27.8
普通4年制大学	1.1	1.1	2.2	4.1	10.3	17.3	29.6	34.3
やさしい4年制大学	0.6	1.8	1.8	1.8	7.1	11.8	25.9	49.4
短 大	0.5	1.8	4.6	2.8	12.4	9.2	24.4	44.2
専修学校・専門学校	0.6	1.2	3.1	2.8	12.9	14.8	28.3	36.3
就 職	1.0	0.0	1.0	2.9	9.8	13.7	27.5	44.1
家業の手伝いなど	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
考えたことがない	10.5	5.3	0.0	0.0	2.6	2.6	15.8	63.2

これをみると、まず全体では、子どもの成長とともにだらかに進路を考えるようになっていくが、やはり小学校から中学校へ上がる段階（4.3%から11.1%へ）と中学校から高校へ進学する段階（14.6%から28.9%へ）いわば進学の節目というべき時期において、自分の進路を強く意識するようになる。

進路別にみると「難関4年制大学」においては、他の進路に比べ、早い時期から考えているようだ。4つの大学進学別だけでも、もはや高校2年生の時点において「難関4年

制大学」を考えることは、27.8%と、そのほかの大学選択に比べ相対的に低い。それに対し、「やさしい4年制大学」や「短大」を進路として考える者は、高校に入ってからで、特に高校2年生時点で多くが考えるようだ。

大学進学以外の進路選択は、今回の調査対象の高校生からは極めて低い回答数であったが、「専修学校・専門学校」では「やさしい4年制大学」のケースとほぼ同じ傾向を示し、また、「家業の手伝いなど」では「小学校入学以前」ということが目についたところである。

2 大学進学における専門分野に対する意識

次に、Q13では大学・短大進学のときの、学部や専門分野に関する進路意識を聞いている。表3-3は14の選択肢を「文系」「理系」「学際系」の3つに大まかに分け、それぞれ、全体、性別、学校グループ別によってクロス集計した表である（「文系」「理系」などの分け方については細かな議論もあるが、大まかに、それぞれの分野が、人文・社会科学系と自然科学系のいずれに入るかで分類を行い、それにあてはまらない分野や芸術系は「学際系」にまとめた）

まず全体でみると、「文系」「理系」「学際系」はそれぞれ43.5%、39.1%、8.5%という割合に大きく分けられる。「文系」では人文系が最も数値が高く10.2%、「理系」では工学系の16.4%が最も高い。

性別でみると、それぞれの項目について男女差がみられることが特徴的なことである。男子ではまず「文系」を38.0%が志望し、そのうち経済学系の12.4%が最も高く、次いで人文系8.5%、法学系7.1%となる。「理系」は男子の48.0%が志望し、そのうち工学系の29.1%が最も高い。

女子ではまず「文系」を49.5%が志望し、そのうち人文系12.1%、教育系11.0%、外国

語系8.9%となる。また、家政系5.9%、福祉系4.8%も男子に比較すると注目すべき数値である。「理系」は女子の29.7%が志望し、そのうち看護・医療技術系の13.7%が最も高い。また学際系は女子の人气が高い。

また表3-4は、それぞれの系別の男女比をみたものである。これをみると、「文系」では男子は経済学系、法学系が優位にあり、女子では家政系、外国語系、福祉系が優位である。「理系」では男子は工学系、理学系が優位にあり、女子は看護・医療技術系が優位にある。

ここでは過去のデータとの比較ができないが、今回の結果だけからみても、大学進学における、性別による、いわば「棲み分け」は根強く存在するといつてよいであろう。

次に学校グループ別にみると（表3-3）Aグループでは「文系」志望が38.1%、「理系」志望が48.5%、Bグループでは「文系」志望が46.6%、「理系」志望が36.9%。Cグループでは「文系」志望が46.3%、「理系」志望が29.2%となっている。明らかに、「理系」についてはAグループが優位であることがわかる。

表3 - 3 大学や短大へ進学するとしたら、
どの分野を志望するか × 性・学校グループ (%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
文 系	人文系	10.2	8.5	12.1	8.5	13.6	7.3
	外国語系	5.6	2.5	8.9	4.5	5.7	7.0
	法学系	5.4	7.1	3.5	7.8	4.3	3.7
	経済学系	8.0	12.4	3.3	7.1	7.1	10.6
	教育系	8.5	6.1	11.0	6.7	10.3	8.1
	福祉系	2.9	1.2	4.8	1.8	2.6	5.0
	家政系	2.9	0.2	5.9	1.7	3.0	4.6
	(小計)	43.5	38.0	49.5	38.1	46.6	46.3
理 系	理学系	5.6	8.2	2.8	8.0	5.0	3.2
	工学系	16.4	29.1	2.9	21.0	15.4	11.6
	農・水産系	3.6	3.3	3.9	4.2	3.8	2.3
	医歯薬系	5.8	5.3	6.4	10.1	4.8	1.4
	看護・医療技術系	7.7	2.1	13.7	5.2	7.9	10.7
		(小計)	39.1	48.0	29.7	48.5	36.9
学 際 系	学際系	3.7	2.4	5.1	4.8	3.9	1.7
	芸術系	4.8	3.0	6.7	2.4	5.1	7.6
	(小計)	8.5	5.4	11.8	7.2	9.0	9.3
他	その他	3.3	2.7	3.9	1.9	2.9	5.8
	決めていない	5.7	5.9	5.4	4.3	4.5	9.4

表3 - 4 大学や短大で志望する分野別の男女比

(%)

		性 別	
		男 子	女 子
文 系	人文系	42.6	57.4
	外国語系	23.2	76.8
	法学系	68.6	31.4
	経済学系	79.9	20.1
	教育系	37.3	62.7
	福祉系	21.3	78.7
	家政系	3.3	96.7
理 系	理学系	76.0	24.0
	工学系	91.5	8.5
	農・水産系	47.3	52.7
	医歯薬系	46.7	53.3
	看護・医療技術系	14.3	85.7
学 際 系	学際系	33.1	66.9
	芸術系	32.5	67.5
他	その他	43.1	56.9
	決めていない	53.8	46.2

3 高校生が考える望ましい大学の選抜方法

大学の入学者選抜制度改革は、わが国の教育改革の一大テーマである。1979年に、受験競争の緩和、難問・奇問の排除、選抜方法の多様化、1期校、2期校の廃止を目指して共通1次試験が導入され、その後、共通1次試験を改善する形で1990年春から国、公、私立を問わず、全ての大学に自由な利用を認める、大学入試センター試験（「センター試験」と略称）が実施され、今日に至っている。その間も、推薦入試制度が普及し、一芸入試に代表される大学独自の入試方法が話題となる。また国公立大学においては、受験機会の複数化、多元化を図る分離分割方式の導入など、大学入試は、ますます複雑化、多様化傾向にある。

このような状況の中で、最大の当事者である高校生たちは、それらをどのように受けとめようとしているのだろうか。また、自分たちのどこを大事にし、評価してもらいたいと思っているのだろうか。

Q14では、大学・短大進学を考えている高校生たちに「どの形で大学や短大へ進学したいと思いますか」と聞いている。表3 - 5はその回答を、全体、性別、学校グループ別、および成績別にクロス分析したものである。

まず全体をみると、第一番目には「センター試験 + 志望大学の学力試験」が65.6%と圧倒的に選択率が高い。次が「志望大学の学力試験のみ」11.0%、「一般推薦で決定」7.7%である。

性別でみると、男子の方が「センター試験 + 志望大学の学力試験」に対する選択率が73.8%と多く、ここに集中している。女子の「センター試験 + 志望大学の学力試験」の選択率は56.2%で男子より低く、反対に「一般推薦で決定」(10.5%)など、多様な受験方法の選択率が男子より高い。

学校グループ別でみると、「センター試験 + 志望大学の学力試験」の選択率はAグループが80.3%と最も高く、Bグループ(66.6%)

表3 - 5 大学や短大にどの形で進学したいか × 性・学校グループ・成績

(%)

	全 体	性 別		学 校 グ ル ー プ			成 績				
		男 子	女 子	A	B	C	上	中の上	中	中の下	下
センター試験 + 学力試験	65.6	73.8	56.2	80.3	66.6	37.0	67.3	65.9	67.7	64.7	63.1
センター試験 + 面接・小論文	7.0	5.1	9.1	5.4	8.8	6.3	4.8	6.5	7.0	7.3	8.1
学力試験のみ	11.0	9.4	12.8	7.9	10.1	18.4	5.2	7.2	9.6	13.4	15.7
学力試験 + 面接・小論文	3.2	2.1	4.5	2.2	2.8	5.8	1.6	2.0	2.7	3.8	4.6
指定校推薦	3.2	2.5	4.0	1.5	3.4	6.0	6.5	3.8	3.0	3.0	2.1
一般推薦	7.7	5.2	10.5	2.1	6.6	19.6	10.9	10.7	8.0	5.5	5.0
一般推薦 + 学力試験や面接・小論文	2.4	1.9	2.9	0.6	1.7	6.9	3.6	4.0	1.8	2.2	1.3

Cグループ(37.0%)と一定の傾向がみられる。また、それとは逆に「志望大学の学力試験のみ」は、Cグループの選択率が18.4%と他のグループと比較して最も高い。「一般推薦で決定」もCグループでは19.6%の選択率であるが、Aグループでは2.1%の低さである。

また、成績別(Q8)でみると、「センター試験+志望大学の学力試験」は成績にかかわらず65%前後の選択率があるが、「志望大学の学力試験のみ」については、成績下位の方が、他の層より選択率が高いことは注目に値する。「一般推薦で決定」に対する支持はポイントは多くないが、成績上位層の方が下位層よりも高かった。

また、表3-6は、Q11の高校卒業後の大学、短大への進路と、Q14とをクロス分析したものである。これで見ると、「難関4年制大学」を志望している高校生の76.4%が「センター試験+志望大学の学力試験」を選択し

ている。「やさしい4年制大学」志望者では46.4%がこれを選択しており、「志望大学の学力試験のみ」は26.5%と「4年制大学志望者」の中では、選択率が最も高い。

以上のことから、どのようなことが考察できようか。まず、その前提として考えなければならないことは、本調査が実施された時期である。調査は1999年の2月~3月に高校2年生を対象に実施された。このことは、Q11、12でみてきたように、生徒たちは具体的な志望大学の目安は、ほぼ決めている頃である。そこから、いわば必然的に入試方法についても固まってくる。「センター試験」は、私立大学の入試にも使われだしたが、まだ圧倒的に国公立大学での採用が多い。「志望校の学力試験のみ」は、受験生にとっては一発勝負型なのでリスクも高いが、受験科目を絞り込んで、それだけに受験勉強を集中すればよいという取り組みやすさもある。「志望校の学

表3-6 「どんな大学に進学を志望するか」×「どの形で進学したいか」

(%)

	どの形で進学したいか						
	センター試験+学力試験	センター試験+面接・小論文	学力試験のみ	学力試験+面接・小論文	指定校推薦	一般推薦	一般推薦+学力試験や面接・小論文
難関4年制大学	76.4	5.6	7.8	2.3	2.4	3.6	2.0
普通4年制大学	66.0	8.8	10.1	2.6	3.0	7.7	1.9
やさしい4年制大学	46.4	10.8	26.5	3.0	3.6	8.4	1.2
短大	7.1	2.4	29.0	11.0	10.0	31.9	8.6

力試験のみ」に「やさしい4年制大学」志望者や、成績下位層の選択率が高いのは、そうした思惑もあるのではなからうか。

今回の調査では、志望大学における国、公、私立のいずれを選択するかの設定はなかったが、国、公立と私立における入試のあり方の違いや、入試の難易度、そして入試の多様化の傾向が現れている結果だと思われる。

<大学、短大進学時に

何を大事にしてほしいか>

Q14では大学の入試方法について、何を選択したいかを聞いたが、Q15ではさらに「大学や短大に進学するとき、次のようなことをどのくらい大事にしてほしいか」を、「高校の成績」から「志望動機に関する自己申告」まで、7つの項目を取り上げて聞いている。

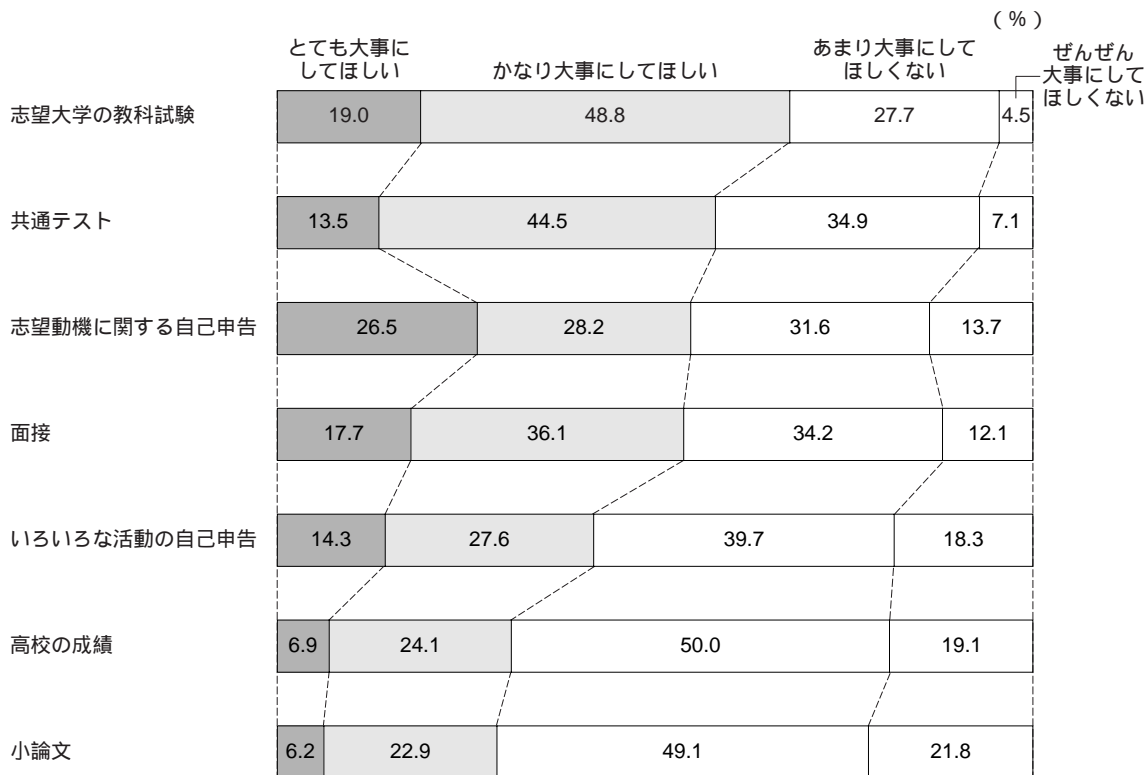
図3-1は全体の回答を「とても大事にし

てほしい」と「かなり大事にしてほしい」を合計し、数値の高い項目から並び替えたグラフである。これをみると、ベスト3は「志望大学の教科試験」(「とても・かなり大事にしてほしい」67.8%)、「共通テスト」(58.0%)、「志望動機に関する自己申告」(54.7%)である。反対に相対的に不人気の項目は「小論文」(29.1%)、「高校の成績」(31.0%)である。

最近では「小論文」のみで入試を行う大学も増えつつあるが、まだ定着していないか、または論文を書くということに、苦手意識を持つ生徒が多いのだろう。

「高校の成績」について「大事にしてほしい」が、他の項目に比べ低いことは注目すべきだろう。これは高校入試における「中学校の内申書を重視すること」に匹敵するものでもあるから、高校の普段の成績を、大学入試に反映することは、現在の入学試験のあり方を改善する1つの方法にも考えられる。しか

図3-1 大学、短大進学時に大事にしてほしいこと



し、高校生の支持はそれほど高くないということであろう。

図3 - 2は、図3 - 1の全体の数値をさらに学校グループ別にクロス集計し、A、B、Cグループごとに折れ線グラフにし、重ね合わせたものである。これをみるとAグループ

では「志望大学の教科試験」や「共通テスト」に対して、「大事にしてほしい」という要望が高く、「志望動機に関する自己申告」や、その他わずかな差であるが、他の項目においては、「大事にしてほしい」という要望は低い。

4 大学入試に対する意欲

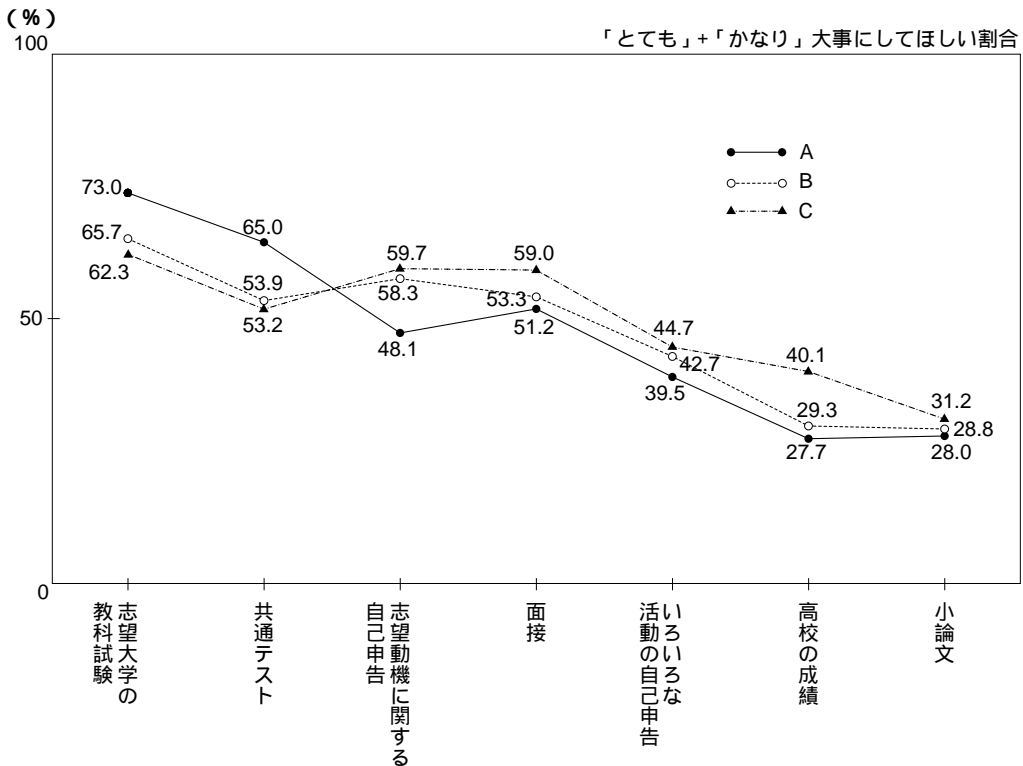
Q16では「もしも、第一希望の大学や短大に入れなかった場合、高校卒業後の進路についてどうするか」を聞いている。

図3 - 3はその回答の全体を円グラフにしたもの、また男子と女子もそれぞれ円グラフで表している。まず全体では「第二、第三希望の大学・短大に入学する」が56.5%と半数以上を占め、次いで「浪人する」22.0%とな

り、あとは6～7%台である。

性別で見ると、男子では「第二、第三希望の大学・短大に入学する」が48.7%だが、「浪人する」も28.3%と3割近くになる。女子は「第二、第三希望の大学・短大に入学する」が65.5%あり、「浪人する」は14.9%にすぎない。このことは、Q11の「高校卒業後の進路」の分析でみた進路の男女差、すなわち「難関

図3 - 2 大学、短大進学時に大事にしてほしいこと × 学校グループ



4年制大学」への志望が、男子46.1%に比べ、女子34.1%という差とも関連するだろう(ちなみに、「難関4年制大学」志望者で「浪人する」と答えた者は32.5%、「普通4年制大学」は15.3%、「やさしい4年制大学」では7.6%が「浪人する」と答えている)(表3-7)

また、表は省略したが、学校グループ別では、「浪人する」と答えた者が、Aグループ34.7%、Bグループ16.5%、Cグループ9.9%と明らかな差がみられた。

なお、成績別では顕著な差はみられなかった。

図3-3 もしも、第一希望に入れなかった場合(全体・性別)

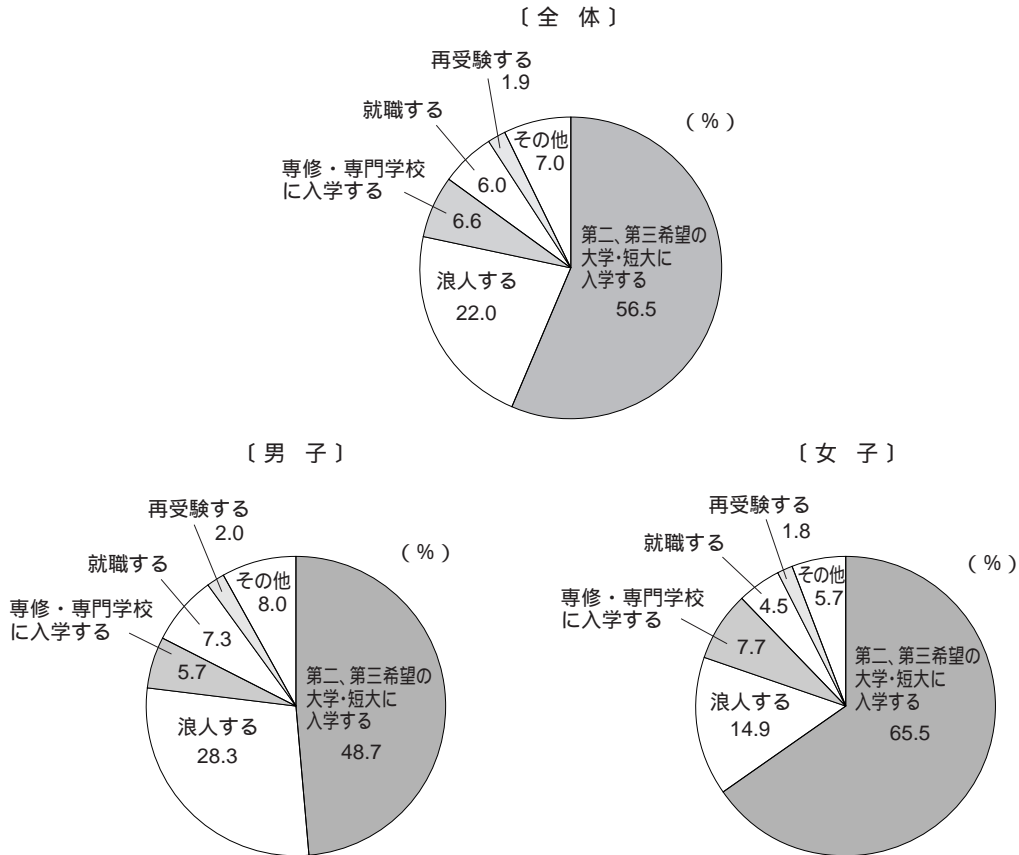


表3-7 「どんな大学に進学を志望するか」
×「もしも、第一希望に入れなかった場合」

	浪人する	第二、第三希望の大学・短大に入学する	再受験する	専修・専門学校に入学する	就職する	その他
難関4年制大学	32.5	51.0	2.0	2.9	4.2	7.2
普通4年制大学	15.3	64.2	2.0	6.4	6.0	6.1
やさしい4年制大学	7.6	53.5	1.2	15.9	14.7	7.1
短大	0.9	59.9	0.9	24.9	6.9	6.5

さて、Q17では「難関といわれる大学に（以下のような態度で取り組んだら）あなたは入学できると思いますか」と、いわば大学受験に対する熱意やがんばりを聞いている。

表3 - 8をみると、まず「このままいったら」に対する回答は全体をみても、「きっと」「なんとか」を合わせても5.4%と低い。ところが「一生懸命勉強したら」になると53.0%、「一浪してねばったら」は61.4%と高くなり、男女差もあまりみられない。

学校グループ別でみると図3 - 4に示したように、AグループとB、Cグループとでは「一浪してねばったら」「一生懸命勉強したら」において明らかな差がみられる。また、ここには示さなかったが、成績別においても同じ項目で明らかな差がみられた。

<まとめ>

本章では、高校生における進路についての意識を、特に大学、短大への進路意識を中心に述べた。今回の調査対象となった高校は、大学進学率の比較的高い高校が選ばれたので、データにもその傾向が顕著に表れたが、中でもいくつかの注目すべきことが確認できた。以下、簡単にまとめてみたい。

①今回の調査では、全体の8割以上が大学進学を考えていた。進路選択においては男女差がみられ、「難関4年制大学」は男子の方が10ポイント以上志向していた。また、学校グループ別では、意識においても進路選択に差がみられた。

②大学などの進路選択は、小学校から中学校、中学校から高校と、進学の節目において

表3 - 8 難関といわれる大学に入れるか × 性・学校グループ

(%)

	全 体	性 別		学校グループ		
		男 子	女 子	A	B	C
このままいったら	5.4	6.7	3.8	7.7	3.7	4.4
一生懸命勉強したら	53.0	57.4	47.7	64.1	46.3	45.6
一浪してねばったら	61.4	62.0	60.6	71.9	55.1	54.0

「きっと」+「なんとか」入れる割合

強く意識するようになる。「難関4年制大学」への進学を意識する高校生は、比較的早い時期から考えている。

③大学進学における専門分野の選択は、「文系」4割強、「理系」4割弱、「学際系」1割という選択であり、ここでも明らかな男女差がみられた。

また、学校グループ別ではAグループの「理系」志望傾向がみられた。

④高校生が考える望ましい大学選抜方法は「センター試験+志望大学の学力試験」が6割以上の選択志望があったが、学校グループ別、性別において差がみられた。

望ましい大学選抜というより、本調査が実施された高校2年の3学期頃になると、だいたい志望校が絞られてきており、そこから望

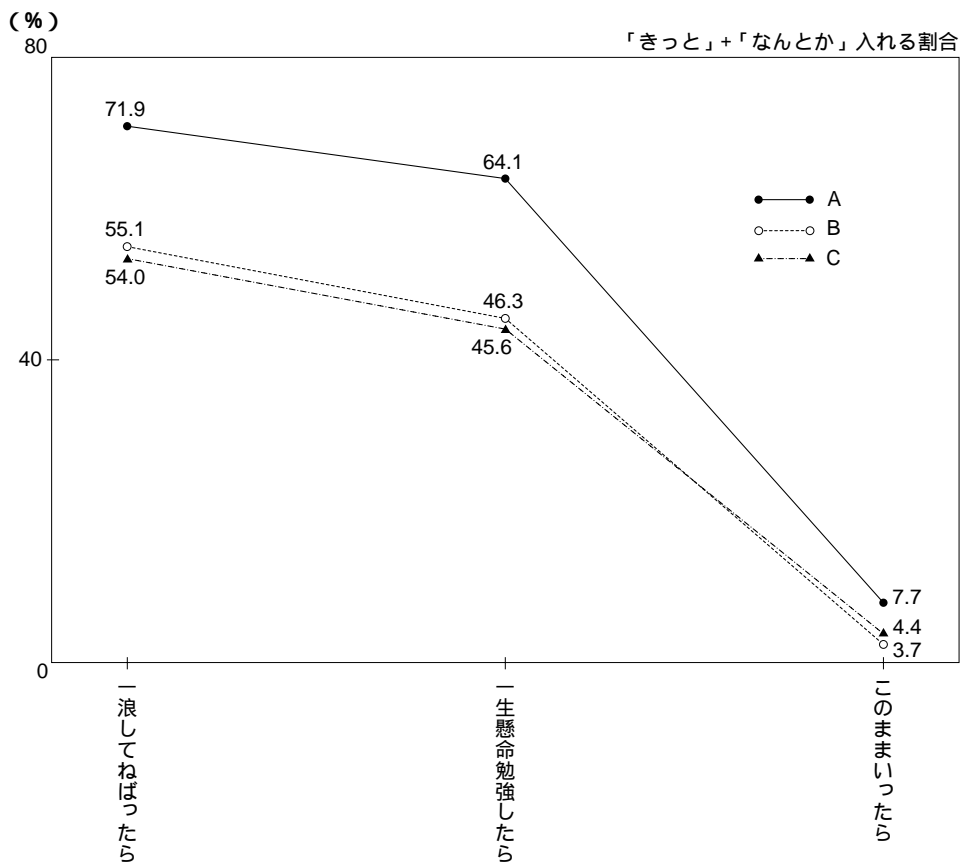
ましい選抜方法を考えている傾向がみられる。

⑤高校生が、大学の入試選抜において、何を大事にしてもらいたいかのベスト3は、「志望大学の教科試験」「共通テスト」「志望動機に関する自己申告」である。

⑥もしも、第一希望の大学に入れなかった場合、「浪人する」と回答した者は、男子に多く、また、「難関4年制大学」志望者や高校のAグループに多い。

⑦「難関大学」にはこのままでは入れないと大多数が思っているが、「一生懸命勉強したら」「一浪してねばったら」入れると半数以上が思うようになる。特に、Aグループ、成績上位者にその傾向が強い。

図3 - 4 難関といわれる大学に入れるか × 学校グループ



第4章 ||||

進路選択と大学生活への期待

進学意識の転換：＜自分らしさ＞の尊重へ？

文部省の「学校基本調査」によれば、平成10年3月の高等学校卒業生144万1千人のうち大学等へ進学した者は、前年度より若干増加し61万2千人である。大学等進学率（高等学校全卒業者のうち大学等進学者の占める比率）は42.5%で、前年度より1.8ポイント上昇している。大学等への進学率の上昇は、今年度に限ったことではなく、近年の趨勢となっている。これは主に18歳人口の減少や定員の増加の影響によると思われるが、大学への進学熱が高まり続けていることも否定できない。すなわち、「大衆受験社会」（竹内[1996]）あるいは「メリトクラシーの大衆化状況」（荻谷[1995:15-24]）とでも呼ぶべき事態が、

ますます進展しているかのようである。

しかし他方で、現在、「有名大学 有名企業 安定した幸せな生活」という学歴社会のシナリオが信憑性を失効させつつあるともいわれる。それではなぜ、何を求めて、多くの若者が大学を目指すのか？ 単なる「横並び的同調」や「慣性」なのか。あるいは、『実質』（何を学び、なにになるか）への回帰」（竹内[1996:67]）に基づく、自己実現的欲求の高まりなのであろうか。

本章では、進学校に在籍する高校生の進学意識を検討することによって、このような問題の一端を明らかにすることを試みたい。

1 進学意識の回帰？

- 受験への加熱メカニズムの転換 -

1) 受験システムの自律化と アイロニカルな没入

まず、進学意識に変化がみられるかどうかということを検討する前に、これまでの受験

競争を加熱させてきたとされる要因に目を向けてみることにしよう。ここでは、受験競争加熱の構造に関する竹内洋の説明に注目してみたい。まず竹内は、競争加熱の説明要因を、学歴収益率などの「学歴の機能的価値」（学

歴社会) 学歴への人々のまなざしといった「学歴の象徴的価値」(学歴社会)、そして相対的に自律した受験システムによってもたらされる「学歴の象徴的価値」(受験社会)の3つに分類する(図4-1)。そして、わずかな偏差値ランクにもセンシティブになっている状況は、学歴の「機能的価値」や「象徴的価値」のみでは説明されつくせないとする。すなわち、そのような競争の加熱を説明するためには、偏差値や学校のランクそれ自体が競争の報酬や意味の根拠となるような自己準拠化した受験システムが生みだす加熱メカニズムを考察する必要があるというのである(竹内[1995:85-92])。

もし、近年までの受験競争の加熱がこのような ^{メカニズム} 機制に基づいていたとすれば、まさに「競争のための競争」(竹内[1997:307])という表現があてはまる。換言すれば、「学歴社会」を「虚構」と認識しつつも、受験という行為の水準では「学歴社会」に準拠して振る舞っているかのように見えるという事態が生じうることを意味しよう。それはまさに、受験への「アイロニカルな没入」(大澤¹⁾[1996:196-231])ということができる。そう

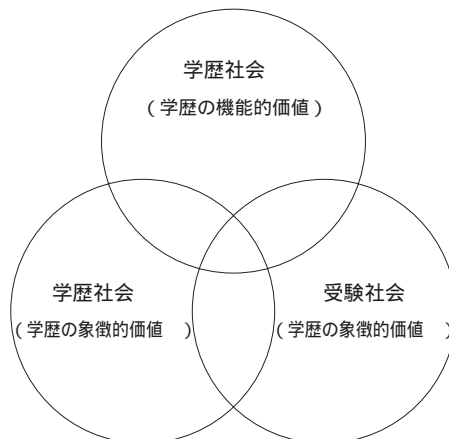
だとすれば、たとえ学歴社会のシナリオの信憑性が低下してきていたとしても、自己準拠化した受験システムの機制がそれを補完してきたことになる。

2) 自律化した受験システムの機能不全とアイロニカルな没入の終焉

現在、進学意識に何らかの変化がみられるとすれば、学歴社会のシナリオの信憑性の失効を補完してきた、自己準拠化した受験システムの機制が機能不全に陥り、新たな段階へと進展していることを意味しているのかもしれない。

本調査の結果のみから、このような点について十分に検証することは困難だが、関連すると思われる項目を検討してみることにしよう。ここでは、先に指摘した受験競争を加熱させる3つの要因に対応させる形で、「自ら希望する学部」と「就職実績」や、「大学の有名度」、「偏差値」のどちらを優先させるかという質問を検討する。無論、これらが完全な対応関係にあるとみなしているのではなく、あくまでも近似的な意識としてである。

図4-1 受験競争加熱の構造



出典：竹内洋 1995 『日本のメリトクラシー 構造と心性』 p.91より

まず、「学歴の機能的価値」に関連すると思われる項目をみとめることにしよう。表4-1のように、「就職の実績はよくないが、自分の希望する学部」と「就職の実績はよいが、自分の希望とは異なる学部」の2つに合格した場合にどちらを選ぶか、という質問をした。全体で見ると、前者が64.6%、後者が35.4%となっている。性別では、女子の方が就職の実績を重視する者が多くなっている。また学校グループ別では、Cグループで就職の実績を重視する者の割合が高くなっている。

次に、学歴への人々のまなざしといった「学歴の象徴的価値」に目を向けてみることにしよう。「あまり有名ではないが、自分の希望する学部」と「有名大学の自分の希望とは異なる学部」で、前者が83.4%、後者が16.6%となっている。就職実績に比べ、自分の希望する学部を重視する者がかなり多いことがわかる。属性別では、男子とAグループにおいて、有名大学を選ぶ者の割合が高くなっている。

最後に、「自律した受験システムによってもたらされる象徴的価値」についてみてみよう。全体で見ると、「偏差値55の大学の自分の希望する学部」と「偏差値60の大学の自分の希望とは異なる学部」で、前者が86.3%、後者が13.7%となっている。3つの質問の中でも、最も自分の希望する学部を重視する者が多いことがわかる。大学の有名度と同様、男子で偏差値を重視する者の割合が高くなっている。また、学校グループ別では、A>B>Cという高校の難易度の高い順に偏差値を重視する者が多くなっている。

これらの調査結果からすると、全体として、

学部に対する自らの希望が、「就職実績」や、「大学の有名度」「偏差値」よりも非常に優先されていることがわかる。ただし、昨今の就職状況も影響してか、「就職実績」を重視する者が他の2つに比べ多くなっている。「大学の有名度」と「偏差値」に対して自らの希望を優先する傾向は、女子とCグループにおいて顕著である。そこには、「競争のための競争」から降りることを許されない男子や成績の上位層の姿を垣間みることができる。逆に、「大学の有名度」や「偏差値」から自由になっているようにみえるが、「就職実績」を意識しなければならない女子や成績の中位層に「異なる競争」を見いだすことができるかもしれない。

全体としては、「受験システムの自律化」がもたらす欲望の喚起の機制は、あまり機能していないようである。したがって、受験へのアイロニカルな没入という事態も、もはや終焉しているといえるかもしれない。竹内が指摘するように『実質』（何を学び、なにになるか）への回帰」といえるような状況が現実化しているのだろうか。無論、時系列的な分析ではないため、この結果のみによって進学意識に変化がみられるということも指摘することはできない。また、高校2年生時点での質問紙による意識調査であることも考慮する必要がある。とはいえ、偏差値や学校のランクそれ自体が競争の報酬や意味の根拠となるような意識は、あまり強いとはいえない。以下では、このような進学意識の実態により接近するために、大学選択の基準などいくつかの項目の分析を行うことにしよう。

表4 - 1 進学意識における希望の強さ × 性・学校グループ

(%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
希望する学部と就職実績	就職の実績はよくないが、自分の希望する学部	64.6	66.3	62.7	64.4	67.7	58.9
	就職の実績はよいが、自分の希望とは異なる学部	35.4	33.7	37.3	35.6	32.3	41.1
希望する学部と有名大学	あまり有名ではないが、自分の希望する学部	83.4	79.5	88.0	80.6	85.2	85.2
	有名大学の自分の希望とは異なる学部	16.6	20.5	12.0	19.4	14.8	14.8
希望する学部と偏差値	偏差値55の大学の自分の希望する学部	86.3	83.2	89.8	80.4	89.5	90.6
	偏差値60の大学の自分の希望とは異なる学部	13.7	16.8	10.2	19.6	10.5	9.4

注) 数値は、回答者における割合。

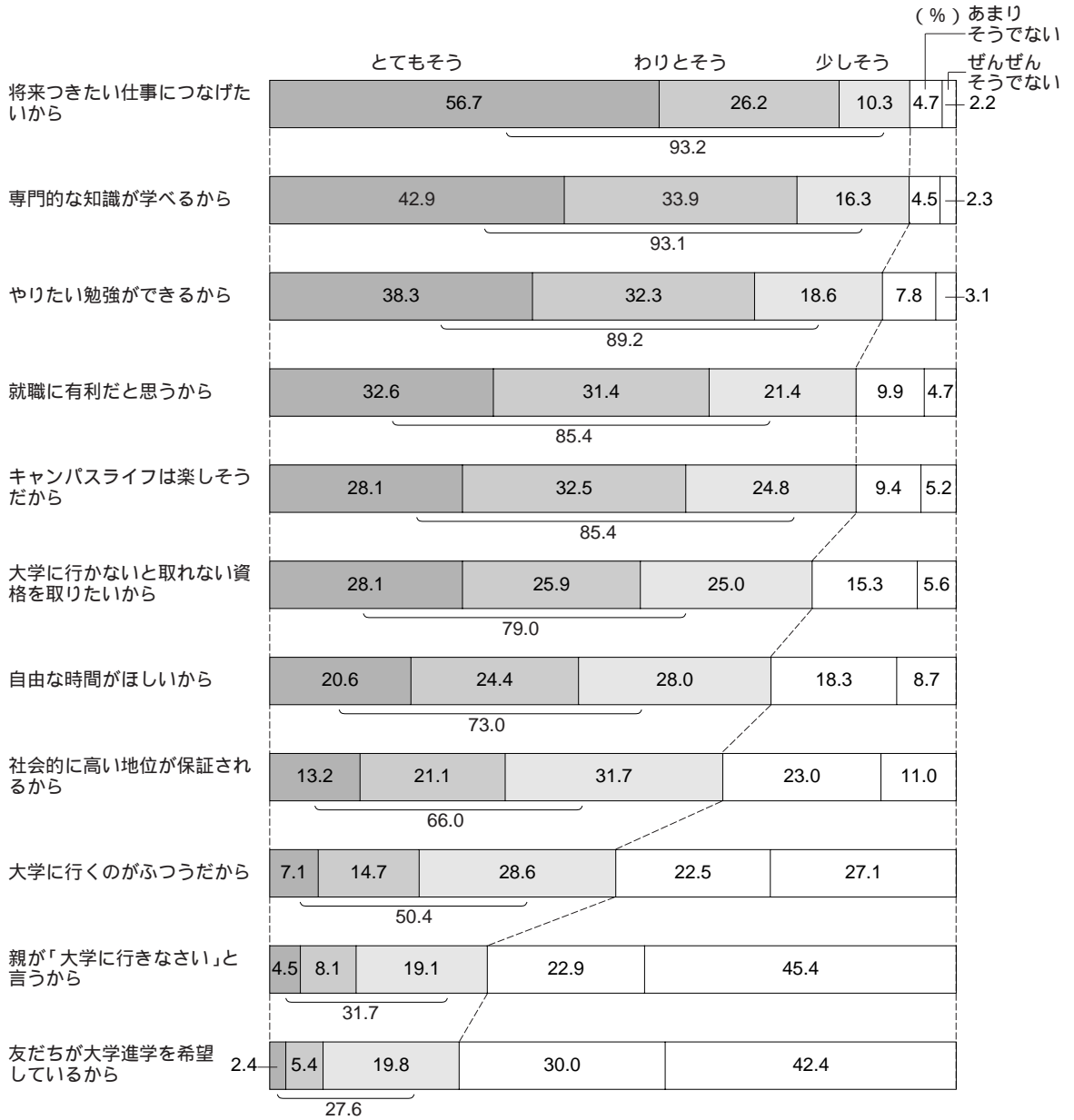
2 大学・短大へ進学する理由

1) 大学・短大へ進学する理由

まず、大学や短大へ進学する理由についてたずねた質問を検討することにしよう(図4 - 2)。肯定的な回答(「とてもそう」+「わりとそう」+「少しそう」)の割合が高いのは、「将来つきたい仕事につなげたいから」の93.2%、「専門的な知識が学べるから」の93.1%となっている。逆に肯定的な回答の割

合が少ないのは、「友だちが大学進学を希望しているから」の27.6%、「親が『大学に行きなさい』と言うから」の31.7%、「大学に行くのがふつうだから」の50.4%などである。これらの結果からすると、大学において何を勉強するかや、将来を念頭に置いた、ある意味「堅実」な理由から、多くの高校生は進学を希望しており、周囲への同調的な理由は少ないといえよう。

図4-2 大学・短大へ進学する理由



注) 数値は、回答者における割合。回答率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100.0%にならないことがある。

2) 大学・短大への進学理由に関する意識の構造

前項では、大学や短大へ進学する理由を質問ごとに検討した。さらなる検討を加えるために、本項では大学や短大へ進学する理由を構造的に把握することを試みる。そのために、因子分析という手法を用いることにしよう。因子分析は、質問項目（変数）の相互関係を分析することによって、質問項目（変数）の潜在的な関係を明らかにし、背後にある成分（因子）を取り出す手法である²⁾。前項でみた大学や短大へ進学する理由に関する11の質問に対して因子分析を行った³⁾。その結果、表4-2のような4つの因子が得られた。それぞれの因子の特徴をよく示す質問項目を取り出すと、以下ようになる。

第1因子（ 勉学志向）

- ・専門的な知識が学べるから
- ・やりたい勉強ができるから

第2因子（ 同調志向）

- ・大学に行くのがふつうだから
- ・親が「大学に行きなさい」と言うから
- ・友だちが大学進学を希望しているから

第3因子（ 就職・将来志向）

- ・就職に有利だと思ふから
- ・社会的に高い地位が保証されるから
- ・将来つきたい仕事につなげたいから
- ・大学に行かないと取れない資格を取りたいから

第4因子（ 娯楽志向）

- ・キャンパスライフは楽しそうだから
- ・自由な時間がほしいから

表4-2 大学・短大へ進学する理由についての因子分析

	因 子			
	1	2	3	4
将来つきたい仕事につなげたいから	0.481	- 0.169	0.437	- 0.023
専門的な知識が学べるから	0.899	- 0.143	0.025	- 0.031
やりたい勉強ができるから	0.816	- 0.156	- 0.045	- 0.021
就職に有利だと思ふから	- 0.012	0.142	0.807	0.155
キャンパスライフは楽しそうだから	0.059	0.130	0.121	0.744
大学に行かないと取れない資格を取りたいから	0.395	- 0.024	0.424	- 0.020
自由な時間がほしいから	- 0.115	0.190	0.104	0.736
社会的に高い地位が保証されるから	- 0.039	0.322	0.596	0.219
大学に行くのがふつうだから	- 0.141	0.762	0.116	0.141
親が「大学に行きなさい」と言うから	- 0.162	0.694	0.061	0.046
友だちが大学進学を希望しているから	- 0.063	0.646	0.077	0.215

注) 数値は各質問がどの程度その因子の特性と関連があるかを示している（バリマックス回転後の因子負荷量）。
0.899 は、各因子の特徴をよく示す項目を表している。また、マイナスは負の関係を示している。
0.481 は、所属する因子が必ずしも明瞭ではないが値が大きく、各因子の特性に関連していることを意味している。

これによって、各因子を名づけることにしよう。まず、第1因子は、大学での勉強が選択基準となっていることから、**勉学志向**と呼ぶことができる。第2因子は、自らの選択基準を持っているというよりも周囲の意向を重視していることから、**同調志向**と呼ぶことにする。第3因子は、若干の注意を要しよう。「将来つきたい仕事につなげたいから」と「大学に行かないと取れない資格を取りたい」は、第1因子にも関連を持つ項目となっている。しかし、第1因子に比べて就職や将来を重視し、大学や短大を手段的にみている側面がある。したがって、この因子を**就職・将来志向**と名づけることにする。第4因子は、一昔前に言われた「レジャーランド」としての大学への期待に近いと思われる。そこで、**娯楽志向**と呼ぶことにしよう。モラトリアムとしての大学生活への期待とも考えられるので、「娯楽」という言葉は必ずしも適切ではないかもしれない。しかし、勉学や就職との対比的な意味を明らかにするものと理解していただきたい。

なお、この4つの因子は、回答者に4つのグループが存在していることを意味しているのではない。これらの傾向（因子）は、強弱の差こそあれ、個人の中に共存していると考えられる。つまり、回答者のグループを意味するのではなく、質問項目を4つのグループに分け分析することができるということである。

3) 性別・学校グループ別にみた 大学・短大へ進学する理由

次に、前項の4つの因子に基づき、大学や短大へ進学する理由の性別・学校グループ別の差異をみてみることにしよう（表4-3³⁾）。

勉学志向 に関する2つの質問では、どちらも女子の方が肯定的回答の割合が高くなっている。学校グループによる差異は必ずしも見いだせないが、「やりたい勉強ができるから」において、Cグループの肯定的回答の割合が低くなっている。

同調志向 では、**勉学志向** とは逆に男子の方が肯定的な回答が多いことがわかる。学校グループ別では、「大学に行くのがふつうだから」という質問で差異があまりみられないものの、他の2つの項目ではC > B > Aという順序で、肯定的な回答の割合が多くなっている。

就職・将来志向 では、統一的な傾向を見いだすのは、困難である。性別では、「社会的に高い地位が保証されるから」で男子が、「大学に行かないと取れない資格を取りたいから」で女子の肯定的な回答が高くなっているのが注目される。学校グループ別では、全体として、Cグループの肯定的な回答の割合が高くなっている。

娯楽志向 に関する質問では、「自由な時間がほしいから」というモラトリアムとしての大学に対する期待が、女子よりも男子において、かなり高くなっている点が特徴的である。学校グループ間での差異は、あまり大きくないといえよう。

全体としてみると、男子が自由な時間を求め、周囲に流される傾向が強いのに対して、女子は勉学や資格など明確な目的意識を持って大学進学を考えているようである。また、高校の難易度が相対的に低いCグループでは、堅実ではあるが、「やりたい勉強」よりも「資格」や「社会的地位」など将来を保証してくれるものとして、大学を手段的にみている様子をうかがうことができる。

表4 - 3 大学・短大へ進学する理由 × 性・学校グループ

(%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
勉学志向	専門的な知識が学べるから	93.1	91.6	94.9	93.3	93.6	92.1
	やりたい勉強ができるから	89.2	86.4	92.3	91.0	90.0	84.2
同調志向	大学に行くのがふつうだから	50.4	56.0	43.9	51.8	50.2	48.3
	親が「大学に行きなさい」と言うから	31.7	35.8	26.7	28.9	32.2	35.7
	友だちが大学進学を希望しているから	27.6	32.8	21.6	25.7	28.0	30.2
就職・将来志向	就職に有利だと思うから	85.4	85.3	85.3	83.6	85.4	88.7
	社会的に高い地位が保証されるから	66.0	69.5	62.1	66.0	63.6	71.0
	将来つきたい仕事につなげたいから	93.2	92.1	94.2	92.8	93.1	93.8
	大学に行かないと取れない資格を取りたいから	79.0	76.3	82.1	77.0	79.6	81.5
娯楽志向	キャンパスライフは楽しそうだから	85.4	88.4	86.5	84.4	86.6	84.8
	自由な時間がほしいから	73.0	78.3	66.8	71.9	73.1	74.6

注) 数値は、回答者における「とても」+「わりと」+「少し」その割合。

就職・将来志向の----以下の2つの項目は勉学志向とも関連がみられ、必ずしも所属する因子が明瞭ではない。

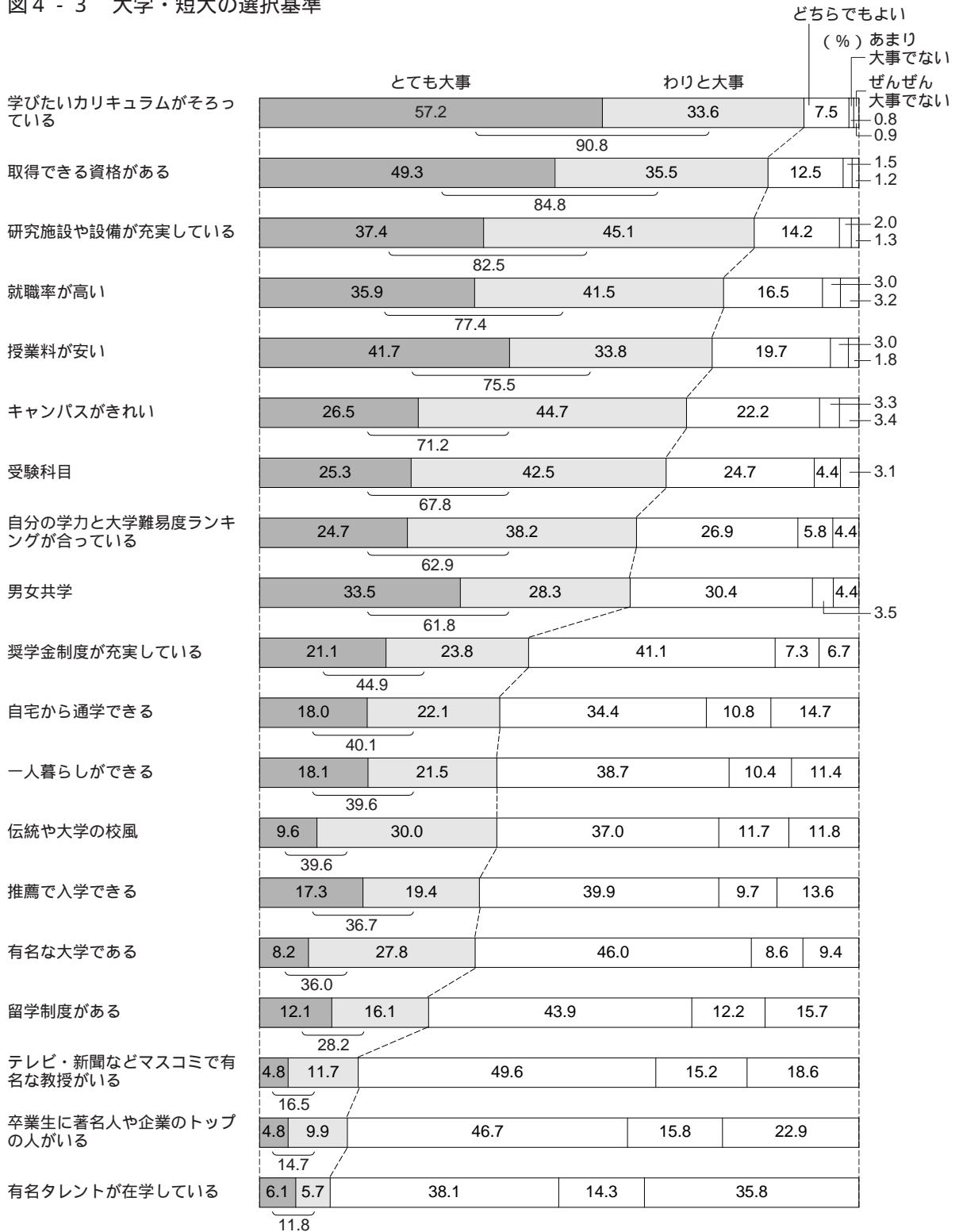
3 大学・短大を選択する基準

1) 大学・短大の選択基準

本節では、大学や短大を選択する際の基準についてみていくことにしよう。図4-3のように、大学・短大の選択基準について19の質問をしている。まず、「とても大事」と「わりと大事」を合わせた「大事」の割合が最も高いのは、「学びたいカリキュラムがそろっている」で、90.8%となっている。以下高い順に、「取得できる資格がある」が84.8%、「研究施設や設備が充実している」が82.5%、「就職率が高い」が77.4%である。また、現在の経済状況を反映してか、「授業料が安い」

も75.5%と、4分の3以上が「大事」と回答している。逆に、「大事」の割合が少ない項目は、「有名タレントが在学している」の11.8%、「卒業生に著名人や企業のトップの人がいる」の14.7%、「テレビ・新聞などマスコミで有名な教授がいる」の16.5%となっている。大学の関係者が有名であるかどうかは、選択の基準にほとんど影響を与えないようである。さらに、「有名な大学である」も36.0%と、19問中で5番目に「大事」の回答率が低くなっており、「有名」ということに左右されない、高校生たちの「堅実」ともいえる大学選択の意識を読みとることができる。

図4 - 3 大学・短大の選択基準



注) 数値は、回答者における割合。回答率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100.0%にならないことがある。

2) 大学・短大の選択基準に関する意識の構造

前節では、大学・短大の選択基準を質問ごとに検討してきた。本節では、大学・短大の選択基準に関する意識を構造的に把握することを試みよう。そのために、前節と同様に、因子分析を行うことにする⁵⁾。表4-4のように、大学・短大の選択基準に関する19の質問に対して因子分析を行った結果、5つの因子が得られた。それぞれの因子の特徴をよく示す質問項目を取り出すと、以下のようになる。

第1因子（有名度重視）

- ・卒業生に著名人や企業のトップの人がいる
- ・テレビ・新聞などマスコミで有名な教授がいる
- ・有名な大学である
- ・有名タレントが在学している

第2因子（大学手段視）

- ・受験科目
- ・自分の学力と大学難易度ランキングが合っている
- ・就職率が高い
- ・取得できる資格がある
- ・授業料が安い

第3因子（大学目的視）

- ・学びたいカリキュラムがそろっている
- ・研究施設や設備が充実している

第4因子（制度重視）

- ・奨学金制度が充実している
- ・推薦で入学できる

第5因子（一人暮らし重視）

- ・一人暮らしができる
- ・自宅から通学できる（負の関係）

これによって、各因子を名づけてみよう。まず、第1因子は、有名度が選択の基準となっていることから、有名度重視と呼ぶことができる。第2因子は、一見解釈が難しい。受験に関する項目を重視している側面も強いが、大学自体に意味を見いだすというよりも、将来の手段とみなしていることから、大学手段視と名づけることができる。「手段的」という言葉は、否定的な意味で使用しているのではなく、大学の勉学自体を重視する第3因子との対比を明らかにするものである。第3因子は、今述べたように、大学の勉学自体を目的視しているの、大学目的視と名づけることにする。第4因子も、解釈が難しい。奨学金制度を重視し、授業料の安さとも正の関係にあるため、経済的な側面に対する配慮とも思われる。推薦での入学も、浪人したりする場合に比べ経済的な負担が軽くなることから、「親孝行志向」とでも名づけるべきかもしれない。しかし、「留学制度」とも正の関係にあるので、無難に制度重視と呼ぶことにしよう。第5因子は、「自宅から通学できる」と負の関係にあり、「一人暮らし」と正の関係にあることから一人暮らし重視と呼ぶことができる。なお、繰り返しになるが、5つの因子は、回答者に5つのグループが存在していることを意味しているのではない。

表4 - 4 大学・短大の選択基準の因子分析

	因 子				
	1	2	3	4	5
学びたいカリキュラムがそろっている	- 0.061	0.125	0.740	0.102	- 0.049
取得できる資格がある	- 0.006	0.412	0.298	0.219	- 0.044
研究施設や設備が充実している	0.080	0.131	0.726	0.078	0.093
就職率が高い	0.242	0.507	0.085	0.201	- 0.017
授業料が安い	- 0.077	0.405	0.089	0.331	0.083
キャンパスがきれい	0.217	0.332	0.159	0.237	0.270
受験科目	0.068	0.584	0.087	0.024	0.039
自分の学力と大学難易度ランキングが合っている	0.096	0.543	0.042	0.027	- 0.027
男女共学	0.137	0.284	- 0.016	0.197	0.361
奨学金制度が充実している	0.042	0.148	0.161	0.612	0.039
自宅から通学できる	0.105	0.260	- 0.055	0.238	- 0.484
一人暮らしができる	0.222	0.057	- 0.006	0.064	0.739
伝統や大学の校風	0.282	0.088	0.270	0.081	0.022
推薦で入学できる	0.182	0.220	- 0.013	0.520	- 0.062
有名な大学である	0.597	0.219	0.038	- 0.036	0.137
留学制度がある	0.287	- 0.039	0.145	0.373	0.045
テレビ・新聞などマスコミで有名な教授がいる	0.720	0.033	0.093	0.094	0.048
卒業生に著名人や企業のトップの人がいる	0.752	0.062	- 0.017	0.141	- 0.002
有名タレントが在学している	0.493	0.110	- 0.231	0.232	0.210

注) 数値は各質問がどの程度その因子の特性と関連があるかを示している(バリマックス回転後の因子負荷量)。□は、各因子の特徴をよく示す項目を表している。また、マイナスは負の関係を示している。

3) 性別・学校グループ別にみた 大学・短大の選択基準

それでは、各因子ごとに選択基準の性別・学校グループ別の差異をみてみることにしよう(表4-5)。

有名度重視 に関する4つ質問では、男子の方が肯定的な回答の割合が高くなっている。学校グループ別では、「有名タレントが在学している」以外は、ほぼA>B>Cの順で肯定的回答の割合が高くなっている。

大学手段視 では、有名度重視 とは逆に女子の方が肯定的な回答がかなり多いことがわかる。学校グループ別では、すべての質問において、C>B>Aという順序で肯定的な回答の割合が多くなっている。

大学目的視 では、女子の方が肯定的な回答の割合がかなり高くなっている。学校グループ別では、A>B>Cの順で肯定的回答をしているものの割合が多くなっている。

制度重視 に関する質問も、女子の方が肯定的な回答の割合がかなり高くなってい

る。特に「推薦で入学できる」では、15ポイント以上の差がみられる。学校グループ別では、C>B>Aという順序で肯定的な回答の割合が多くなっている。「推薦で入学できる」のCグループとAグループの差は、37ポイントにも達している。

一人暮らし重視 に関しては、地域的な偏りまで含めて検討しなければ意味をなさないと思われるので、詳細なコメントは差し控えることにする。ただし、現在でも女子は、自宅通学がかなりの程度、条件となっているということは指摘できよう。

これらの結果からすると、女子の方が、受験から、大学での勉強、経済的な負担、そして就職まで、多くの基準で大学を慎重に選択する傾向があるといえよう。学校グループ別にみると、難易度の高い学校グループほど、大学での勉学を最も重視する反面、有名さの程度ということにも配慮している。難易度の低い学校グループほど、受験や、経済的な負担、将来の職業などを視野に入れた選択基準を持っているということがわかる。

表4 - 5 大学・短大の選択基準 × 性・学校グループ

(%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
有名度重視	卒業生に著名人や企業のトップの人がいる	14.7	16.1	13.0	17.0	12.7	14.1
	テレビ・新聞などマスコミで有名な教授がいる	16.5	18.6	14.1	21.3	15.3	10.3
	有名な大学である	36.0	41.0	30.3	44.9	32.5	27.0
	有名タレントが在学している	11.8	17.3	5.4	9.9	10.9	17.3
大学手段重視	受験科目	67.8	65.3	70.6	64.0	69.6	71.4
	自分の学力と大学難易度ランキングが合っている	62.9	59.1	67.3	57.8	65.0	68.2
	就職率が高い	77.4	72.8	82.5	72.0	77.8	86.4
	取得できる資格がある	84.8	80.2	90.1	81.9	84.5	90.7
	授業料が安い	75.5	72.6	78.9	71.9	77.6	77.9
大学目的重視	学びたいカリキュラムがそろっている	90.8	86.9	95.4	92.3	91.2	87.4
	研究施設や設備が充実している	82.5	80.5	84.8	85.0	83.4	75.8
制度重視	奨学金制度が充実している	44.9	42.2	48.1	41.0	46.3	49.3
	推薦で入学できる	36.7	29.6	45.1	22.1	38.9	59.4
一人暮らし重視	一人暮らしができる	39.6	47.8	30.4	38.8	41.9	36.4
	自宅から通学できる	40.1	34.1	47.1	36.2	36.4	54.5
その他	キャンパスがきれい	71.2	70.1	72.6	67.7	72.5	75.0
	男女共学	61.8	67.3	55.3	61.3	62.3	61.2
	伝統や大学の校風	39.6	31.8	48.7	39.1	41.5	36.5
	留学制度がある	28.2	22.9	34.4	30.2	27.7	26.0

注) 数値は、回答者における「とても」+「わりと」大事の割合。

4 大学生活への期待

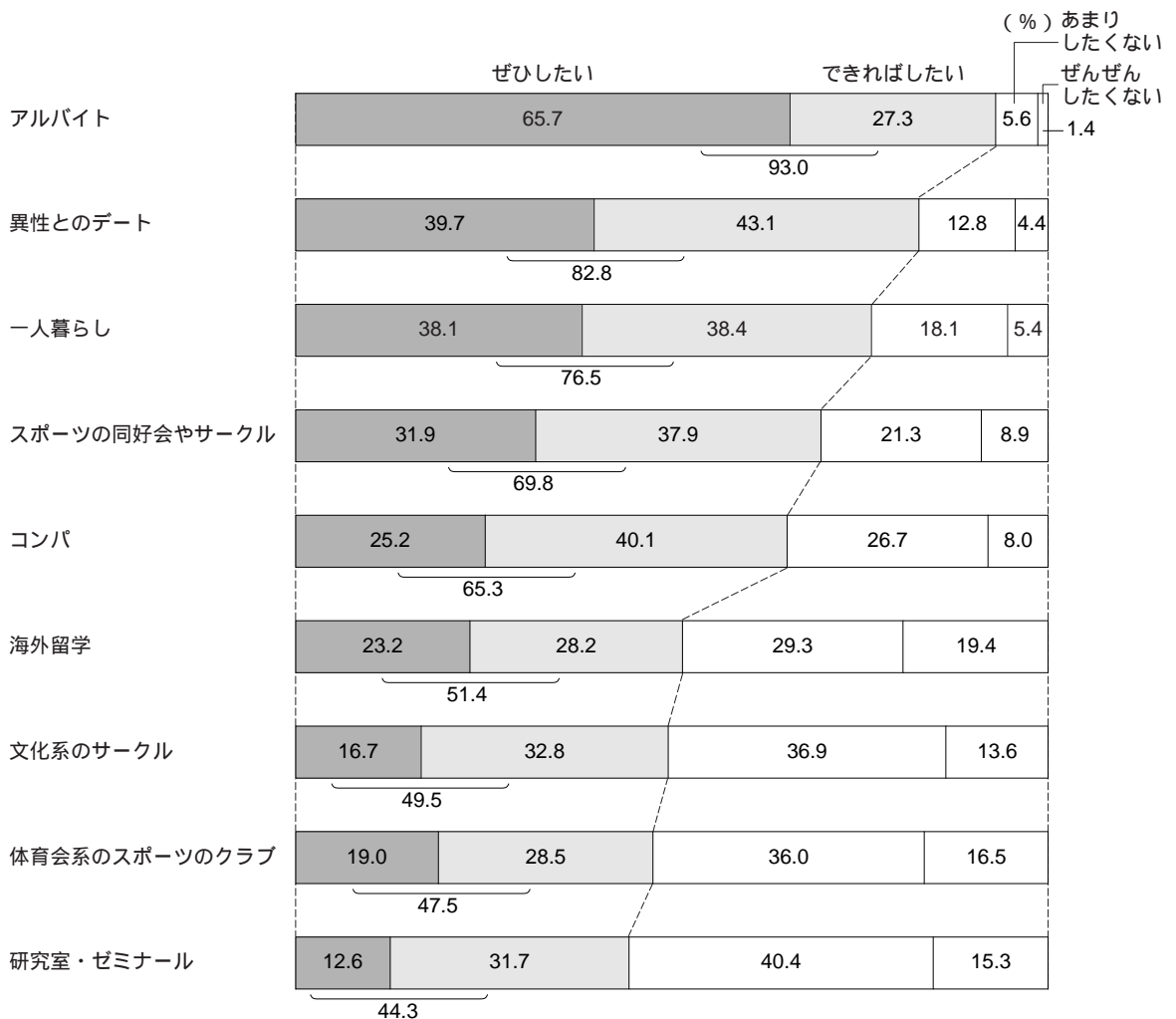
1) キャンパスで体験したいこと

本節では、これまでとは若干異なる角度から大学生活への期待をみてみることにしよう。現在の高校生たちは、キャンパスでどのようなことを体験したいと考えているの

うか。ここでのキャンパスとは、「大学生活」のことを意味している。

まず、単純集計から全体の回答傾向をみてる(図4-4)。「ぜひしたい」と「できればしたい」を合わせた「体験したい」で高い回答率になっているのは、「アルバイト」の

図4-4 キャンパスで体験したいこと



注) 数値は、回答者における割合。回答率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100.0%にならないことがある。

93.0%、「異性とのデート」の82.8%、「一人暮らし」の76.5%である。逆に、体験したいが低いのは、「研究室・ゼミナール」の44.3%、「体育会系のスポーツのクラブ」の47.5%、「文化系のサークル」の49.5%などで、5割に満たない。このようにみると、2節と3節でみた進学する理由や選択基準に比べ、勉学よりも遊びに関する項目が高い割合となっている。特に、「研究室・ゼミナール」を体験したいとする回答が最も低くなっており、進学する理由や選択基準と矛盾しているようにもみえる。もしかすると、「研究室・ゼミナール」という選択肢の意味が高校生に十分に伝わっていないのかもしれない。しかし、近年では、大学見学や学校説明会も盛んに行われ、受験雑誌等でも研究室やゼミナールについての記述が多くみられる。とすれば、進学する理由や選択基準は建前で、実際には大学生活

における娯楽的要素を望んでいるのだろうか。この点については、今後、もう少し詳細な質問を行うなどして明らかにすることが必要であろう。

2) キャンパスで体験したいことに関する意識の構造

今回の調査から、上記のような進学する理由や選択基準との矛盾とも呼べるような高校生たちの意識を十分に明らかにすることは困難だと思われるが、もう少し検討を加えることにしよう。そこで本項では、前節までと同様に、因子分析を行うことにする⁶⁾。表4-6のように、キャンパスで体験したいことに関する9つの質問に対して因子分析を行った。その結果、3つの因子が得られた。それぞれの因子の特徴をよく示す質問項目を取り出すと以下ようになる。

表4-6 キャンパスで体験したいことに関する因子分析

	因 子		
	1	2	3
アルバイト	0.422	0.093	0.054
異性とのデート	0.711	0.174	0.007
一人暮らし	0.409	0.111	0.061
スポーツの同好会やサークル	0.303	0.754	0.098
コンパ	0.748	0.138	0.093
海外留学	0.179	0.189	0.220
文化系のサークル	0.144	0.016	0.648
体育会系のスポーツのクラブ	0.142	0.814	0.052
研究室・ゼミナール	-0.047	0.070	0.674

注 数値は各質問がどの程度その因子の特性と関連があるかを示している(バリマックス回転後の因子負荷量)。□は、各因子の特徴をよく示す項目を表している。また、マイナスは負の関係を示している。

第1因子(娯楽体験)

- ・コンパ
- ・異性とのデート
- ・アルバイト
- ・一人暮らし

第2因子(スポーツ体験)

- ・体育会系のスポーツのクラブ
- ・スポーツの同好会やサークル

第3因子(勉学体験)

- ・研究室・ゼミナール
- ・文化系のサークル

これによって、各因子を名づけてみよう。なお繰り返しになるが、因子は回答者のグループ分けを意味するのではない。まず、第1因子は、遊びや娯楽的要素が強いことから、娯楽体験と呼ぶことができる。第2因子は、同好会や、サークル、体育会の形式にかかわらず、スポーツを重視しているのでスポーツ体験と呼ぼう。第3因子は、勉学について重視している項目のように思われる。

「文化系のサークル」は、必ずしも勉強に関連しているとはいえないかもしれない。しかし、高校などにおいては勉強的な性格を強く持っており、高校生たちにとっては「まじめ」という印象が強いのではないかと思われる。したがって、勉学体験と名づけることにしよう。

3) 性別・学校グループ別にみた
キャンパスで体験したいこと

それでは、このようなキャンパスで体験したいことについての意識を、性別・学校グループ別にみとみることにしよう(表4-7)。

娯楽体験に関する質問は、全般的に女子よりも男子において、体験したいがかなり高くなっている点が特徴的である。学校グループ間での差異は、あまり大きくないといえよう。

スポーツ体験に関しても、女子より男子において、体験したいがかなり高くなっている。学校グループ間での差異は、あまりみられない。

表4-7 キャンパスで体験したいこと × 性・学校グループ

(%)

		全 体	性 別		学校グループ		
			男 子	女 子	A	B	C
娯 楽 体 験	コンパ	65.3	70.2	59.7	66.1	64.9	64.9
	異性とのデート	82.8	84.9	80.3	82.8	82.9	82.7
	アルバイト	93.0	91.2	94.8	91.5	93.6	94.3
	一人暮らし	76.5	84.2	67.6	75.0	78.2	75.6
ス ポ ー ツ 体 験	体育会系のスポーツのクラブ	47.5	53.4	40.8	47.6	48.1	46.3
	スポーツの同好会やサークル	69.8	72.5	66.4	70.9	70.2	66.9
勉 学 体 験	研究室・ゼミナール	44.3	45.8	42.5	52.8	42.8	31.5
	文化系のサークル	49.5	45.7	53.8	51.4	48.9	47.2
そ の 他	海外留学	51.4	44.3	59.5	55.0	50.9	45.7

注) 数値は、回答者における「ぜひ」+「できれば」したい割合。

勉学体験 に関する質問では、男女別の差異に特定の傾向を見いだすことはできないが、「文化系のサークル」で、女子の肯定的回答の割合が高くなっている。学校グループ別では、 $A > B > C$ の順で高くなる傾向があることがわかる。特に、「研究室・ゼミナール」に関しては、その差は非常に大きなものとなっている。

3つの因子のどれにも明瞭に所属しない

「海外留学」は、女子の方がかなり高くなっている。学校グループ別では、 $A > B > C$ の順で高くなっている。

これらの結果からすると、女子に比べ男子は、娯楽やスポーツなど勉強以外の体験への期待が強いようである。また、学校グループ別にみると、難易度の高い学校グループの方が、勉強に関連した体験を期待しているといえよう。

5 まとめ

自分らしさ の重視と 自分らしさ への加熱

1) まとめ

それでは、これまでの分析結果をまとめることにしよう。

学部や大学の選択において、多くの高校生たちは、「就職実績」や「大学の有名度」、「偏差値」よりも自らの希望を重視している。ただし、昨今の就職状況も影響してか、女子とCグループで「就職実績」を重視する傾向がある。その反面、「大学の有名度」や「偏差値」からの自由度は高い。

大学・短大へ進学する理由は、大学において何を勉強するかや、将来を念頭に置いた、ある意味で「堅実」な選択基準が重視され、周囲への同調的な理由は少ない。男子が自由な時間を求め周囲に流される傾向が強いのに対して、女子は勉学や資格など明確な目的意識を持って大学進学を考えている。高校の難易度が低いほど、「やりたい勉強」よりも「資格」や「社会的地位」など将来を保証してくれるものとして、大学を手段的にみている。

大学・短大の選択基準では、「有名」ということに左右されない、高校生たちの「堅実」ともいえる意識を読みとることができる。女子の方が、受験から、大学での勉強、経済的な負担、そして就職まで、多くの選択基準

によって慎重に選択している。高校の難易度が高いほど、大学での勉学を重視する反面、有名さの程度ということにも影響を受けやすい。逆に難易度が低いほど、受験や、経済的な負担、将来の職業などを視野に入れた選択基準を持っている。

大学生生活への期待では、進学する理由や選択基準に比べ、勉学よりも遊びの要素が強い。また、女子に比べ男子は、娯楽やスポーツなど勉強以外の体験への期待が強い。難易度の高い高校ほど、勉強に関連した体験を期待している。

全体としては、竹内が指摘するように『「実質」(何を学び、なにになるか)への回帰』といえるような、自分らしさを 大切にしたい堅実な進学意識を見いだすことができるといえよう。

2) 自分らしさ の重視と 自分らしさ への加熱

最後に、本調査の結果に対する全体的な考察を行うこととしよう。高校生の進学意識には、「何を学び、なにになるか」ということを重視するような「堅実」で、自らの明確な意思に基づく選択基準がみられた。しかしながら本当にそれは、竹内のように「実質への

回帰」と呼ぶべきものなのだろうか。確かにそれは、教育(学)的には本来あるべき姿への回帰と評価されるものかもしれない。しかし、社会的には、異なる観点からの分析も可能なように思われる。

まず、回帰というには、以前にそのような意識が存在していたことが前提となるわけだが、はたしてそのような時代が存在していたのだろうか。竹内自身が明らかにした受験の歴史からすれば、答えは否であろう(竹内[1991, 1997])。したがって、このような意識が、現在、台頭し始めているとすれば、新たな問題として考察される必要がある。すなわち、消費の領域で展開されてきた、「自己」に焦点化した資本による欲望喚起のメカニズムの教育への導入という観点である。つまり、新たなアスピレーションの加熱、欲望の喚起、動機付けのテクノロジーの台頭として考察される必要があるように思われるのである。

最近の大学受験情報誌では、「自分のための大学選び…」や、「自分にいい大学…」「個性重視で…」というような、自分や個性という言葉が頻りに目にする。また、大学に入学しても、「自己発見テスト」を行う大学が現れているという(朝日新聞 1999/7/16夕刊)さらに、ブームという状況は去ったかもしれないが、主に文系を中心とした大卒就職においては、「自己分析」が定着してきている(『アエラ』1996/5/27)。それは、 \times 式のような簡単なものではない(例えば、杉村[1999]を参照)。同様に、雇用の流動化が叫ばれる中で、転職活動においても「自己分析」が強

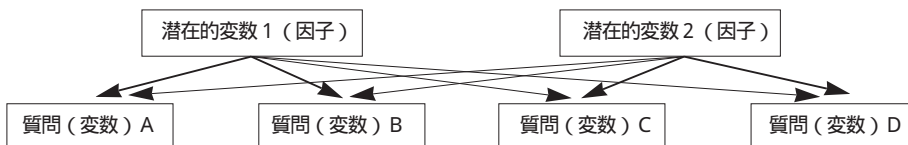
調されている。若者たちは、「自分らしい」基準で大学を選び、大学に入学して「自己発見テスト」を受け、就職活動において「自己分析」し、転職活動でまた「自己分析」をする。常に、「自己」を問われ続ける。それらは、受験や勉強、あるいは現在の仕事を将来のための単なる手段として位置づけるだけでなく、現在のコンサマトリーな意識にも忠実に、それ自体意味あるものとして位置づけつつ、我々を加熱し続けるシステムといえる。

確かに、『モノグラフ・高校生』vol.56でもみたように、高校生の多くは「自分らしさ」を持ち、それを非常に大切にしている。しかしその一方で、その「自分らしさ」は必ずしも確固としたものではなかった(岩田[1999])。そのような観点からみれば、自分らしさや個性という基準を過度に強調した進路選択システムは、自分らしさを確かなものとする契機となる可能性だけでなく、「自分らしさを追求すること自体が、逆に、自分らしさを確定することを妨げる」(芳賀[1999: 26])という事態を生み出す問題性をも秘めているように思われる。

進学意識は、回帰しているのではなく、転換しているのではなからうか。このような意識の転換は、一見すると手放して歓迎すべきもののようにも思われるのだが、そこに陥穽はないのか。このような意識の転換は、そしてその基底にある社会システムの変容は、我々をいかなる方向へと導いてゆくのか、より一層の検討が必要とされているように思われるのである。

[注]

- 1) 大澤は、受験に関してこの用語を使用しているのではない。また、ここでの意味が、大澤のものとは厳密には一致していない点もお断りしておく。
- 2) 詳細は専門書にゆずるが、イメージとしては以下ようになる。因子は、潜在的な未知の変数であり、実際に測定された変数間の相互関係から抽出される。



- 3) 因子抽出には主因子法を用い、回転法はkaiserの正規化を伴うバリマックス回転による。また、質問紙とは逆に、肯定的な回答から順に5点から1点の点数を与えている。
- 4) 因子分析を行ったのであるから、各回答者が因子の特性をどのくらい備えているかを示す因子得点をもとめ、分析することも可能である。ここでは、「モノグラフ」という媒体の性格から、各因子に所属する質問項目を分析するという形式を採用した。
- 5) 上記の注の2と3を参照。
- 6) 因子抽出には主因子法を用い、回転法はkaiserの正規化を伴うバリマックス回転による。また、質問紙とは逆に、肯定的な回答から順に4点から1点の点数を与えている。上記の注の2も参照。

[参考・引用文献]

- Giddens, Anthony 1991 *Modernity and Self-Identity: Self and Society in Late Modern Age*, Stanford University Press.
- 芳賀 学 1999 「自分らしさのパラドクス」 富田英典・藤村正之編 『みんなぼっちの世界 - 若者たちの東京・神戸90's - 展開編 - 』 恒星社厚生閣
- 岩田 考 1999 「友人関係の現在 - 友人関係・自己意識・不安 - 」 深谷昌志監修 『高校生の他者感覚 - ゆるやかな人間関係の持ち方 - 』 (『モノグラフ・高校生』 vol.56) ベネッセ教育研究所
- 苅谷剛彦 1995 『大衆教育社会のゆくえ - 学歴主義と平等神話の戦後史 - 』 (中公新書1249) 中央公論社
- 大澤真幸 1996 『虚構の時代の果て - オウムと世界最終戦争 - 』 (ちくま新書073) 筑摩書房
- 竹内 洋 1991 『立志・苦学・出世 - 受験生の社会史 - 』 (講談社現代新書1038) 講談社
- 1995 『日本のメリトクラシー - 構造と心性 - 』 東京大学出版会
- 1996 「大衆受験社会と学卒労働市場：対応と揺らぎ」 日本労働社会学会編集委員会編 『「企業社会」と教育』 (日本労働社会学会年報7) 東信堂
- 1997 『立身出世主義 - 近代日本のロマンと欲望 - 』 (NHKライブラリー64) 日本放送出版協会

[参考資料]

- アエラ 1996/5/27 (No.21) 『自己分析』 がキーワード』 朝日新聞社
- 朝日新聞 1999/7/16 (夕刊) 「新入生諸君、本日は自己発見テストを行う」
- 杉村太郎 1999 『絶対内定2000』 マガジンハウス

第5章 ||||

高校生の学歴意識と将来像

高校生は、学歴についてどのような考え方を持っているのか。また、どのような将来像を描いて、現在を過ごしているのか。本調査対象となった高校生の大半は大学進学を経験した後、それぞれの道に進むであろう。「や

がて社会に出る」高校生が、将来についてどのような意識を持っているのだろうか。彼らの持つ学歴意識と将来像のかかわりをみていく。

1 学歴社会信仰の浸透

高校生に、学歴社会あるいは学校歴社会はどのように意識されているのであろうか。高学歴であればあるほど、収入が多くて、地位の高い職業につきやすいという調査研究結果がいくつか存在し、学歴社会に関連する言説も多い。このような学歴が社会にもたらすイメージをみていこう。学歴に関する質問について、高校生の単純回答をグラフにしたものが図5-1である。

4つの質問項目とも、半数近くが肯定的な回答を示す。中でも、「有名大学に行けば、自分の希望する職業につける可能性が高くなる」に67.7%が、そのようになると思っている。高校生の意識面においては、今の社会と学歴（学校歴）とは関連があるものとされて

いるようだ。

それでは、性別、学校グループ別で、この意識を細かくみよう（表5-1）。各質問に「とても・まあそう思う」と回答する割合だけを取り出してみた。

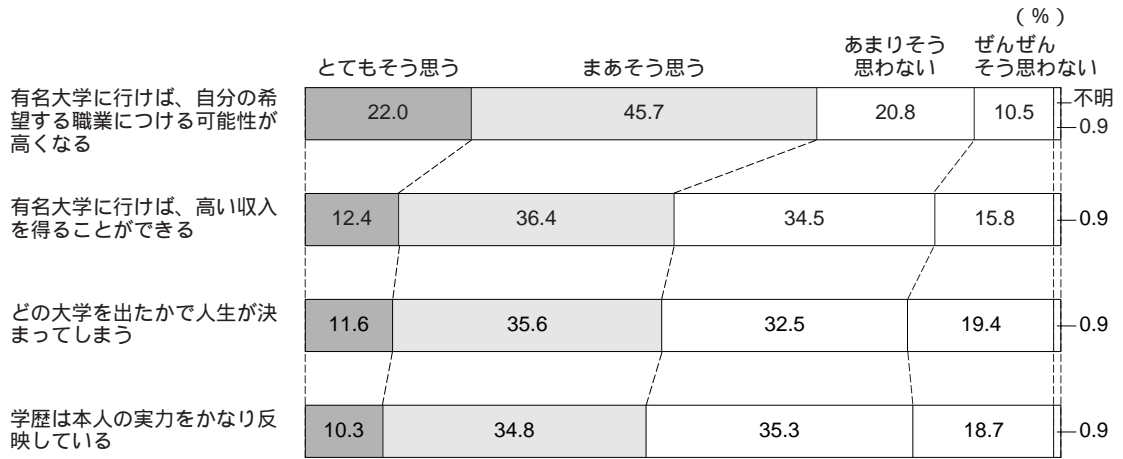
「有名大学に行けば、自分の希望する職業につける可能性が高くなる」と思うのは、女子（61.7%）よりも男子（74.8%）の方である。高校グループ別では、A（74.6%）がB（64.5%）、C（66.1%）よりも高い。同様に、「有名大学に行けば、高い収入を得ることができる」と思うのも、女子（42.9%）よりも、男子（55.3%）の方が高い。「有名大学」に行けば、職業や収入には恵まれるものと男子やAグループの生徒に意識されている。一方、

「どの大学を出たかで人生が決まってしまう」や、「学歴は本人の実力をかなり反映している」といった質問では、大きな男女差やグループ差はない。

それでは学歴（学校歴）社会イメージの全体像について考えてみたい。そこで、このイ

メージに強く浸透する生徒と、そうでない生徒を分割して、彼らの差異の特徴をみていこう。イメージの浸透度合いを、この各質問回答に得点（「とてもそう思う」= 1点、「まあそう思う」= 2点、「あまりそう思わない」= 3点、「ぜんぜんそう思わない」= 4点）を

図5 - 1 学歴社会イメージ



注) 本章の図では、回答不明も含んだ割合で示した。

表5 - 1 学歴イメージ × 性・学校グループ

	性 別		学校グループ		
	男 子	女 子	A	B	C
有名大学に行けば、自分の希望する職業につける可能性が高くなる	74.8	61.7	74.6	64.5	66.1
有名大学に行けば、高い収入を得ることができる	55.3	42.9	51.3	46.8	50.3
どの大学を出たかで人生が決まってしまう	49.4	45.7	51.0	46.4	44.8
学歴は本人の実力をかなり反映している	45.2	45.9	45.4	45.4	45.8

二乗検定による有意差 *p<0.05 (5%水準) **p<0.01 (1%水準)
 数値は、回答者における「とても」+「まあ」そう思う割合

つけ、合計することでみている。この得点結果を現在の成績や卒業後の進路別でみたものが、表5 - 2である。

合計得点の最低は4点で、最高点は16点である（回答不明は除外した）。これから3つにグループ分けした。グループの内訳と学歴（学校歴）社会への浸透度は、「低い[13 - 16点]」（=有効回答全体で26.5%）「中くらい[8 - 12点]」（=同57.2%）「高い[4 - 7点]」（=同16.3%）である。

現在の成績別では、「下」の生徒に浸透度

が「低い」（30.7%）、反対に、「上」や「中」の生徒は、「中くらい」、「高い」。卒業後の進路別には「難関大学」進学を考える生徒が、最も「高い」（19.3%）。反対に、「専修・専門学校」（41.8%）「就職・家業の手伝いなど」（38.7%）「考えたことがない・その他」（44.8%）の生徒は「低い」。成績が高く、卒業後の進路も「難関大学」を狙う層は、このイメージを受けて、より現実のものにしようとする事がわかる。

表5 - 2 学歴浸透度 × 現在の成績・卒業後の進路

(%)

		全体	現在の成績 **				卒業後の進路 **					
			上	中	中の下	下	難関大学	一般大学	短大	専修・専門学校	就職・家業の手伝い	考えたことがない・その他
学歴浸透度	低い	26.5	23.2	26.4	25.9	30.7	21.8	25.9	26.9	41.8	38.7	44.8
	中くらい	57.2	60.2	57.8	58.9	51.8	58.9	59.3	63.4	45.2	44.1	39.6
	高い	16.3	16.6	15.8	15.2	17.5	19.3	14.8	9.7	12.9	17.1	15.7

二乗検定による有意差 * $p < 0.05$ (5%水準) ** $p < 0.01$ (1%水準)
数値は、回答者における割合

2 高校生の将来像

学歴（学校歴）社会信仰の側面ばかりに将来をみるのは、分析視点として偏っている。そこで漠然とではあるが、彼らの将来イメージを大きく掴むことにする。将来の見通しに関する質問に「可能（たぶん＋きっと）」とする割合を性別、学校グループ別でみたもの（表5 - 3）である。

「いわゆる一流大学へ入学する」や「大企業に就職する」ことへの可能性は低くとも、「よい親になる」や「幸せな家庭を作る」ことへの自信は高い。その中間に、「よい相手と結婚する」や「仕事の面で成功する」や「経済的にとても豊かになる」や「社会的に認められる」ことがある。

男子に、またAグループに「いわゆる一流大学へ入学する」「大企業に就職する」可能性が高く考えられている。女子にこの意識が低いのは「大企業就職」への障壁として学歴（学校歴）以外のものがあるという現実を知っているからであろうか。だが、女子は「幸せな家庭を作る」（女子78.4% > 男子68.2%）「よい親になる」（女子74.5% > 男子64.6%）と考える。

この表からいえることは、学歴（学校歴）・就職・仕事での成功・経済的な豊かさとは結びつかない、将来の可能性を意識している。これとは別の次元で、よい結婚や幸せな家庭が実現するものとイメージされている。

表5 - 3 将来像 × 性・学校グループ

	全 体	性 別		学校グループ		
		男 子	女 子	A	B	C
仕事の面で成功する	58.3	58.3	58.2	63.0	55.7	55.9
経済的にとても豊かになる	47.4	47.0	47.7	52.0	43.9	46.4
幸せな家庭を作る	73.1	68.2	78.4	71.8	74.3	73.1
社会的に認められる	47.7	47.1	48.5	52.3	43.8	47.5
よい親になる	69.4	64.6	74.5	69.2	69.5	69.6
よい相手と結婚する	57.0	54.6	59.5	57.3	57.1	56.2
大企業に就職する	15.6	20.8	9.9	26.0	12.2	6.6
いわゆる一流大学へ入学する	15.9	22.3	9.1	31.2	10.3	3.9

二乗検定による有意差 * $p < 0.05$ (5%水準) ** $p < 0.01$ (1%水準)
 数値は、回答者における「たぶん」+「きっと」可能だろうの割合

3 なれそうな職業・なれない職業

職業はその人の生活を維持させるためだけのものではなく、社会での位置（地位）をあらわすものでもある。地位の高い職業というのは、収入が高いだけでなく、社会的な影響力を持ったり、周囲の尊敬を受けたりすることを意味する。今の高校生たちは、将来自分が、がんばれば地位の高い職業につけると思っているのだろうか。また、どの職業なら自分はつけそうだと思うのだろうか。

結果をみると、威信の高い職業に大半が「無理」だと思っている。地位の高い職業につこうとする野心（アスピレーション）は、現在のこの高校生には低いようである。わず

かでもなれる可能性があるとする回答を取り出して、性別、学校グループ別、志望学部系統別（文系志望か、理系志望）にみていこう（表5 - 4）

志望学部系統はQ13「大学や短大などへ進学するとしたら、あなたは主としてどの分野を志望するつもりですか」の回答を以下のように区分けして、作成した。「文系」は、人文系、外国語系、法学系、経済学系、教育系、家政（生活科学）系、福祉系をいっしょにした（有効回答=100%で43.5%）。「理系」は、理学系、工学系、医歯薬系、農・水産系、看護・医療技術系をいっしょにした（同39.1%）

表5 - 4 つくことが可能な職業 × 性・学校グループ・志望学部系統

(%)

	全 体	性 別		学校グループ			志望学部系統			
		男 子	女 子	A	B	C	文系	理系	学際	他
新聞記者	48.9	48.8	49.1	50.2	49.9	45.6	54.2	40.9	61.7	46.2
役所の部長	42.1	49.3	34.3	53.3	39.9	29.9	41.4	46.2	38.7	30.4
コンピュータの技師	42.4	54.0	30.2	48.9	38.8	39.4	27.9	60.5	36.9	39.3
弁護士	24.7	28.9	19.9	33.9	21.8	16.0	26.8	22.8	26.5	20.6
大学教授	21.6	27.7	14.6	33.2	18.2	10.1	18.6	26.8	19.7	14.9
大会社の社長	19.9	26.3	13.2	23.7	18.1	17.7	17.6	21.9	22.0	20.1
医師	17.2	20.5	13.7	24.6	14.8	11.0	9.2	27.5	14.0	14.4
国会議員	13.2	17.9	8.2	18.2	12.2	7.9	12.9	14.1	12.5	11.9

二乗検定による有意差 *p<0.05(5%水準) **p<0.01(1%水準)
 数値は、回答者における「もしかしたら」+「たぶん」+「きっと」なれる割合

「学際」は、芸術系、学際系をいっしょにした（同8.5%）、「他」は、その他、決めていない、をいっしょにした（9.0%）

これらの職業への実現可能性は、彼らが今いる位置や目標によって異なる。「新聞記者」を除いて、男女でアスピレーションに開きがある。男子の方が高い。また、学校グループ別では、A > B > Cの順にアスピレーションが弱まっていく。

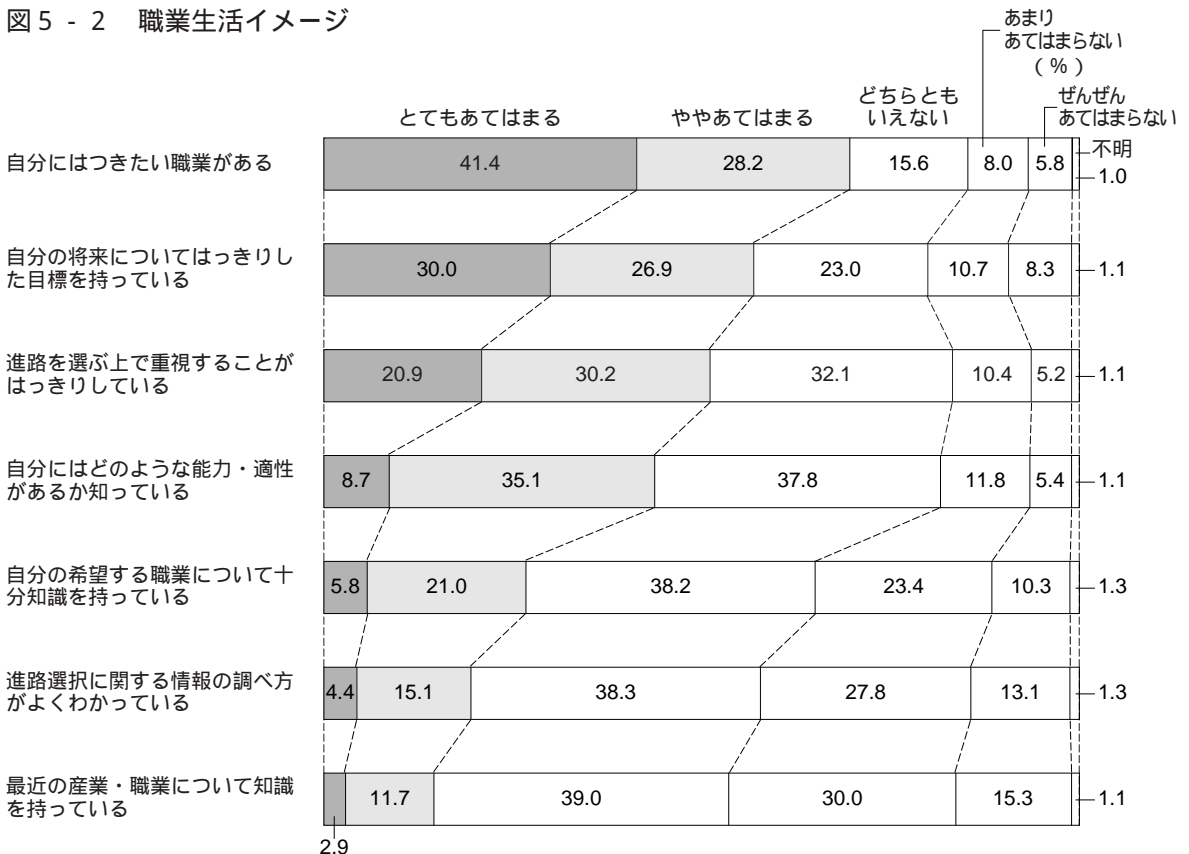
志望学部系統をみると、「理系」志望者にアスピレーションの高さがみられる。志望と結びつく、「医師」（27.5%）「コンピュータ技術」（60.5%）の高さのほかに、「大学教授」（26.8%）「弁護士」（22.8%）「役所の部長」（46.2%）「国会議員」（14.1%）「大会社の社長」（21.9%）へのアスピレーションも「文系」志望者と同等もしくはそれ以上の値を示す。

4 今抱く職業目標

彼らに職業生活がどのように意識されているかみてみよう（図5-2）「自分にはつきたい職業がある」（69.6%）「自分の将来についてはっきりした目標を持っている」

（56.9%）「進路を選ぶ上で重視することがはっきりしている」（51.1%）には、50%以上が「あてはまる（とても+やや）」という。しかし、それに比べて、「自分の希望する職

図5-2 職業生活イメージ



業について十分知識を持っている」(26.8%)、「進路選択に関する情報の調べ方がよくわかっている」(19.5%)、「最近の産業・職業について知識を持っている」(14.6%)には、「あてはまる」とはいわない。

将来の職業目標はイメージされているけれども、それを実行に向けて知識を収集したり、身につけたりしているとはいえない。もっとも、知識よりも熱意の方が職業生活を遂行する上で重要と考えれば、現時点で「望ましい、堅実な」意識といえる。

性別、学校グループ別で「あてはまる」だけを取り出してみても表5-5である。女子に「自分にはつきたい職業がある」

(女子74.6%>男子66.3%)、「自分の将来についてははっきりした目標を持っている」(女子61.6%>男子53.7%)が高く意識される。一方、男子が高い意識には「最近の産業・職業について知識を持っている」(男子18.7%>女子10.4%)がある。また、学校グループ別では、A>B>Cの順に能力や知識の考え方、集め方に関して、差異がみられる。「自分にはどのような能力・適性があるか知っている」(48.1%>44.3%>39.4%)、「最近の産業・職業について知識を持っている」(18.3%>13.7%>11.5%)、「進路選択に関する情報の調べ方がよくわかっている」(22.0%>19.6%>17.2%)となる。

表5-5 職業生活イメージ×性・学校グループ

(%)

	性別		学校グループ		
	男子	女子	A	B	C
自分にはつきたい職業がある	**		*		
	66.3	74.6	72.0	67.7	71.9
自分の将来についてははっきりした目標を持っている	**				
	53.7	61.6	59.9	55.0	58.3
進路を選ぶ上で重視することがはっきりしている	*				
	49.6	53.9	52.8	51.2	51.2
自分にはどのような能力・適性があるか知っている			**		
	45.2	43.4	48.1	44.3	39.4
自分の希望する職業について十分知識を持っている	*				
	25.6	28.6	28.7	26.9	25.4
進路選択に関する情報の調べ方がよくわかっている			**		
	19.5	20.0	22.0	19.6	17.2
最近の産業・職業について知識を持っている	**		**		
	18.7	10.4	18.3	13.7	11.5

二乗検定による有意差 * $p < 0.05$ (5%水準) ** $p < 0.01$ (1%水準)
数値は、回答者における「とても」+「やや」あてはまる割合

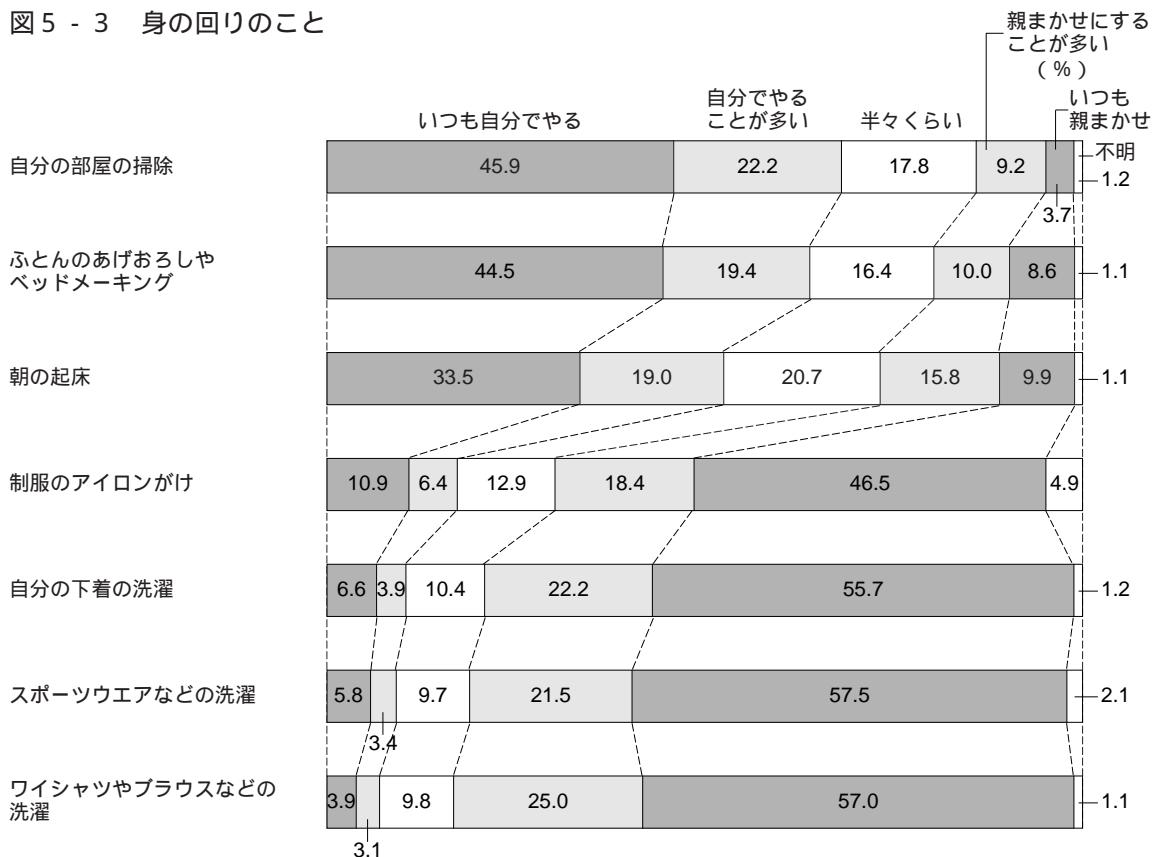
5 親まかせ？自分のことは自分で？ 家庭での日常生活

将来の家庭生活に目を向ける前に、現在の家庭での日常生活についてみよう。高校生は身の回りのことを、どうこなしているのだろうか。その回答が図5-3である。自分でやっていることと、やっていないことが明白である。「いつも自分でやる」のは、「自分の部屋の掃除」(45.9%)、「ふとんのあげおろし

やベッドメイキング」(44.5%)、「朝の起床」(33.5%)である。一方、「いつも親まかせ」は、「スポーツウエアなどの洗濯」(57.5%)、「ワイシャツやブラウスなどの洗濯」(57.0%)、「自分の下着の洗濯」(55.7%)、「制服のアイロンがけ」(46.5%)である。

「親まかせ」の回答だけを取り出して、男

図5-3 身の回りのこと



女グループ別についてみた(表5-6)、男子では特に、また女子であってもA>B>Cグループの順に「親まかせ」が高い傾向にある。どうやら、彼らの日常では勉強が優先さ

れ、身の回りに関して親のサポートがあるようだ。受験に向かう高校生を取り巻く生活を見ることができる。

表5-6 身の回りのこと(「親まかせ」)×性・学校グループ

(%)

	性別		男子			女子		
	男子	女子	A	B	C	A	B	C
自分の部屋の掃除	** 15.7	10.2	19.7	** 13.4	13.0	13.1	** 10.6	6.5
ふとんのあげおろしや ベッドメイキング	** 22.7	14.5	24.7	** 24.7	16.4	12.7	** 17.9	11.2
朝の起床	** 28.8	22.8	29.7	28.7	27.3	22.2	*	25.2 19.7
制服のアイロンがけ	** 83.6	51.7	83.6	83.9	83.3	51.0	*	55.3 46.9
自分の下着の洗濯	** 88.2	68.9	88.3	87.7	88.4	66.9	** 73.5	63.9
スポーツウエアなどの洗濯	** 85.0	76.1	86.0	84.7	84.0	75.5	** 80.3	70.2
ワイシャツやブラウスなどの洗濯	** 88.4	77.4	88.9	87.9	88.2	77.0	** 82.2	70.1

二乗検定による有意差 * $p < 0.05$ (5%水準) ** $p < 0.01$ (1%水準)
数値は、回答者における「親まかせにすることが多い」+「いつも親まかせ」の割合

6 結婚生活・家事分担のかたち

将来の生活イメージとして、家庭（結婚）は主要なものとして欠くことはできない。人々が職業を持ち、生計を立てていく上で、家庭は何かと都合がいいものといえる。たとえば夫が仕事に専念するため、家庭では妻が家事を行うという役割が演じられて、「家族」を語ることができる。こういった家庭で育てられた人も多かろう。

そこで、「もし、あなたが結婚するとしたら、奥さんはどんな生活を送るのが望ましいと思いますか。（女子は自分のこととして考えてください）」という質問をしてみた。この質問は、男子と女子とでは意味が異なる。男子には、結婚を機に相手にどのような選択をしてほしいかとの理想のかたちをたずねている。女子には、結婚を機に自分自身がどのような選択をとるのかとの理想のかたちをたずねている。したがって、この質問結果には絶えず、求める意識が相手が自分かであり、差が

あることは当然のことと考慮すべきである。ただし、この質問について男女とも似通った意識を抱いているのか、それとも、特有のパターンがみられるのか、結果をみていることは非常に興味深い。彼らの将来の結婚生活をみてみよう。

全サンプルからみた性別の単純集計をグラフにしてみた（図5 - 4）。男子に、「結婚したら家庭に入る」（男子15.2% > 女子9.1%）「子どもが生まれるまで働く」（男子27.5% > 女子16.5%）ことを望む傾向がある。一方、女子は、「子育てを終えたらまた働く」（女子38.8% > 男子31.4%）「ずっと仕事を続ける」（女子33.9% > 男子21.4%）ことを自分の生き方として考える傾向がある。結婚した相手に家庭に入ってほしいと望む男子と、結婚しても仕事を続けたいと望む女子の意識の違いが、はっきりと分かれている。

図5 - 4 結婚後の女性の生活 × 性

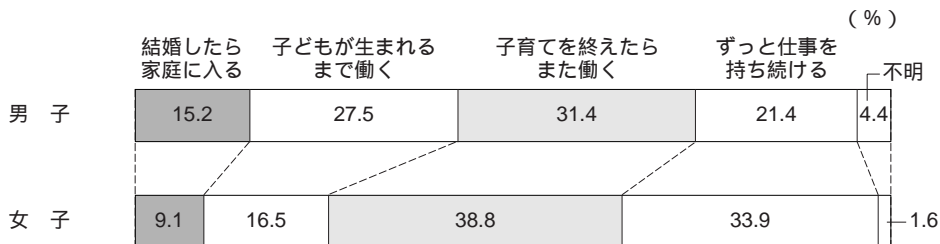


表5 - 7で性別内でのグループ差をみてみよう。男子では、相手が「結婚したら家庭に入る」「子どもが生まれるまで働く」ことを望むのは、Cグループにもっとも多い(18.5%、35.0%)、「子育てを終えたらまた働く」ことを望むのは、Bグループに最も多い(36.7%)、「ずっと仕事を持ち続ける」ことを望むと回答したのは、Aグループに最も多い(25.7%)。女子も男子と同様の傾向である。自分が、「結婚したら家庭に入る」「子ども

もが生まれるまで働く」ことを望むのは、Cグループに多い(12.8%、20.8%)、「子育てを終えたらまた働く」ことを望むのは、Bグループに多い(40.5%)、「ずっと仕事を持ち続ける」ことを望むのは、Aグループに多い(41.5%)。特に、この数字はCグループの女子の28.4%と比べると、相当高い意識であることがわかる。

女子に目立つグループ差は、グループ構成をなす個々の学校の意識を反映しているもの

表5 - 7 結婚後の女性の生活 × 性・学校グループ

(%)

	男 子			女 子		
	A	B	C	A	B	C
結婚後の女性の生活について	* *			* *		
結婚したら家庭に入る	16.4	13.7	18.5	6.7	8.9	12.8
子どもが生まれるまで働く	26.9	26.7	35.0	12.5	17.3	20.8
子育てを終えたらまた働く	31.1	36.7	29.9	39.2	40.5	38.1
ずっと仕事を持ち続ける	25.7	22.9	16.5	41.5	33.4	28.4

二乗検定による有意差 *p<0.05 (5%水準) **p<0.01 (1%水準)

表5 - 8 「結婚後ずっと仕事を持ち続ける」割合 × 女子・学校グループ

(%)

グループ	A				B					C		
高校名	h	k	f	a	i	g	e	c	j	d	l	b
女 子	51.0	42.4	39.8	33.5	45.5	40.4	33.6	27.1	22.4	39.5	27.3	22.7
グループ平均	41.5				33.4					28.4		
有意水準	p>0.1				p<0.01					p<0.05		

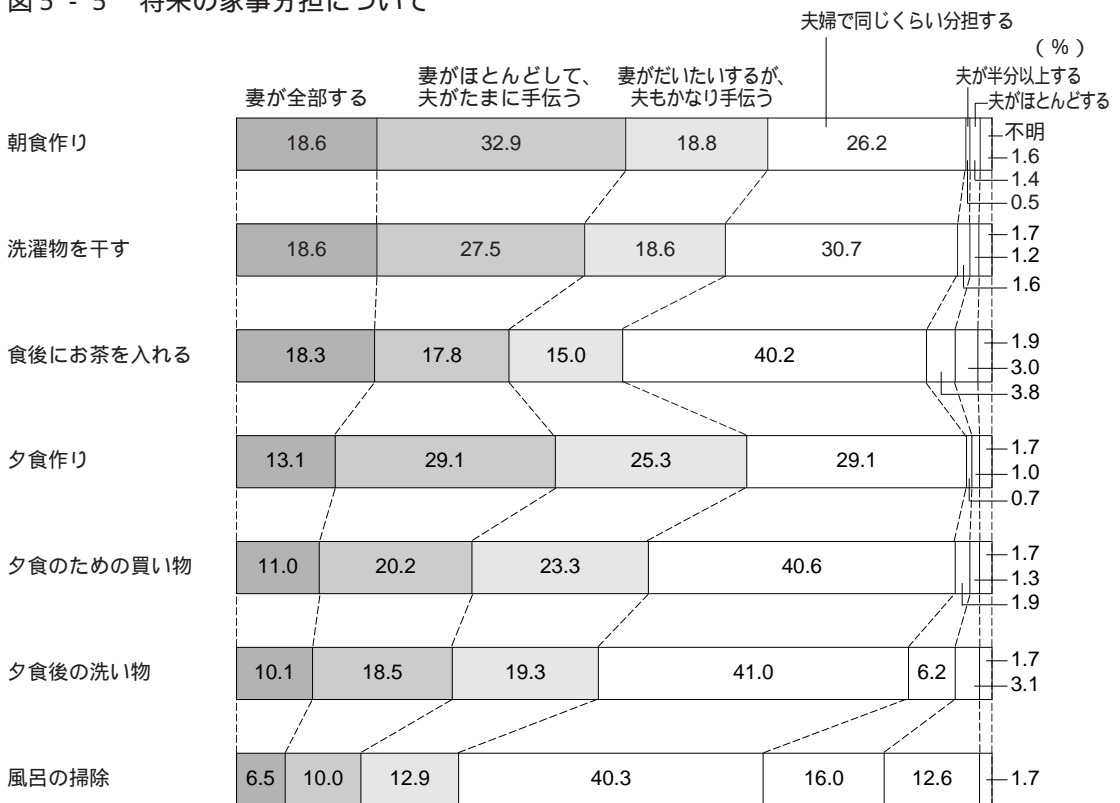
なのだろうか。表5 - 8は、学校ごとの「ずっと仕事をもち続ける」割合である。すると、グループ平均と各学校の比率が分散している傾向にある。グループによって、「ずっと仕事をもち続ける」女性の比率に特徴があると断言できない。学校によって、考え方に特徴があるという意見の方があてはまる。しかし、Aグループに関しては、グループ平均と各学校の比率の分散が他のグループよりも小さい。

次に、具体的な結婚生活を家事の分担という側面からみていこう（図5 - 5）。

質問にあるような家事は「妻がする」ものと意識されている。これは日常の両親の生活を見ることで、定着しているのであろうか。性別による役割が維持されていくのか、それとも新たな役割関係が導かれていくのであろうか。

男女ともに、「朝食作り」「洗濯物を干す」「食後にお茶を入れる」「夕食作り」「夕食の

図5 - 5 将来の家事分担について



ための買い物」は、基本的に「妻がする」ものと半数以上が思っている。両者とも40%近くが「同じくらいする」ものと考えているのは、「食後にお茶を入れる」「夕食のための買い物」「夕食後の洗い物」「風呂の掃除」である。基本的に「夫がする」ものと考えられているのは、「風呂の掃除」である。男子の場合、女子に比べて「妻がする」ことと思わずに、「同じくらいする」と考える割合が高い。多少なりとも、家事＝「妻がする」ものと思わず、平等に分担すべきものと捉えているのであろうか。それとも、「朝食作り」「洗濯物を干す」に関して、「妻がする」となっていることから判断して、楽な家事に対して、

「同じくらいする」「夫がする」と答える“都合のいい”回答をしているとみるべきなのだろうか(表5 - 9)

性別や学校グループ別という要因が、彼らの将来イメージを左右すると結論づけるのも早い。そこで、結婚後について考え方による影響をみていこう。家事分担質問の回答で、「夫婦で同じくらい分担する(＝同じくらいする)」を取り出して、先ほどの「結婚後の生活」意識とクロスしたものが表5 - 10である。

「結婚したら家庭に入る」と回答した生徒ほど、平等な分担を回答する割合が低い(数値は略したが、回答の大多数が「妻がする」

表5 - 9 将来の家事分担 × 性・学校グループ

(%)

		性 別		男 子			女 子		
		男 子	女 子	A	B	C	A	B	C
朝食作り							* *		
	妻がする	71.2	71.8	69.1	71.6	73.9	65.5	71.8	78.9
	同じくらい	27.1	26.2	29.1	26.5	24.6	32.2	25.8	20.0
洗濯物を干す		*		*			* *		
	妻がする	64.2	67.7	61.5	63.0	70.3	60.9	68.7	73.7
	同じくらい	32.4	29.9	34.9	33.0	27.6	35.8	28.9	24.9
食後にお茶を入れる		* *		* *			* *		
	妻がする	45.7	59.1	42.9	44.2	52.3	55.3	56.7	67.2
	同じくらい	45.4	36.1	48.3	45.6	40.3	39.6	37.9	29.2
夕食作り							*		
	妻がする	68.1	69.3	66.4	69.4	68.9	67.7	67.2	74.4
	同じくらい	30.2	29.0	31.5	29.0	30.0	30.5	30.6	24.9
夕食のための買い物		* *					*		
	妻がする	53.4	57.7	53.0	53.2	54.1	51.9	59.9	60.6
	同じくらい	41.9	40.6	42.9	41.8	40.5	46.2	38.2	38.1
夕食後の洗い物		* *		* *			* *		
	妻がする	50.3	47.3	45.9	50.9	56.3	43.2	46.1	53.9
	同じくらい	38.8	44.8	42.2	37.4	35.2	48.5	44.8	40.7
風呂の掃除							* *		
	妻がする	30.9	28.9	29.2	31.0	33.3	25.4	27.3	35.4
	同じくらい	39.2	42.7	39.4	38.5	40.1	43.8	44.9	37.9

二乗検定による有意差 *p<0.05(5%水準) **p<0.01(1%水準)
 「妻がする」＝「妻が全部する」＋「妻がほとんどして、夫がたまに手伝う」
 ＋「妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う」割合 / 「同じくらい」＝「夫婦で同じくらい分担する」割合

と考える。反面、「ずっと仕事を続ける」という者ほど「同じくらいする」を回答する。男女ともそのように考える。家事分担を「同じくらいする」と考えるのは、「ずっと仕事を続ける」>「子育てを終えたらまた働く」>「子どもが生まれるまで働く」>「結婚したら家庭に入る」の順で高い。

つまり、結婚相手が仕事を続けることを望む男子は、家事分担を「同じくらいする」と考え、将来に対してイメージしている。それは、女子にもあてはまる。自分が結婚後も仕事を続けるという将来には、同じ生活を行う相手と家事分担を「同じくらいする」ことを望むのである。一方、結婚後家庭に入

ることを望む女子にしてみれば、質問にある家事は「妻がする」ものとしている。男子も「妻がする」ことを望んでいる。分担を「同じくらいする」と答える割合が男子に高いものの、一歩進んで「夫がする」にはならない。おそらく、この結果は男子の女子への「おもいやり」が投影されているのだろう。このような家事を「妻がする」べき（しなければならぬ）仕事とは考えない。しかし、基本的に家事は「妻がする」（してくれた方がいい）ものと意識されているようだ。

表5 - 10 将来の家事分担(「同じくらい」のみ) × 結婚後の女性の生活

(%)

	結婚したら家庭に入る		子どもが生まれるまで働く		子育てを終えたらまた働く		ずっと仕事を続ける	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
朝食作り	14.2	8.0	18.3	14.4	29.3	19.4	43.9	44.3
洗濯物を干す	18.5	4.8	22.7	18.2	36.5	24.5	49.0	48.6
食後にお茶を入れる	31.5	19.7	37.8	30.0	49.9	32.5	56.4	47.6
夕食作り	17.5	9.6	23.0	19.8	33.1	22.2	43.0	46.6
夕食のための買い物	30.1	19.7	34.6	30.0	45.5	37.3	54.2	54.9
夕食後の洗い物	25.0	21.9	32.8	39.7	43.0	41.0	50.1	57.7
風呂の掃除	26.8	21.3	32.6	36.9	43.0	42.7	50.1	51.3

7 まとめ

現代の高校生が、どのような将来イメージを持っているのか簡単にまとめてみよう。

進学とかかわりがある学歴（学校歴）社会のイメージは、全体の半数近くが、進学と人生に関係があると意識している。「有名大学 大企業」のルートを強く感じているのは、性別では男子であり、学校グループ別ではAグループである。また、成績上位者、難関大学希望者に、このイメージが浸透している。

一般的な将来像の見通しは、「よい親」「よい相手と結婚」「幸せな家庭」「仕事の面での成功」に対して、明るさがある。特に女子にみられる。一方、「一流大学への入学」「大企業就職」「経済的に豊かになる」「社会的に認められる」といった経済的側面には暗さがある。しかし、この見通しは男子やAグループに明るくみられる。

社会的に高いとされる地位を持つ職業への実現可能性や意欲（アスピレーション）は、全体として低い。女子やB、Cグループにこの傾向がみられる反面、理系志望者には高い実現可能性がみられる。

将来の職業に対するアスピレーションには分化がみられる。「つきたい職業」や「将来の目標」を強く抱く半面、「能力・適正」「職業知識の獲得」「情報の調べ方」には弱い。アスピレーションの強さの割には、実行力に乏しい。

現在の身の回りの生活は、半数が「起床」や「掃除」は「自分で」行っている。一方、「洗濯」などの身の回りは「親まかせ」であ

る。「親まかせ」の傾向は、男子やAグループ（女子を含めて）でみられる。親の世話を受けて高校生活を送っている。

結婚観には、女性の仕事を支持しようとする考えがみられる。「結婚＝女性は家庭に」は男女ともに受け入れられていない。しかし、女子は「ずっと仕事」を求めるのに対し、男子は「いつかは家庭に入ることを望んでいる。学校グループによって、志向に差がみられたが、女子の仕事志向は学校別に特徴があるともいえる。家事分担でみられる性別役割観は、全体として「妻がする」ように考えられている。しかし、平等分担（「同じくらいする」）を志向する層も多い。「ずっと仕事」を求める女子同様、相手にこれを求める男子からも、支持を受けている。一方で、「家庭に入る」を望む男女には、圧倒的に「妻がする」ものと考えられている。

このように、現代の高校生は、現在自分のいる状況や志向とつきあわせながら、将来をイメージしている。その意味で「堅実である」といえよう（反面、「夢がない」ともいえる）。高校卒業後に控える「進学」を終えた後、彼らは職業につき生計を立てていく。また、家庭を持つかもしれない。現在抱く将来像が、はたして現実のものへとなるのか、それとも異なったものとなっていくのか。彼らのささやかな希望（見通しの明るい将来）が到来することを期待しつつ、今後の成り行きを見守っていききたいと思う。

第6章 ||||

進学意識の差異(分化)構造

本章では、現代高校生の進学意識の差異・分化の様相を明らかにしていきたい。高校生の進学意識は、時代の風潮や若者文化の影響を受けて、さまざまな方向へ差異化・分化している。ここでは、高校生のいくつかの属性（性別、学校グループ、成績）に注目しながら、

高校生の進学意識の差異（分化）化の様子を考察したい（本章で使う数字は、全て不明を除いた数字を母数として算出した。不明を含めた数字については巻末の集計表参照のこと）。

1 高校間格差(学校グループ)による差異

アメリカの文化人類学者ローレンは、日本の高校を調査して、アメリカとの違いとして学力による格差構造をあげ、高校間格差を効率的な制度として高く評価している（トーマス・P・ローレン 友田泰正訳『日本の高校』サイマル出版会、1988年）。日本では、学校間格差が受験競争の産物としてマイナスに評価されるのが一般的である。この学校間格差（グループ）は、高校生活や生徒の進路意識の形成にどのように関連しているのだろうか。

ここでは、調査対象校を、高校入学時の学力や大学進路実績等によってABCの3つのグループに分けたものを使う。今回の調査対象校では、a、f、h、kの4校がAグループ

校（旧帝大の国立大学や有名私立大学への進学が多い超進学校）、c、e、g、i、jの5校がBグループ校（地元の国立大学に多く進学する進学校）、b、d、lの3校がCグループ校（高校卒業後の進路希望は多様）である。

① 第一志望の高校か

現在の高校が希望の学校かという回答は、A 70.8%、B 56.0%、C 25.7%（「どちらかといえば」まで含めると、A 93.7%、B 85.4%、C 67.9%）と、Aグループ校に多く、Cグループ校に少ない。Bグループ校はその中間である。このように学校グループにより大きな

差がある。生徒たちは少しでも偏差値の高い高校に挑戦するようにと親や中学校の進路指導でいわれ、ランクの高い高校を目指してきたのであろう。

② 高校生活の満足度

高校生活の満足度(「とても」+「わりと」満足)を学校格差(グループ)別にみると、「授業」に満足(以下同じ) A 41.5% > B 32.1% > C 26.2%、「先生」 A 36.9% > B 34.6% > C 27.1%、「成績」 A 12.0% < B 12.1% < C 17.4%、「進路相談」 A 18.7% > B 17.0% > C 14.9%、「部活動」 A 45.9% < B 47.1% > C 32.2%、「友だち」 A 74.3% < B 77.5% < C 78.3%、「高校生活全般」 A 44.0% < B 46.1% > C 35.8%、「学校へ行くのが楽しみ」(とても+わりと) A 50.9% < B 51.2% > C 37.9%、「休み時間が楽しみ」(とても+わりと) A 59.9% < B 67.8% > C 65.5%、となっている。

これをみると、全体的には、学校の授業や先生への満足度は、ランクの上の高校(A)の生徒が高く、部活動は中位の高校(B)で高く、友だちや成績は下位の高校(C)で高くなっている。つまり上位の学校の生徒は学校の中心的文化(授業)に適合的で、下位の学校の生徒は学校の中核の活動(授業)より友人の方へ楽しみを見いだしている。

③ 高校卒業後の進路希望

高校卒業後の進路希望を聞くと、「4年制大学」全体では、A 93.5%、B 87.8%、C 54.9%、「難関4年制大学」はA 67.5%、B 31.7%、C 16.8%と、進学アスピレーションに大きな学校グループ差があることがわかる。これは、卒業生の進路実績からくるチャーター(Charter)効果(卒業生の進路実績から自分の進路の可能性を予測する)によるところが大きいのであろう。

④ 「難関といわれる大学」への合格可能性

これについても、学校グループ差がある。

「入れる」(きっと+なんとか)という回答は、「このままいったら入れる」(A 7.7%、B 3.7%、C 4.4%)は差がないが、「一生懸命勉強したら入れる」がA 64.1%、B 46.3%、C 45.6%とAとB、Cの間に差があり、「一浪してねばったら入れる」(A 71.9%、B 55.1%、C 54.0%)にもAとB、Cの間に学校グループ差が大きくある。

Aグループ校の生徒は、がんばれば自分には難関大学に入れる可能性があるかと確信している。B、Cグループ校の生徒はそのような自信を持ってないでいる。

このように、学校グループは、生徒の受験アスピレーションを加熱したり冷却したりして高校生に自分の能力や将来の可能性に関して定義づけをする働きがある。

将来の仕事についても同様である(たとえば、「医師」になるのが「とても無理」と考えているのは、A 56.3%、B 66.6%、C 72.5%と学校グループ差が顕著である)。

⑤ 大学や短大選択の基準

大学や短大選択の基準に、学校グループ差があるのであろうか。Aグループ校の生徒が重視しているのは、「カリキュラム」(「とても大事」以下同じ59.3%)、「研究施設や設備」(43.3%)であり、逆にCグループの高校の生徒が重視しているのは、「取得できる資格」(「とても大事」以下同じ59.5%)、「就職率がよい」(48.7%)、「授業料が安い」(46.8%)、「推薦で入学できる」(35.1%)、「キャンパスがきれい」(33.8%)、「大学難易度との適合」(32.7%)、「受験科目」(30.5%)等である。Bグループ校は、その中間に位置する。このように、上位校(A)は大学の伝統的な価値(学問)を重視しているのに対して、下位校(C)の生徒は、就職と入学しやすさと大学生活の楽しさを重視している。現在大学のユニバーサル化が進む中で、後者の生徒の要求を入れる方向で、大学は変わりつつあるといえてよいであろう。

⑥ 大学や短大への進学理由

大学や短大への進学理由を高校間格差別にみてみよう。Aグループ校では「やりたい勉強ができる」(A 41.7%、B 38.2%、C 32.1%)、「専門的知識が学べる」(A 45.1%、B 42.9%、C 39.0%)が多く、Cグループ校では、「就職に有利」(C 37.0%、B 29.8%、A 33.2%)、「自由な時間がほしい」(C 24.0%、B 19.4%、A 19.3%)といった回答が多くなっている。

⑦ 浪人するか

第一志望の大学や短大に入れなかった場合にどうするかで、高校間格差がある。Aグループ校は「浪人する」(A 34.7%、B 16.5%、C 9.9%)が多く、Bグループ校の生徒は

「合格した第二、第三希望の大学・短大に入学する」(B 63.3%、C 55.7%、A 55.7%)が多く、Cグループ校は「専修・専門学校に入学する」(C 15.1%、B 5.7%、A 5.3%)が相対的に多い。このように、Aグループ校の生徒は、高い野心を持ち浪人をしてでも第一志望の大学に入ろうとし、Bグループ校の生徒はほどほどの野心の持ち主で受かった大学に入ればいいと考え、Cグループ校では別に大学に行くことにはこだわらない、専門学校や就職でもいいという生徒も現れている。

このように、通っている学校のレベルによって、生徒の進路意識は大きく分化している。この進路意識の分化・差異の現実を踏まえ、進路指導がなされる必要があるだろう。

2 学校グループ・成績による分化

受験競争が日本の教育の諸悪の根源だという考えは、依然根強い。受験競争が、高校生活にどのような影響を及ぼしているのかを今回のデータで確かめてみよう。大学受験への囚われが、さまざまな高校生活や価値観へのゆがみを形成しているのではないかという見方の検証である。

受験競争に一番コミットしている生徒を、調査対象者から取り出す方法はいくつかある。第一は、高校受験競争に勝ち抜き超進学校に入り、なおかつ成績も上位で難関大学に合格する可能性の高い生徒(8.4%)に注目する方法。第二は難関大学(「入るのが難しい4年制大学」)を目指している生徒(40.3%)に注目する方法。ここでは、少数の第一の生徒に注目しよう。

今回のデータでAグループ校に在籍し成績が上位(現在の成績が「上」ないし「中の上」)の生徒は、全体で358名ほどいる(男子225名、女子130名、性別不明3名)。このAグループ校に属し学業成績も優秀な生徒は、今の日本の受験社会の中で、どのような位置にいるの

か、つまりどのような学歴意識の持ち主でどのような生活を送っているのか。過酷な受験勉強を強いられ、ゆがんだ意識や人格の持ち主なのか。それとも……。それをデータから検討してみたい。受験優等生グループの特質を明らかにするためには、比較のグループが必要である。そこでBグループ校で成績が中位の生徒(493名;男子211名、女子282名)とCグループ校で成績が下位の生徒(201名;男子119名、女子81名、性別不明1名)のデータも取り出して比較してみよう。主な結果を示したのが表6-1である。

表6-1の結果から、現代の受験競争の真っ只中にあるAグループ校で成績上位の生徒は親の学歴が高く、難関大学を目指し、学校の授業にまじめに取り組み、授業への満足度が高く、部活動や友人への満足度も高く、学校生活全体が楽しいと感じている。自我像も明るい。受験のためにいろいろなことを犠牲にして暗い生活を送っているわけではない。大学選択の理由も、就職や遊びのためというのではなく、専門の勉強のためという明確な問

表6 - 1 生徒の学校グループ・成績による分化

(%)

	Aランク・成績上位 (358名)	Bランク・成績中位 (493名)	Cランク・成績下位 (201名)
第一志望の高校に入学(確実に)	73.1	57.8	24.5
学校へ行くのが楽しい(とても+わりと)	56.0	53.0	27.4
授業に満足(とても+わりと)	67.6	37.2	18.4
部活動に満足(とても+わりと)	47.3	48.5	26.3
友だちに満足(とても+わりと)	76.1	80.5	70.1
高校生活全般に満足(とても+わりと)	54.1	48.9	24.4
授業中内職やいねむり(とても)	14.8	9.9	22.5
努力型(とても+少し)	41.7	38.8	21.5
みんなから信頼されている(とても+少し)	36.0	25.1	24.0
友だちが多い(とても+少し)	42.5	43.5	51.5
通信添削利用中	30.5	23.6	5.1
4年制大学志望	97.8	90.8	43.7
難関4年制大学志望	85.4	27.8	11.6
第一志望に入れないとき、浪人する	37.5	15.5	10.1
一浪すれば難関大学に合格できる(きっと)	49.9	22.2	24.8
有名大学より希望する学部を選択	83.9	75.9	83.1
偏差値より希望する学部を選択	82.6	77.8	89.2
希望する学部より就職実績重視	39.9	31.0	46.5
大学の研究施設や設備重視(とても)	50.6	32.2	28.8
大学で取得できる資格重視(とても)	45.2	47.4	56.8
大学の受験科目重視(とても)	33.8	29.3	47.5
キャンパスのきれいさ重視(とても)	18.6	24.1	37.3
大学進学理由 勉強(とても)	53.5	38.0	27.6
専門知識(とても)	53.2	42.3	39.7
就職に有利(とても)	33.5	28.9	47.4
自由な時間(とても)	12.4	16.7	37.9
キャンパスライフを楽しむ(とても)	20.0	24.4	36.2
大学に入って;研究・ゼミ(ぜひしたい)	22.6	8.9	10.3
大学に入って;アルバイト(ぜひしたい)	56.3	67.1	76.3
将来の目標を持っている(とても+やや)	63.9	54.0	61.3
自分の部屋の掃除(いつも自分で)	36.0	45.1	55.6
父親(大学卒)	59.2	46.6	30.5
母親(大学・短大卒)	50.1	42.3	32.4

題意識を持っている。親に頼り自分の身の自立に欠けるという問題はあるが、自分の将来についてもしっかりと目標を持っている生徒たちである。

それに対して、Cグループ校の成績下位の生徒は、勉強に熱心に打ち込んでいるわけではない。部活動への参加も中途半端である。現在の高校が第一志望の学校でなかったせいもあるが（またそれを言い訳に使うこともあると思われる）学校生活全体があまり楽しくない。高校卒業後は入れる大学や短大、場合によっては専門学校や就職してもよいと考えている。大学に行くとしても、それは勉強のためというよりは、就職を有利にするためであったり、自由な時間にバイトをしたり遊んだりするためである。

このように、進学校に通い高校時代に勉強中心の生活を送ることは、決して高校の生活全体を暗いものにするのではなく、高い志や

明確な目標のもとに、生活を律していくのに役立っている。友人からの信頼も得ている。受験競争が日本の教育の諸悪の根源だという見方は、今回のデータでみる限り否定されたといつてよいであろう。

しかし、Cグループ校の成績下位の生徒の置かれた状況にも注意が払われなければならない。その生徒たちを勉強から逃避した怠惰な生徒だと決めつければ済む問題ではない。彼らは自分たちの不利な分野や基準で競争を強いられ低く評価され傷ついた自我を、同様に傷ついた仲間と連帯することで癒しているのかもしれない。彼らは受験競争の犠牲者でもある。この生徒たちは、4年制大学進学希望者は多くないが（4割）進学するときは大学名や偏差値より自分の学びたい分野を優先し、将来の職業のことを考える実学志向の生徒たちでもある。受験偏差値社会の超克はこのような生徒たちから生まれる可能性もある。

3 進学意識の男女差

なぜ、男子と女子で、4年制大学志望や難関大学志望で差が出るのか。成績、予備校・塾通い、浪人、志望学部、大学でやりたいこと、大学選択基準、学歴意識、職業観、ジェンダー観などから探っていく。

① 学業成績

男子と女子で学校での成績に関して差があるのだろうか。「中の上」以上（「上」＋「中の上」）の高い成績の割合をみると、「小学校高学年の頃」；男子67.2%、女子67.5%、「中学校3年の頃」；男子73.7%、女子70.7%、「高校2年の現在」；男子24.9%、女子26.2%と、ほとんど男女で成績差はない。

② 予備校、通信添削

予備校や塾に行っている割合は、男子21.7%、女子18.1%と男子が多少多い。通信

添削を受けている割合は、男子17.9%、女子19.9%と女子が多少多い。このように、受験のために学校以外の機関を利用する割合に、男女差はない。

③ 浪人規範

第一志望の大学・短大に入れなかったとき、「浪人する」は、男子28.3%に対して女子14.9%と女子に少ない。「合格した第二、第三希望の大学・短大に入学する」は、男子48.7%に対して、女子65.5%と女子に多い。このように、女子には浪人はできないあるいはしたくないという気持ちが強くある。なぜ女子の浪人は、忌避されるのであろうか。女子には高い学歴は将来の結婚にかえて不利と考えているせいなのか、将来の職業に高い学歴は必要ないと考えているのか、理由はいろいろ考えられる。

④ 有名大学が希望の学部か

「大学の知名度」より「自分の希望する学部」を優先するという生徒は、男子79.5%に対して、女子88.0%と、女子に多い。また「高い偏差値」より「自分の希望する学部」を優先するという生徒は、男子83.2%に対して、女子89.8%と女子に多い。しかし、「就職実績」と「希望する学部」の二者択一では、就職実績を優先するのは男子(33.7%)より女子(37.3%)に多い。このように、女子は自分の好みを優先しつつ将来の職業のことを真剣に考えるという選択をしている。

⑤ 大学選択の基準

大学選択の基準(「とても」+「わりと」大事)は、男子は「有名な大学」(男子41.0%、女子30.3%)という名を取り、女子は「学びたいカリキュラム」(女子95.4%、男子86.9%)「資格が取れる」(女子90.1%、男子80.2%)「伝統や校風」(女子48.7%、男子31.8%)「自宅から通学できる」(女子47.1%、男子34.1%)など、自分の好みと女子特有の選択の傾向がみられる。

⑥ 大学でやりたいこと

大学への進学理由も、男子に比べ女子の方が積極的に学ぶ姿勢がみられる。女子に多いのは、「やりたい勉強ができる」(「とてもそう」の割合；女子45.6%、男子31.9%)「専門的な知識が学べる」(女子49.7%、男子37.1%)「資格を取る」(女子35.9%、男子21.3%)「将来の仕事につなげたい」(女子64.6%、男子49.8%)などである。それに対して、男子は、「自由な時間がほしい」(男子24.4%、女子16.1%)と問題意識が低い。

⑦ 学歴社会観

「有名大学に行けば、高い収入を得ることができる」(「とても」+「まあ」そう思う割合；男子55.3%、女子42.9%)「有名大学に行けば、自分の希望する職業につける可能性が高くなる」(同；男子74.8%、女子61.7%)

「どの大学を出たかで人生が決まってしまう」(同；男子49.4%、女子45.7%)と、女子より男子の方が、学歴社会意識が強い。男子は、有名大学へ行けば高い収入、希望する職業、望みの人生が得られる可能性が高いと信じている。女子の方がそうでない自分たちの現実をしっかりと認識している。

⑧ 職業アスピレーション

今の日本の職業社会は男性優位の社会であり、女性はなかなか希望する職業につけないし、女性向きでない職業も多いと、多くの女子生徒はアスピレーションを冷却している様子が次の数字からわかる。

つまり「次の仕事につくのはがんばっても無理」(「とても無理」の割合)は、「国会議員」(男子64.1% < 女子76.4%)、「医師」(男子60.8% < 女子68.5%)、「大会社の社長」(男子52.3% < 女子69.3%)、「大学教授」(男子48.1% < 女子63.5%)、「弁護士」(男子48.8% < 女子57.4%)、「コンピュータ技師」(男子30.4% < 女子48.4%)、「役所の部長」(男子31.1% < 女子40.3%)、「新聞記者」(男子28.1% > 女子24.2%)と、「新聞記者」を除き、ここにあがっているすべての職業に女子が多い。

⑨ 性別役割分業意識

女性の仕事に関する意識や性別役割分業意識には男女差が大きいことが指摘されている。今回対象の高校生でも、結婚して女性が仕事を持つことに関して、「ずっと仕事を持ち続ける」は、男子22.4% < 女子34.5%と女子に多く、「結婚したら家庭に入る」(男子15.9% > 女子9.3%)「子どもが生まれるまで働く」(男子28.8% > 女子16.8%)が男子に多い。しかし、将来結婚してからの家事の分担に関しては、男女平等というわけではないが、男女で意見がほぼ一致している。たとえば、「夕食の買い物」が妻の仕事だという意識を女子の57.7%、男子の53.4%が持っている。また「夕食作り」が妻の仕事だという意識が、

女子の69.3%、男子の68.1%が持っている。ジェンダー意識は、高校生の中で性差縮小の方向に向かっている。

以上より、4年制大学や難関大学への志望に関して、男子が多く女子が少ないという男女差がある理由の1つに浪人規範があることがわかる。今の学力では難関大学に入学できないと大部分の生徒が思っている。しかし、浪人してがんばれば難関大学にも受かるだろうと考えている者は男女とも多い。しかし、男子は浪人してがんばるべきだが、女子が浪人してガリガリ勉強するのはいいことではな

いという考え方が一般的である。女子の浪人は将来の就職にも結婚にも不利に働く、ほどほどの大学に入り「かわいく」生きた方が有利という判断が働いている。この女子の浪人忌避の規範の存在が、浪人しないと難関大学には入れないという高校教育や入試の仕組みとあいまって、女子の低い4年制大学進学率や難関大学への進学率の低さを作り出しているといつてよいであろう。しかし18歳人口の減少の中で、4年制大学への現役入学率が上がれば男女差は縮小し、4年制大学や難関大学に進学する女子も増加するであろう。

4 考察

高校生を含めた青少年の意識や行動が大きく変わりつつある、教育内容の削減や大学入試の多様化で大学生はじめ生徒の学力が落ちている、ポストモダンの時代の高校生は受験を深刻なものとは考えず、ゲーム感覚でやり過ごしている……等々、現代の高校生の進学意識に関連することは、さまざまに語られている。

今回の我々の「高校生の進学意識」調査は、全国の進学校の生徒（全国12の公立高校、2年生、4,266名）を対象に進学意識を中心に、高校生活や大学受験、大学への期待、将来像などについてたずねている。

全体的な印象は、昔ながらの普通の高校生が多く存在するということである。大学受験を1年後に控えながら、受験勉強が普段の生活を圧迫し高校生活を暗くしている様子はいかがかえない。「学校へ行くのが楽しみだ」と「思わない」高校生は2割強と少なく、8割近くの生徒は何らかの楽しみを学校に見いだしている。受験のことが気になって仕方がない生徒は2割と少ない。塾や予備校に行っていない生徒は8割にも及ぶ。「有名大学」や「偏差値の高い」大学より、「自分の希望する

学部」のある大学に進学したいとする者が、8割以上いる。そして、1年先には、センター試験を受けて大学に入ろうとする者が7割以上いて（国立志望が多いと思われる）、今文部省が定員の5割までも認められた推薦入学で大学に入ろうとする者は1割強である。

大都市だけで若者や高校生の生態や意識をみていると、嘆わしく思うことも少なくないが、全国的には、昔と変わらない高校生活が営まれていることをデータは語っている。しかし、高校生の中にも、差異化・分化が進行して、画一的には語れない現実もある。

以上みてきたように、高校間格差（グループ）成績、性差によって高校生の進学意識が差異化・分化している。ここで考察した以外にもさまざまな要因によって、高校生の進学意識が差異化・分化していることが考えられる。たとえば、親の学歴（高学歴の親の子どもの方が4年制大学志望や難関大学志望が高い、職業アスピレーションが高いなど）、地域別（東日本と西日本、都市と農村の進学意識の違い）、入学した高校が第一志望の高校かどうかによる違い（第二志望の高校に入りやる気をなくす場合、逆に成績がよく自信

をつけ難関大学を目指す場合があるなど、専攻別の大学選択・学部選択理由の違い（理系は勉強志向で、社会科学系は遊び志向など）が考えられる。いずれにしても、高校生の差異・分化の実態に対応した進路指導が求められているのが現代である。

分散と集中と概念で、今後の方向を述べておきたい。分散と集中は、相矛盾する作用であるが、ある時期まで広く分散し、ある時期から凝縮して集中すれば、安定した美しい形になる。それは高校生の生活や受験勉強についてもいえるであろう。ある時期までは、交友、部活動、趣味の活動にと活動範囲を広げつつ、ある時期から受験勉強に集中する。それが高校生活の1つの理想的な形であろう。現実には、必ずしもそのような形にならないが、頭の中にそのようなイメージを持っておきたい。それは、中学時代にある程度経験し培われたものでもある。中3の夏休み前まで部活動に打ち込み、その後は部活動を引退して受験勉強に打ち込む。同じように高2までは部活動や趣味に打ち込み、高3になったら受験に集中する。このような理想的パターンを、今回調査対象になった進学校の生徒たちであ

れば送れるであろう。

もちろんそのような考え方には疑問もあるであろう。現代の経済不況、年功序列・学歴社会の衰退の中で大学へ行くこと自体意味があるのか。暗記中心の受験勉強は苦痛であり将来に役立つとは思えない。受験があるため思いきり、読書もスポーツも交友もできない。現代の社会には勉強以外に有益なものは多々ある。人格を歪める受験勉強に「集中」するなど、愚の骨頂である。

そのような意見の正当性も多少認めつつ、現代の日本の豊かな社会において、若者に与えられた試練＝通過儀礼として、大学受験しか残されていないのではないかと考えられる。少なくとも、今回の調査対象になった進学校の生徒にとって、高校生のある時期から受験勉強に集中することは、意義のあることであろう。今大学入試も改革され、暗記一辺倒でない問題や入試方法がさまざまに工夫されている。大学生の学力低下が問題視されている中で、受験の意味をもう一度考えるべき時であろう。今回のデータがその助けになることを願っている。

まとめに代えて ||||

大学受験意識は変わったのか

サメタ受験意識

変わったもの・変わらないもの——●

本調査は「はじめに」でふれたような大学の混迷を視野に入れてスタートしている。大学側は、ごく一流の大学を除くと、受験生がゼロになる日におびえて、改革を急いでいる。そうした大学の変化は、受験生の目にどう映っているのか。あらためて、今回の調査結果を要約してみよう。

① 高校卒業後の進路

「難関4年制大学」の40.3%を含めて、4大への志望者は81.4%に達する(表3-1)。

② 進学理由

「将来の職業につなげたい」「専門的な知識が学べる」「やりたい勉強ができる」が進学理由の3位までを占める(図4-2)。ただし、「とてもそう」思っている割合はそれほど高くはない。

③ 大学選択理由

大学選択理由の3位までは「学びたいカリキュラムがそろい」「資格を取得でき」「研究施設や設備が充実している」である。次いで就職率が高いが4位を占める(図4-3)。

④ 進路選択の基準

「あまり有名ではないが、自分の希望する

学部」と「有名大学の自分の希望とは異なる学部」では、前者を選択する者が83.4%である(表4-1)。

⑤ キャンパスでしたいこと

何よりも「アルバイト」(「ぜび」が65.7%)次いで「デート」(39.7%)である(図4-4)。

⑥ 学歴の効用(1)

「有名大学に行けば、自分の希望する職業につける可能性が高くなる」と「とてもそう思う」者は22.0%で、これに「まあ」の45.7%を含めると67.7%である。また、「有名大学に行けば、高い収入を得ることができる」も「とても」が12.4%で「まあ」の36.4%を含めて48.8%である(図5-1)。

⑦ 学歴の効用(2)

「どの大学を出たかで人生が決まってしまう」と思っている生徒は「とても」が11.6%、「まあ」は35.6%で、「そう思わない」生徒が51.9%と、半数を超える(図5-1)。

⑧ 将来の家庭生活

家事を夫と妻で協力して作りたいという者が多い(図5-5)。

⑨ 生徒のタイプ

Aグループ校の上位層は目的意識を持って意欲的な進学を考えている。Cグループ校の生徒は進学にこだわりを持っていない(表6-1)。

こうした傾向をさらに要約すると、とりあえず、専門的な学習ができ(②)、カリキュラムの充実した大学(③)に進学したい(①)という気持ちは、これまでの受験とそれほど変わってはいないように見える。

しかし、自分に合った進学先を選んで(④)、アルバイトをしたりして学生生活を送りたいというあたりに新しい動きが感じられる(⑤)。

受験生の意識が地滑り的な変動を起こしていると思って調査に臨んだのだが、結果がしてみると、変容はそんなに大きくなかった。そこで、変化の少なさの背景を考えてみた。2つの理由が考えられる。まず、今回の調査は全国規模の調査を計画したので、協力の得やすさを考え、高校2年生を対象をしばった。しかし、生徒たちが受験に本腰を入れるようになるのは高校3年生になってからであろう。それだけに、高校2年生をサンプルにした場合、受験意識が鈍化して現れる可能性が高い。高校3年生が含まれると、数値が変わるように思う。

それと同時に、今回の調査が全国規模で行われたので、九州や東北などの東京や大阪以外のサンプルが含まれている。他の場合と同じように、進学についての情報も東京や大阪に集中しがちだ。そして、東京の姿がすべてと思ってしまう。しかし、全国規模でとらえたとき、東京と異なる姿が現れて当然であろう。おだやかな反応は全国調査のもたらしたものととも考えられる。

受験の日常化

データの多くの個所に「自分を生かせる」が顔をのぞかせる(④)。大学のレベルにこだわるより、自分の個性に応じた進学をしたという意識である。この部分に着目すると、受験意識が変わったように思われる。

問題は「自分らしく」の意味をどう考えるかであろう。高校生によれば、有名大学に入れば、よい仕事につけ、高い収入を望めるか

もしれないが、それは「とても」ではなく、「まあ」程度にすぎない(⑥)。有名大学に入るかどうかで、一生が決まるものではない(⑦)。

難関大学に入れば、入るにこしたことはないが、入れなかったとしても、それなりの人生を過ごせる。仕事中心の生き方でなく、家庭を大事にした人生を送りたいという気持ちも強い(⑧)。

高校生たちの目に、有名大学や一流大学に象徴される学歴の値打ちが低下しているように見える。かつての大学受験は、受験生にとって、その後の人生のすべてがかかっていた。一流大学に入れば、明るい未来が約束されるが、受験に失敗すると閉ざされた人生を予感せざるを得ない。それだけに、受験に失敗は許されず、人生を賭け、背を決して、受験に臨むのが常であった。18歳の春の成否に人生がかかっていたのである。

しかし、現在の受験は、一流大学に進学できればめでたいが、落ちたからといって、人生が閉ざされるものではない。進学という関所の価値がゆらぎ、関所を通らなくとも、それなりの人生を送れるように思える。

そうした意味では、大学進学についての熱気が冷め、大学受験は高校受験と同じような通過点にすぎなくなっている。大学受験が人生の一大事ではなく、日常化してくる。そして、生徒たちはカッカとせず、サメタ感じで受験に臨もうとしている。

もちろん、Aランクの高校に入り、学業成績のよい生徒は、トップランクの大学に入れそうだから、関所の値打ちを信じて、それなりの熱気を持って受験に臨んでいる。しかし、進学の可能性が低くなると、関所にこだわらなくなる()。そして、高校生全体を考えたとき、無理に高望みをするのではなく、自分なりのペースで、自分に合った進学を考える層が多いのではないだろうか。

「サメタ」といっても、無関心なのでなく、無理をしないで、自分に向いた行く先を考える形の進学である。それから先は、その時、

その時に対応していけばいい。生涯学習的なとらえ方が定着しているのを感じる。考え方によれば、大学受験が自然の姿を取り戻し、正常化したのかもしれない。

個性を育てる教育を—————●

今回の調査結果を読み取りながら、生徒たちは堅実に自分を生かした進路選択を試みようとしている。どこにでも行く先はあると、安易な態度で進学をとらえる層が多いのではと思ったが、そうした姿はみられなかった。

「はじめに」でふれたように、大学は受験生の意識をとらえることができず、右往左往している。しかし、今回の結果を参照すると、大学は生徒たちの選択眼を信頼して、もう少し落ち着いて大学改革を進めたらどうかと思った。そうした感想を含めて、今回の調査から大学関係者に提言したいことをまとめると以下の3点となる。

1．生徒に何を与えられるかがカギ

このところの改革では、情報、コミュニケーション、国際、福祉、環境などがキーワードで、どの大学も学生の集まりそうな学部を作ろうとしている。その結果、情報や福祉系の学科が乱立する状況が生まれる。学生たちは自分を生かせる場を求め、学部や学科にそれほどのこだわりを示していない。

それだけに、個々の大学では、スタッフや設備の状況を考え、学生に何を与えられるか、学内に目を向けて改革を進めることが大事なのではと思った。国文や英文が悪いのではなく、国文で何を身につけられるかがわかりにくいところに問題がある。入学したら、これだけは保証するというようなわかりやすいメ

ニューの提示が必要なのであろう。

2．私塾的な絆作りを

学生たちは現在の大学に完成教育を望んでいるのではない。充実感を持って、自分にプラスしたと思える大学生を送りたいと考えているのにすぎない。そうした気持ちを満たすのに、ゼミ的な密度の濃い人間関係が望まれよう。

知識や技術の伝達に使命を見いだそうとする大学も増えると思う。そうした大学では最新の情報を伝達できるかが生命線になる。しかし、全体としてみると、即効性の強い力の伝達は専修学校の方が優れているのではない。そして、大学は即効性には欠けるが、基礎をじっくり学べる。それと同時に、教師や仲間を中心に人間の絆が作られる。そうしたゼミ中心を全面に打ち出し、私塾的な性格を明らかにすることが、大学改革の1つの方向であろう。

3．生涯学習の中に位置づける

現在のような高度の情報化社会では、22歳までに最新で高度な情報を身につけることは困難であろう。それに、仮に情報を習得できても、その情報は陳腐化する。それだけに、高等教育を10代後半から20代前半にかけての基礎教育と、社会人を対象とした生涯教育とに機能を分けてはどうか。そして、基礎段階では、専門性を深めるための基礎教育のあり方を模索してはどうかと思う。

小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学と、発達段階に応じた区切りのなものに進学が変わってきた。そうした「人生を決める試験から生涯学習の中での選択へ」と、大学進学の意味が変わってきた。ここらで、今回の調査結果から得られた結論である。

アンケートのお願い

このアンケートは、高校生の皆さんの「進学意識」をお聞きする目的で作られたものです。テストではありませんので、自由に思った通りに教えてください。よろしくお願いします。
(お名前はいりませんので、ありのままをお答えください)

高校教育研究会

尚美学園短期大学教授

上智大学教授

明治学院大学教授

深谷昌志

武内清

望月重信

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけをつけてください。

資料1 調査票見本

① あなたの学校、学年、性別についておたずねします。

- 1) 学校名.....() 高等学校
 2) 学 年.....() 年
 3) 性 別.....(1. 男子 2. 女子) < をつけてください >

I. まず、高校生活についてお聞きします。

② あなたは、現在通っている高校に入学することをどの程度希望していましたか。もっとも近いものを1つだけ選び、その番号に をつけてください。

1. 希望する高校だった
 2. どちらかといえば希望する高校だった
 3. どちらかといえば希望する高校ではなかった
 4. 希望する高校ではなかった

③ あなたは、高校生活について、どのように感じていますか。いちばん近いものに をつけてください。

- | | とても
そう思う | わりと
そう思う | どちらとも
いえない | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|-----------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|----------------|
| 1) 学校へ行くのが楽しみだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 休み時間が楽しみだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 昼食が楽しい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 授業中はまじめに取り組んでいる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 発言をよくする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 宿題や提出物は期限までにきちんとやる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) テスト勉強はがんばる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 忘れ物をしない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 遅刻はしない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 勉強は得意な方である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

④ あなたは、現在の高校生活に満足していますか。

	とても満足 している	わりと満足 している	どちらとも いえない	あまり満足 していない	ぜんぜん満足 していない
1) 授業	1	2	3	4	5
2) 友だち	1	2	3	4	5
3) 部活動	1	2	3	4	5
4) 先生	1	2	3	4	5
5) 成績	1	2	3	4	5
6) 進路相談	1	2	3	4	5
7) 高校生活全般	1	2	3	4	5

⑤ この1年間をふりかえて、次のようなことがどのくらい変わったと思いますか。

	とても そう思う	少し そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	まったく そう思わない
1) 受験用の問題集や参考書で勉強する 時間がふえた	1	2	3	4	5
2) 受験科目でない授業での内職や いねむりがふえた	1	2	3	4	5
3) 放課後、教室で級友や部活動の友人と 雑談したりゲームをしたりして過ごす 時間がなくなった	1	2	3	4	5
4) いつも受験が頭のすみにあって遊んで いても今一つのれなかった	1	2	3	4	5
5) 寝る時間が午前0時をすぎる日が 多くなった	1	2	3	4	5

⑥ 小学校の高学年の頃、あなたの成績はクラスでどのくらいでしたか。

上	中の上	中	中の下	下
1	2	3	4	5

⑦ 中学3年生の頃、あなたの成績はクラスでどのくらいでしたか。

上	中の上	中	中の下	下
1	2	3	4	5

資料1 調査票見本

⑧ 現在、あなたの成績はクラスでどのくらいですか。

上 中の上 中 中の下 下
1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

⑨ あなたは、同じ学年の友だちと比べて、自分をどういう人間だと思いますか。

	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1) 体力なら負けない	1	2	3	4
2) 心がやさしい	1	2	3	4
3) 運動神経がいい	1	2	3	4
4) 流行を先取りしている	1	2	3	4
5) 勉強がよくできる	1	2	3	4
6) 異性に人気がある	1	2	3	4
7) 冗談を言ってよく人を笑わせる	1	2	3	4
8) 苦しいこともがまんできる	1	2	3	4
9) みんなから信頼されている	1	2	3	4
10) 努力型	1	2	3	4
11) 友だちが多い	1	2	3	4
12) 音楽や芸能界の話題にくわしい	1	2	3	4
13) 担任の先生からかわいがられる	1	2	3	4
14) なんとなく目立つ	1	2	3	4
15) 行動力がある	1	2	3	4

⑩ 1) あなたは、予備校や塾に行っていますか。

毎日 行っている	週に 6日	週に 5日	週に 4日	週に 3日	週に 2日	週に 1日	模擬試験 などだけ	行って いない
1	2	3	4	5	6	7	8	9

2) 通信添削などを利用していますか。

利用している	利用していたがやめた	利用したことはない
1	2	3

Ⅱ．次に、高校卒業後の進路についてお聞きします。

- 11 今のところ、あなたは高校卒業後の進路をどう考えていますか。
- 1．入るのが難しい4年制大学
 - 2．ふつう程度の4年制大学
 - 3．入るのがやさしい4年制大学
 - 4．短大
 - 5．専修学校・専門学校
 - 6．就職
 - 7．家業の手伝いなど
 - 8．きちんと考えたことがない
 - 9．その他
- 12 あなたはいつ頃から、その進路に進もうと思うようになりましたか。
- 1．小学校入学以前
 - 2．小学校低学年の頃
 - 3．小学校4、5年生の頃
 - 4．小学校6年生の頃
 - 5．中学校1、2年生の頃
 - 6．中学校3年生の頃
 - 7．高校1年生の頃
 - 8．高校2年生になってから
- 13 大学や短大などへ進学するとしたら、あなたは主としてどの分野を志望するつもりですか。あてはまる番号を1つ選び、をつけてください。
- | | | | |
|-------------|---------------------|----------|-------------|
| 1．人文系 | 2．外国語系 | 3．法学系 | 4．経済学系 |
| 5．理学系 | 6．工学系 | 7．教育系 | 8．家政(生活科学)系 |
| 9．医歯薬系 | 10．芸術系 | 11．農・水産系 | 12．福祉系 |
| 13．看護・医療技術系 | 14．学際系(人間・環境・国際...) | | |
| 15．その他() | | | |
| 16．決めていない | | | |

資料1 調査票見本

11で大学や短大に進学したいと答えた方のみ、14～21をお答えください。
それ以外の方は、22へ進んでください。

14 あなたは、どの形で大学や短大へ進学したいと思いますか。

1. センター試験 + 志望大学の学力試験
2. センター試験 + 志望大学の面接・小論文
3. 志望大学の学力試験のみ
4. 志望大学の学力試験 + 面接・小論文
5. 指定校推薦で決定
6. 一般推薦で決定
7. 一般推薦 + 学力試験や面接・小論文

15 大学や短大に進学するとき、あなたは次のようなことをどのくらい大事にしてほしいですか。

とても大事に
してほしい

かなり大事に
してほしい

あまり大事に
してほしくない

ぜんぜん大事に
してほしくない

- | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|------|---|------|---|------|---|
| 1) 高校の成績 | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 2) 部活動や生徒会など、いろいろな
活動の自己申告 | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 3) 小論文 | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 4) 面接 | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 5) 共通テスト | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 6) 志望大学の教科試験 | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 7) 志望動機に関する自己申告だけで
進学したい | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |

16 もし、第一希望の大学や短大に入れなかった場合、あなたは卒業後の進路をどうしますか。

1. 浪人する
2. 合格した第二、第三希望の大学・短大に入学する
3. 合格した大学・短大には入学するが、再受験する
4. 専修学校・専門学校に入学する
5. 就職する
6. その他

17 難関といわれる大学を受験したら、あなたは入学できると思いますか。

- | | きつと
入れる | なんとか
入れる | やや
無理 | かなり
無理 | とても
無理 |
|--------------------|------------|-------------|----------|-----------|-----------|
| 1) このままいったら | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 一生懸命勉強したら | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 一浪してねばったら | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

18 もし、以下のような2つの大学・学部合格したら、あなたはどちらに入学したいと思いますか。
(aかbかにをつけてください)

- 1) a . あまり有名大学ではないが、自分の希望する学部
b . 有名大学の自分の希望とは異なる学部
- 2) a . 偏差値が55の大学の自分の希望する学部
b . 偏差値が60の大学の自分の希望とは異なる学部
- 3) a . 就職の実績はよくないが、自分の希望する学部
b . 就職の実績はよいが、自分の希望とは異なる学部

Ⅲ. もう少し、大学や短大についてお聞きします。

19 あなたが大学や短大を選ぶとしたら、次のことをどのくらい大事に考えますか。

- | | とても
大事 | わりと
大事 | どちらでも
よい | あまり
大事でない | ぜんぜん
大事でない |
|-------------------------------------|-----------|-----------|-------------|--------------|---------------|
| 1) 伝統や大学の校風 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 研究施設や設備が充実している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 学びたいカリキュラムがそろっている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 取得できる資格がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 自分の学力と大学難易度ランキングが
合っている | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 受験科目 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 授業料が安い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 男女共学 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

- | | とても
大事 | わりと
大事 | どちらでも
よい | あまり
大事でない | ぜんぜん
大事でない |
|-------------------------------------|-----------|-----------|-------------|--------------|---------------|
| 9) 有名な大学である | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) テレビ・新聞などマスコミで有名な
教授がいる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 一人暮らしができる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 自宅から通学できる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) 卒業生に著名人や企業のトップの人が
いる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14) 就職率が高い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15) 留学制度がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16) 推薦で入学できる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17) 奨学金制度が充実している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18) 有名タレントが在学している | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19) キャンパスがきれい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

20 あなたが、大学や短大へ進学したい理由は何ですか。

- | | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|------------------------------------|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1) やりたい勉強ができるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 専門的な知識が学べるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 大学に行かないと取れない資格を
取りたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 将来つきたい仕事につなげたいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 就職に有利だと思うから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 社会的に高い地位が保証されるから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 自由な時間がほしいから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) キャンパスライフは楽しそうだから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 友だちが大学進学を希望しているから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 大学に行くのがふつうだから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 親が「大学に行きなさい」と言うから | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

㉑ 大学や短大の生活を送るとき、あなたは次のようなことをどのくらい体験したいと思いますか。

- | | ぜひ
したい | できれば
したい | あまり
したくない | ぜんぜん
したくない |
|------------------------|-----------|-------------|--------------|---------------|
| 1) 一人暮らし | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) コンパ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 文化系のサークル | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 研究室・ゼミナール | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) アルバイト | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) 海外留学 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7) 異性とのデート | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8) スポーツの同好会やサークル | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9) 体育会系のスポーツのクラブ | 1 | 2 | 3 | 4 |

ここから全員お答えください。

㉒ 受験や進路などについて、何でもよいので、思っていることを書いてください。

資料1 調査票見本

IV. もう少し、これからのことなどをお聞きます。

㉓ あなたは、これから先どんな人生を送りそうですか。

- | | とても
無理だろう | かなり
無理だろう | やや
無理だろう | たぶん
可能だろう | きっと
可能だろう |
|------------------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 1) いわゆる一流大学へ入学する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 大企業に就職する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) よい相手と結婚する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 仕事の面で成功する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 幸せな家庭を作る | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) よい親になる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 経済的にとても豊かになる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 社会的に認められる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

㉔ 次のような仕事につこうとがんばったら、その仕事につけるといいますか。

- | | とても
無理 | かなり
無理 | もしかしたら
なれる | たぶん
なれる | きっと
なれる |
|-------------------|-----------|-----------|---------------|------------|------------|
| 1) 新聞記者 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 大学教授 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 国会議員 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 大会社の社長 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 医師 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) コンピュータ技師 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 弁護士 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 役所の部長 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

㉕ あなたは、次のように思うことがありますか。

- | | とても
そう思う | まあ
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1) どの大学を出たかで人生が決まってしまう | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 学歴は本人の実力をかなり反映している | 1 | 2 | 3 | 4 |

資料1 調査票見本

- | | | | | | | | |
|---|---|-------------|------------|---------------|----------------|------|---|
| | | とても
そう思う | まあ
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない | | |
| 3) 有名大学に行けば、高い収入を得ることができる …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |
| 4) 有名大学に行けば、自分の希望する職業に
つける可能性が高くなる …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 |

26 あなたは、次のことについて、自分にどの程度あてはまると思えますか。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|---|------|---|
| | | とても
あてはまる | やや
あてはまる | どちらとも
いえない | あまり
あてはまらない | ぜんぜん
あてはまらない | | | |
| 1) 自分にはどのような能力・適性が
あるか知っている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 2) 自分にはつきたい職業がある …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 3) 自分の将来について、はっきりした
目標を持っている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 4) 進路を選ぶ上で、重視すること
(自分の能力・適性を生かせることなど)
がはっきりしている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 5) 自分の希望する職業について十分
知識を持っている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 6) 最近の産業・職業について知識を
持っている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 7) 進路選択に関する情報の調べ方が
よくわかっている …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |

27 あなたは、今、次のようなことをどのくらい自分でやっていますか。

- | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|--------------|----------------|-----------|------------------|-------------|---|------|---|
| | | いつも
自分でやる | 自分でやる
ことが多い | 半々
くらい | 親まかせにする
ことが多い | いつも
親まかせ | | | |
| 1) 朝の起床 …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 2) 自分の部屋の掃除 …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 3) ワイシャツやブラウスなどの洗濯 …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 4) ふとんのあげおろしや
ベッドメイキング …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 5) 自分の下着の洗濯 …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 6) 制服のアイロンがけ …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |
| 7) スポーツウエアなどの洗濯 …………… | 1 | ———— | 2 | ———— | 3 | ———— | 4 | ———— | 5 |

資料1 調査票見本

- ㉘ もし、あなたが結婚するとしたら、奥さんはどんな生活を送るのが望ましいと思いますか。
(女子は自分のこととして考えてください)

結婚したら 家庭に入る	子どもが生まれる まで働く	子育てを終えたら また働く	ずっと仕事を 持ち続ける
1	2	3	4

- ㉙ 将来結婚するとしたら、あなたは次のような家事の分担をどうしたらよいと思いますか。

	妻が 全部する	妻がほとんど して、夫が たまに手伝う	妻がだいたい するが、夫も かなり手伝う	夫婦で 同じくらい 分担する	夫が 半分以上する	夫が ほとんどする
1) 朝食作り	1	2	3	4	5	6
2) 洗濯物を干す	1	2	3	4	5	6
3) 夕食のための買い物	1	2	3	4	5	6
4) 夕食作り	1	2	3	4	5	6
5) 夕食後の洗い物	1	2	3	4	5	6
6) 食後にお茶を入れる	1	2	3	4	5	6
7) 風呂の掃除	1	2	3	4	5	6

【次の㉚㉛の設問は、よろしければ、お答えください。】

- ㉚ あなたの家の経済的な豊かさは、どの程度だと思いますか。

とても 豊か	わりと 豊か	ふつう	あまり 豊かでない	まったく 豊かでない
1	2	3	4	5

- ㉛ あなたのご両親の最終学歴(最後に卒業した学校)は、次のどれにあてはまりますか。

	中学	高校	短大・高専	大学(大学院)	その他	わからない
1) 父親	1	2	3	4	5	6
2) 母親	1	2	3	4	5	6

～以上で終わりです。長い間ありがとうございました。～

資料2 基礎集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目		全体	性別		学校グループ別				
			男子	女子	A	B	C		
サンプル数		4,266	2,190	2,062	1,477	1,693	1,096		
①	性別	1. 男子	51.3		57.5	47.6	48.7		
		2. 女子	48.3		42.0	52.2	51.0		
		3. N.A	0.3		0.5	0.2	0.3		
	高校別	1. a校	9.1	9.5	8.8	26.3			
		2. b校	8.6	7.9	9.4			33.6	
		3. c校	6.6	4.0	9.4		16.6		
		4. d校	6.8	7.4	6.1			26.6	
		5. e校	6.2	6.3	6.3		15.7		
		6. f校	7.5	9.7	5.0	21.6			
		7. g校	8.9	9.2	8.7		22.4		
		8. h校	8.1	8.3	7.9	23.4			
		9. i校	8.5	8.3	8.8		21.5		
		10. j校	9.4	9.1	9.7		23.7		
11. k校	9.9	11.3	8.4	28.7					
12. l校	10.2	9.0	11.6			39.8			
②	しど現ての程のた度高か希望を	1. 希望する高校だった	51.8	49.7	54.3	69.4	53.9	24.8	
		2. どちらかといえば希望する高校だった	29.5	32.1	26.7	22.5	28.4	40.8	
		3. どちらかといえば希望する高校ではなかった	10.4	9.8	11.2	3.8	8.4	22.5	
		4. 希望する高校ではなかった	5.3	4.7	5.9	2.4	5.6	8.6	
		5. N.A	3.0	3.7	2.0	2.0	3.7	3.3	
③	高校生活について感じていること	楽しみへ行くのが	1. とてもそう思う	11.3	9.4	13.3	12.3	12.4	8.4
			2. わりとそう思う	36.3	34.2	38.4	38.5	38.7	29.5
			3. どちらともいえない	27.1	29.1	25.2	25.3	27.0	29.8
			4. あまりそう思わない	16.4	16.5	16.3	16.0	14.5	20.0
			5. ぜんぜんそう思わない	8.6	10.6	6.5	7.7	7.1	12.2
			6. N.A	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1
	休み時間が楽し	1. とてもそう思う	30.7	26.6	35.1	28.2	31.7	32.7	
		2. わりとそう思う	33.7	33.2	34.2	31.7	36.0	32.8	
		3. どちらともいえない	23.1	25.2	20.8	24.5	21.8	23.2	
		4. あまりそう思わない	8.6	9.9	7.2	10.3	7.3	8.2	
		5. ぜんぜんそう思わない	3.8	4.9	2.5	5.2	3.0	3.0	
		6. N.A	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	
	昼食が楽しい	1. とてもそう思う	30.7	21.8	40.2	27.6	32.0	33.0	
		2. わりとそう思う	35.2	35.2	35.4	33.3	36.8	35.1	
		3. どちらともいえない	23.3	28.8	17.4	25.5	21.2	23.4	
		4. あまりそう思わない	7.5	9.4	5.5	9.4	7.0	5.7	
		5. ぜんぜんそう思わない	3.1	4.6	1.5	3.9	2.8	2.6	
		6. N.A	0.2	0.3	0.1	0.3	0.2	0.3	
	授業中はまじめるに取組んでいること	1. とてもそう思う	7.6	8.4	6.7	8.9	7.1	6.7	
		2. わりとそう思う	38.7	36.6	40.9	40.4	37.9	37.6	
		3. どちらともいえない	32.5	30.3	34.7	29.0	34.0	34.8	
		4. あまりそう思わない	15.1	16.2	14.0	15.6	14.6	15.1	
		5. ぜんぜんそう思わない	6.0	8.4	3.4	6.0	6.1	5.7	
		6. N.A	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.1	
発言をよくする	1. とてもそう思う	2.2	3.0	1.4	2.1	2.1	2.6		
	2. わりとそう思う	6.4	7.8	5.0	6.1	6.4	6.9		
	3. どちらともいえない	24.6	25.3	23.9	23.2	24.4	26.9		
	4. あまりそう思わない	29.8	30.1	29.5	29.4	30.4	29.5		
	5. ぜんぜんそう思わない	36.7	33.6	40.0	39.1	36.6	33.9		
	6. N.A	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別			
			男 子	女 子	A	B	C	
3	期宿題や提出までにやる物は	1. とてもそう思う	15.5	12.3	19.1	17.8	13.3	15.9
		2. わりとそう思う	29.8	25.4	34.4	26.8	32.4	29.7
		3. どちらともいえない	23.1	23.7	22.6	21.1	24.3	23.9
		4. あまりそう思わない	19.8	22.6	17.1	20.6	19.6	19.2
		5. ぜんぜんそう思わない	11.7	15.9	6.9	13.5	10.2	11.3
		6. N.A	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1
	んテばる勉強はが	1. とてもそう思う	13.2	13.6	12.8	15.2	9.5	16.1
		2. わりとそう思う	33.2	30.0	36.8	32.7	34.4	32.1
		3. どちらともいえない	29.0	28.3	29.7	27.6	29.5	30.2
		4. あまりそう思わない	16.2	17.4	15.0	16.5	17.2	14.3
		5. ぜんぜんそう思わない	8.3	10.7	5.6	7.9	9.3	7.1
		6. N.A	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1
	忘れ物をしない	1. とてもそう思う	17.1	17.3	16.8	19.8	14.6	17.3
		2. わりとそう思う	36.0	32.2	40.0	36.6	35.5	35.9
		3. どちらともいえない	26.8	27.3	26.4	24.4	28.1	28.0
		4. あまりそう思わない	14.2	15.3	13.0	13.4	15.5	13.3
		5. ぜんぜんそう思わない	5.6	7.7	3.5	5.6	6.0	5.3
		6. N.A	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.1
	遅刻はしない	1. とてもそう思う	43.5	42.6	44.4	48.4	42.1	39.1
		2. わりとそう思う	20.9	18.7	23.4	20.0	21.4	21.5
		3. どちらともいえない	13.7	14.0	13.5	12.5	13.3	16.1
		4. あまりそう思わない	11.7	12.1	11.3	9.7	13.1	12.4
		5. ぜんぜんそう思わない	9.8	12.3	7.2	9.1	10.0	10.6
		6. N.A	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4
で勉強は得意な方	1. とてもそう思う	2.8	4.0	1.6	4.0	2.4	2.0	
	2. わりとそう思う	9.6	11.8	7.3	13.1	8.4	6.8	
	3. どちらともいえない	35.3	35.7	34.9	34.4	36.2	35.1	
	4. あまりそう思わない	28.3	27.0	29.8	26.7	29.9	28.1	
	5. ぜんぜんそう思わない	23.8	21.4	26.3	21.6	23.0	27.8	
	6. N.A	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	
4	授 業	1. とても満足している	3.4	4.1	2.8	5.4	2.7	2.0
		2. わりと満足している	30.3	29.5	31.2	36.0	29.3	24.2
		3. どちらともいえない	39.1	35.8	42.7	35.3	40.1	42.7
		4. あまり満足していない	17.4	18.9	15.7	14.6	18.4	19.4
		5. ぜんぜん満足していない	9.6	11.7	7.3	8.5	9.3	11.5
		6. N.A	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2
	友 だ ち	1. とても満足している	33.9	26.1	42.3	30.5	35.9	35.6
		2. わりと満足している	42.5	46.8	38.1	43.7	41.4	42.7
		3. どちらともいえない	16.6	19.5	13.5	17.9	16.5	15.2
		4. あまり満足していない	4.4	4.2	4.5	4.5	4.3	4.3
		5. ぜんぜん満足していない	2.4	3.2	1.5	3.2	1.8	2.1
		6. N.A	0.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.1
	部 活 動	1. とても満足している	17.5	16.2	18.9	19.8	19.4	11.4
		2. わりと満足している	23.0	23.2	22.7	24.0	26.6	16.1
		3. どちらともいえない	33.1	31.8	34.4	34.0	31.3	34.6
		4. あまり満足していない	7.5	6.9	8.1	6.9	8.9	5.9
		5. ぜんぜん満足していない	12.7	16.5	8.6	10.6	11.4	17.5
		6. N.A	6.3	5.3	7.2	4.7	2.4	14.4

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学校グループ別				
			男子	女子	A	B	C		
4	現在の 高校生活の 満足度	先生	1. とても満足している	5.7	6.0	5.3	7.0	5.5	4.1
			2. わりと満足している	27.7	27.6	27.7	29.7	29.0	22.9
			3. どちらともいえない	39.3	38.3	40.4	38.5	39.5	40.1
			4. あまり満足していない	16.1	15.7	16.6	14.3	16.2	18.3
			5. ぜんぜん満足していない	10.9	12.1	9.6	10.0	9.5	14.1
			6. N.A	0.4	0.4	0.3	0.5	0.2	0.4
		成績	1. とても満足している	1.9	2.8	1.0	1.6	1.6	3.0
			2. わりと満足している	11.5	10.8	12.2	10.4	10.5	14.4
			3. どちらともいえない	29.3	28.2	30.5	24.7	30.1	34.1
			4. あまり満足していない	32.0	31.7	32.3	34.0	32.4	28.6
			5. ぜんぜん満足していない	25.2	26.5	23.8	29.2	25.2	19.7
			6. N.A	0.1	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1
		進路相談	1. とても満足している	2.9	3.2	2.7	2.8	2.6	3.6
			2. わりと満足している	14.1	13.7	14.5	15.7	14.4	11.3
			3. どちらともいえない	51.5	53.0	50.0	50.3	52.9	51.0
			4. あまり満足していない	19.5	18.3	20.8	19.4	19.4	19.9
			5. ぜんぜん満足していない	11.7	11.7	11.7	11.2	10.6	14.1
			6. N.A	0.3	0.2	0.3	0.5	0.2	0.1
高校生活全般	1. とても満足している	6.7	6.3	7.1	6.6	7.4	5.5		
	2. わりと満足している	36.0	32.7	39.5	37.4	38.5	30.2		
	3. どちらともいえない	33.5	35.4	31.4	32.8	32.7	35.5		
	4. あまり満足していない	16.0	16.2	15.9	15.7	14.9	18.1		
	5. ぜんぜん満足していない	7.7	9.2	5.9	7.3	6.1	10.5		
	6. N.A	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3		
5	この 一年間を ふりか えつて	受験期間が増えた 参考書の問題集や 勉強の強さ	1. とてもそう思う	4.3	5.4	3.1	4.9	4.6	2.9
			2. 少しそう思う	20.1	22.4	17.8	24.0	20.5	14.4
			3. どちらともいえない	22.2	21.5	23.2	20.3	24.7	21.1
			4. あまりそう思わない	27.4	25.3	29.6	26.1	28.4	27.5
			5. まったくそう思わない	25.8	25.5	26.0	24.5	21.7	34.0
			6. N.A	0.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.1
		むねがよいね 授業で増えた 科目や職業 の授	1. とてもそう思う	13.6	16.3	10.8	16.7	12.8	10.8
			2. 少しそう思う	25.6	26.3	24.8	28.6	23.9	24.0
			3. どちらともいえない	24.3	23.7	24.9	20.3	24.5	29.3
			4. あまりそう思わない	22.3	19.2	25.6	21.0	23.9	21.6
			5. まったくそう思わない	14.1	14.5	13.7	13.3	14.7	14.1
			6. N.A	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3
	人と比べて なかつた 放課後 の教室で 友	1. とてもそう思う	10.6	11.1	10.2	10.7	9.7	12.0	
		2. 少しそう思う	12.2	12.3	12.0	11.4	13.8	11.0	
		3. どちらともいえない	30.3	31.5	29.2	31.3	29.5	30.3	
		4. あまりそう思わない	26.2	24.9	27.4	27.1	27.1	23.6	
		5. まったくそう思わない	20.1	19.8	20.5	19.0	19.4	22.5	
		6. N.A	0.5	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5	
	いつもあつた 遊びが 頭です	1. とてもそう思う	4.2	5.3	3.0	5.5	3.9	2.9	
		2. 少しそう思う	10.9	12.6	9.0	11.9	11.3	8.9	
		3. どちらともいえない	20.0	21.1	18.8	19.7	20.0	20.4	
		4. あまりそう思わない	30.0	27.9	32.4	31.4	32.7	24.0	
		5. まったくそう思わない	34.5	32.7	36.4	31.1	31.4	43.6	
		6. N.A	0.4	0.4	0.4	0.3	0.6	0.2	

資料2 基礎集計表

質問項目			全 体	性 別		学校グループ別			
				男 子	女 子	A	B	C	
5	ふりかえつてこの一年間で	く時を寝る時間が午前0 なすぎた日が多	1. とてもそう思う	32.0	35.8	27.8	31.6	32.1	32.1
			2. 少しそう思う	22.8	23.1	22.6	22.6	23.9	21.4
			3. どちらともいえない	17.5	17.0	18.0	16.5	18.5	17.2
			4. あまりそう思わない	13.4	10.3	16.6	13.8	12.6	14.1
			5. まったくそう思わない	14.0	13.5	14.6	15.0	12.5	15.0
			6. N.A	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.2
6	頃の成績	小学校高学年の	1. 上	34.5	36.5	32.5	52.9	33.1	12.0
			2. 中の上	32.6	30.5	34.8	30.4	36.2	29.8
			3. 中	23.1	21.3	25.1	11.3	21.5	41.6
			4. 中の下	6.4	6.9	5.8	3.0	6.1	11.5
			5. 下	3.0	4.4	1.5	2.0	2.6	4.7
			6. N.A	0.4	0.4	0.3	0.4	0.5	0.3
7	の成績	中学3年生の頃	1. 上	37.6	40.4	34.6	67.6	33.5	3.3
			2. 中の上	34.5	33.1	36.0	27.1	47.3	24.8
			3. 中	21.1	19.2	23.2	4.1	15.4	52.8
			4. 中の下	5.1	5.2	5.0	0.3	2.3	16.1
			5. 下	1.4	1.8	1.0	0.7	1.1	2.7
			6. N.A	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.3
8	現在の成績		1. 上	6.1	6.6	5.6	6.2	5.7	6.8
		2. 中の上	19.0	17.9	20.2	17.9	17.8	22.4	
		3. 中	28.9	26.5	31.8	28.6	29.1	29.2	
		4. 中の下	22.6	22.2	23.0	21.6	24.0	21.7	
		5. 下	21.8	25.4	17.9	24.6	21.6	18.3	
		6. N.A	1.5	1.3	1.6	1.1	1.8	1.6	
9	友だちと比べて自分はどういう人間か	ない体力なら負け	1. とてもそう思う	11.0	13.1	8.8	11.3	9.8	12.4
			2. 少しそう思う	26.3	27.3	25.3	25.7	26.8	26.1
			3. あまりそう思わない	40.0	39.8	40.2	37.8	41.2	41.1
			4. ぜんぜんそう思わない	22.5	19.7	25.5	25.1	21.8	20.3
			5. N.A	0.2	0.2	0.3	0.1	0.4	0.2
		心がやさしい	1. とてもそう思う	12.7	16.3	8.7	12.7	11.5	14.3
			2. 少しそう思う	37.0	37.7	36.4	38.3	36.3	36.5
			3. あまりそう思わない	40.6	35.9	45.7	38.4	42.4	41.0
			4. ぜんぜんそう思わない	9.3	9.9	8.7	10.4	9.2	8.0
			5. N.A	0.4	0.2	0.5	0.3	0.6	0.2
		い運動神経がい	1. とてもそう思う	7.8	10.4	5.1	7.0	7.6	9.2
			2. 少しそう思う	26.1	30.2	21.7	26.5	25.4	26.6
			3. あまりそう思わない	38.3	38.4	38.3	36.9	39.4	38.6
			4. ぜんぜんそう思わない	27.4	20.7	34.5	29.5	27.0	25.1
			5. N.A	0.4	0.3	0.4	0.0	0.6	0.5
		し流行を先取り	1. とてもそう思う	3.7	4.2	3.0	3.8	3.1	4.3
			2. 少しそう思う	15.4	15.8	15.0	15.8	14.1	17.0
			3. あまりそう思わない	51.6	49.0	54.3	47.7	53.5	53.8
			4. ぜんぜんそう思わない	29.0	30.7	27.2	32.6	28.7	24.7
			5. N.A	0.3	0.1	0.5	0.1	0.6	0.2
きる勉強がよくで	1. とてもそう思う	2.2	3.2	1.1	2.5	2.1	1.9		
	2. 少しそう思う	13.4	15.0	11.7	15.0	12.2	13.1		
	3. あまりそう思わない	46.6	47.5	45.8	43.1	48.3	48.7		
	4. ぜんぜんそう思わない	37.4	33.9	41.0	39.2	36.8	35.9		
	5. N.A	0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.4		

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別				
			男 子	女 子	A	B	C		
9	友だちと比べて自分はどういう人間か	異なる性に人気が	1. とてもそう思う	2.1	2.9	1.3	2.0	2.1	2.4
			2. 少しそう思う	4.0	5.1	2.9	5.1	3.7	3.1
			3. あまりそう思わない	43.9	49.6	37.9	44.3	44.2	42.6
			4. ぜんぜんそう思わない	49.5	42.0	57.3	48.2	49.3	51.4
			5. N.A	0.5	0.4	0.6	0.3	0.6	0.5
	せよく人を笑って	冗談を言う	1. とてもそう思う	10.3	9.0	11.7	8.6	10.7	12.0
			2. 少しそう思う	30.4	26.1	35.1	29.2	30.5	31.7
			3. あまりそう思わない	39.3	42.6	35.7	39.9	39.8	37.7
			4. ぜんぜんそう思わない	19.6	22.0	17.1	22.1	18.4	18.2
			5. N.A	0.4	0.4	0.4	0.2	0.6	0.4
	が苦しいことも	できない	1. とてもそう思う	13.9	14.7	13.2	13.9	12.8	15.8
			2. 少しそう思う	43.5	41.5	45.4	45.0	42.0	43.6
			3. あまりそう思わない	31.7	31.5	32.1	30.3	34.0	30.0
			4. ぜんぜんそう思わない	10.6	12.1	9.0	10.7	10.7	10.4
			5. N.A	0.3	0.2	0.3	0.0	0.5	0.2
	頼みさんな	いらる信	1. とてもそう思う	3.9	4.7	3.1	4.1	3.7	4.1
			2. 少しそう思う	23.0	19.5	26.7	24.3	21.9	22.8
			3. あまりそう思わない	55.6	55.2	56.2	53.6	57.1	56.1
			4. ぜんぜんそう思わない	17.0	20.3	13.4	17.8	16.5	16.6
			5. N.A	0.4	0.3	0.6	0.2	0.7	0.4
	努力型	1. とてもそう思う	11.0	10.6	11.4	12.5	10.0	10.5	
		2. 少しそう思う	27.6	25.3	30.1	28.2	25.8	29.7	
		3. あまりそう思わない	37.1	37.3	36.9	33.8	40.2	36.9	
		4. ぜんぜんそう思わない	24.0	26.6	21.2	25.5	23.6	22.7	
		5. N.A	0.3	0.2	0.4	0.1	0.5	0.3	
	友だちが多い	1. とてもそう思う	11.5	10.8	12.2	11.1	10.8	13.2	
		2. 少しそう思う	35.3	34.3	36.4	34.8	35.0	36.5	
		3. あまりそう思わない	41.9	41.9	42.0	42.4	42.8	40.0	
		4. ぜんぜんそう思わない	10.8	12.6	8.8	11.5	10.9	9.8	
		5. N.A	0.4	0.3	0.6	0.2	0.6	0.5	
	の音楽や芸能界	話しやすい話題に	1. とてもそう思う	10.2	10.0	10.3	9.1	10.0	11.8
			2. 少しそう思う	25.8	24.6	27.2	25.5	24.5	28.5
			3. あまりそう思わない	44.1	44.1	44.2	43.2	44.9	44.3
			4. ぜんぜんそう思わない	19.5	21.1	17.8	22.0	20.1	15.1
			5. N.A	0.4	0.3	0.5	0.3	0.5	0.5
	れら担任の先生が	かわいがら	1. とてもそう思う	3.3	3.8	2.7	3.9	3.3	2.6
			2. 少しそう思う	12.4	11.5	13.4	12.7	13.0	11.0
			3. あまりそう思わない	55.5	55.4	55.5	54.4	55.3	57.3
			4. ぜんぜんそう思わない	28.3	28.8	27.7	28.7	27.6	28.6
			5. N.A	0.5	0.5	0.6	0.3	0.8	0.4
	立つとな	なく目	1. とてもそう思う	6.3	7.9	4.7	7.0	5.8	6.1
			2. 少しそう思う	16.5	17.4	15.6	18.1	15.5	15.8
			3. あまりそう思わない	49.5	49.4	49.6	47.5	50.1	51.1
			4. ぜんぜんそう思わない	27.2	25.0	29.6	27.1	27.8	26.5
			5. N.A	0.5	0.4	0.6	0.3	0.6	0.5
行動力がある	1. とてもそう思う	9.3	9.3	9.3	9.5	9.6	8.5		
	2. 少しそう思う	23.9	24.0	23.8	24.4	22.6	25.3		
	3. あまりそう思わない	46.2	46.4	45.9	45.8	46.2	46.4		
	4. ぜんぜんそう思わない	20.3	20.1	20.4	20.0	21.0	19.4		
	5. N.A	0.4	0.2	0.6	0.1	0.6	0.4		

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別			
			男 子	女 子	A	B	C	
10	予備校や塾に行っているか	1. 毎日行っている	0.5	0.7	0.3	0.4	0.6	0.5
		2. 週に6日	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
		3. 週に5日	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	
		4. 週に4日	0.8	1.1	0.5	0.8	1.2	0.2
		5. 週に3日	2.8	3.0	2.7	2.2	4.8	0.6
		6. 週に2日	7.2	8.3	6.0	6.1	11.3	2.2
		7. 週に1日	6.3	5.7	6.9	6.9	8.3	2.3
		8. 模擬試験などだけ	1.6	2.1	1.1	2.0	1.2	1.7
		9. 行っていない	79.5	77.6	81.5	80.4	71.1	91.2
		10. N.A	0.7	0.9	0.6	0.5	0.6	1.1
	てど通 いを利 用する か	1. 利用している	18.7	17.7	19.7	21.0	23.6	8.0
		2. 利用していたがやめた	24.4	21.0	28.0	24.4	28.8	17.5
		3. 利用したことはない	56.0	60.2	51.6	54.0	46.8	73.1
		4. N.A	0.9	1.1	0.6	0.6	0.8	1.4
11	高校卒業後の進路	1. 入るのが難しい4年制大学	40.2	46.0	33.9	67.5	31.6	16.8
		2. ふつう程度の4年制大学	36.9	38.3	35.6	24.1	51.4	31.8
		3. 入るのがやさしい4年制大学	4.0	4.8	3.2	1.9	4.5	6.1
		4. 短大	5.1	0.6	9.9	2.2	2.0	13.8
		5. 専修学校・専門学校	7.6	3.8	11.7	1.2	6.0	18.8
		6. 就職	2.4	2.5	2.4	0.6	1.4	6.6
		7. 家業の手伝いなど	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.3
		8. きちんと考えたことがない	1.4	1.6	1.3	0.9	1.4	2.1
		9. その他	1.8	2.2	1.4	1.3	1.3	3.4
		10. N.A	0.3	0.1	0.4	0.1	0.4	0.4
12	進路を決めた時期	1. 小学校入学以前	2.3	3.1	1.4	2.9	2.4	1.3
		2. 小学校低学年の頃	1.4	1.1	1.7	1.9	1.1	1.3
		3. 小学校4、5年生の頃	3.5	2.6	4.5	4.5	3.2	2.5
		4. 小学校6年生の頃	4.2	3.3	5.1	5.3	4.4	2.5
		5. 中学校1、2年生の頃	11.0	10.3	11.8	11.4	11.6	9.7
		6. 中学校3年生の頃	14.5	14.2	14.6	15.2	15.4	12.0
		7. 高校1年生の頃	28.5	30.3	26.6	30.9	27.3	27.3
		8. 高校2年生になってから	33.3	33.4	33.2	27.1	33.4	41.5
		9. N.A	1.3	1.5	1.0	0.8	1.2	1.9
13	大学や短大で志望する分野	1. 人文系	10.0	8.3	11.9	8.5	13.4	6.9
		2. 外国語系	5.5	2.5	8.7	4.5	5.6	6.7
		3. 法学系	5.3	7.0	3.4	7.8	4.3	3.6
		4. 経済学系	7.8	12.2	3.2	7.0	7.0	10.1
		5. 理学系	5.5	8.1	2.7	8.0	4.9	3.0
		6. 工学系	16.1	28.6	2.8	20.9	15.2	11.0
		7. 教育系	8.3	6.0	10.8	6.6	10.2	7.7
		8. 家政(生活科学)系	2.9	0.2	5.8	1.7	3.0	4.4
		9. 医歯薬系	5.7	5.2	6.3	10.0	4.8	1.4
		10. 芸術系	4.7	3.0	6.5	2.4	5.1	7.2
		11. 農・水産系	3.5	3.2	3.8	4.1	3.8	2.2
		12. 福祉系	2.9	1.2	4.7	1.8	2.6	4.7
		13. 看護・医療技術系	7.5	2.1	13.4	5.2	7.9	10.2
		14. 学際系(人間・環境・国際...)	3.6	2.3	5.0	4.8	3.8	1.6
		15. その他	3.2	2.7	3.8	1.9	2.9	5.5
		16. 決めていない	5.6	5.8	5.3	4.3	4.5	8.9
		17. N.A	1.9	1.7	2.0	0.5	1.1	4.8

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学校グループ別				
			男子	女子	A	B	C		
14	進 大 学 の 形 短 大 へ の	1. センター試験+志望大学の学力試験	57.3	66.8	47.1	77.2	60.1	26.3	
		2. センター試験+志望大学の面接・小論文	6.1	4.6	7.6	5.2	7.9	4.5	
		3. 志望大学の学力試験のみ	9.6	8.5	10.8	7.6	9.1	13.0	
		4. 志望大学の学力試験+面接・小論文	2.8	1.9	3.7	2.1	2.5	4.1	
		5. 指定校推薦で決定	2.8	2.3	3.4	1.4	3.1	4.3	
		6. 一般推薦で決定	6.7	4.7	8.8	2.0	6.0	14.0	
		7. 一般推薦+学力試験や面接・小論文	2.1	1.7	2.5	0.6	1.5	4.9	
		8. N.A	12.7	9.5	16.1	3.9	9.9	28.9	
15	高 校 の 成 績	1. とても大事にしてほしい	6.0	6.2	5.9	5.3	5.1	8.5	
		2. かなり大事にしてほしい	21.2	20.1	22.4	21.5	21.4	20.3	
		3. あまり大事にしてほしくない	43.9	43.8	43.9	45.8	47.7	35.5	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	16.8	21.1	12.2	23.9	16.5	7.6	
		5. N.A	12.1	8.8	15.7	3.5	9.3	28.1	
	部 活 な ど の 自 己 申 告 活 動	1. とても大事にしてほしい	12.5	13.0	12.0	12.4	11.9	13.6	
		2. かなり大事にしてほしい	24.3	24.1	24.4	25.7	26.8	18.4	
		3. あまり大事にしてほしくない	34.9	34.6	35.2	37.8	37.0	27.5	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	16.1	19.4	12.6	20.4	14.8	12.2	
		5. N.A	12.2	8.9	15.7	3.6	9.5	28.3	
	小 論 文	1. とても大事にしてほしい	5.4	6.4	4.4	5.9	5.3	5.0	
		2. かなり大事にしてほしい	20.1	19.7	20.6	21.0	20.8	17.8	
		3. あまり大事にしてほしくない	43.1	41.0	45.2	44.8	46.3	35.7	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	19.2	24.1	13.9	24.4	18.3	13.3	
		5. N.A	12.3	8.8	15.9	3.9	9.3	28.2	
	面 接	1. とても大事にしてほしい	15.5	15.9	15.1	16.7	14.8	15.1	
		2. かなり大事にしてほしい	31.7	30.4	33.1	32.8	33.7	27.1	
		3. あまり大事にしてほしくない	30.0	30.6	29.3	33.5	31.2	23.4	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	10.6	14.3	6.6	13.5	11.0	6.0	
		5. N.A	12.2	8.8	15.9	3.5	9.4	28.4	
	共 通 テ ス ト	1. とても大事にしてほしい	11.8	15.6	7.7	14.4	11.3	9.1	
		2. かなり大事にしてほしい	39.0	41.3	36.8	48.1	37.6	29.0	
		3. あまり大事にしてほしくない	30.6	26.6	34.7	27.6	34.8	28.2	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	6.2	7.6	4.8	6.2	6.9	5.3	
		5. N.A	12.4	8.9	16.1	3.8	9.5	28.4	
	志 望 大 学 の 教 科 試 験	1. とても大事にしてほしい	16.7	21.5	11.5	19.8	16.0	13.4	
		2. かなり大事にしてほしい	42.8	43.9	41.7	50.5	43.5	31.3	
		3. あまり大事にしてほしくない	24.3	20.8	27.9	21.9	27.1	23.2	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	4.0	4.8	3.1	4.1	4.0	3.8	
		5. N.A	12.3	8.9	15.9	3.7	9.5	28.3	
	志 望 大 学 に 進 学 す る と き 大 事 に し て ほ し い こ と	1. とても大事にしてほしい	23.2	20.7	25.8	23.6	24.5	20.6	
		2. かなり大事にしてほしい	24.7	22.6	27.1	22.7	28.2	22.2	
		3. あまり大事にしてほしくない	27.6	31.3	23.6	31.2	27.8	22.6	
		4. ぜんぜん大事にしてほしくない	12.0	16.4	7.4	18.7	9.9	6.3	
		5. N.A	12.4	9.0	16.1	3.9	9.6	28.3	
	16	合 大 に 進 入 路 の 進 れ な か つ た 場 短	1. 浪人する	19.4	25.8	12.6	33.5	15.0	7.1
			2. 第二、第三希望に入学する	49.7	44.4	55.3	47.9	57.5	40.1
			3. 入学するが、再受験する	1.7	1.8	1.5	1.6	2.2	0.9
			4. 専修学校・専門学校に入学する	5.8	5.2	6.5	2.8	5.1	10.9
			5. 就職する	5.3	6.7	3.8	5.1	5.0	5.9
6. その他			6.1	7.3	4.8	5.8	5.9	7.0	
7. N.A			12.0	8.8	15.5	3.3	9.3	28.1	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学校グループ別				
			男子	女子	A	B	C		
17	難関大学に入学できるか	このままいったら	1. きっと入れる	1.5	2.6	0.5	2.0	1.4	1.2
			2. なんとか入れる	3.1	3.6	2.7	5.5	1.9	1.9
			3. やや無理	13.3	14.8	11.7	19.7	10.0	9.7
			4. かなり無理	21.0	21.6	20.3	23.4	22.3	15.7
			5. とても無理	48.7	48.4	49.0	45.9	54.9	43.0
			6. N.A	12.3	9.0	15.9	3.6	9.5	28.6
		しー生懸命勉強したら	1. きっと入れる	14.3	19.2	9.2	20.0	12.3	9.9
			2. なんとか入れる	32.1	33.1	31.0	42.0	29.7	22.7
			3. やや無理	22.3	20.8	23.9	21.3	24.6	20.1
			4. かなり無理	12.9	11.5	14.5	9.3	15.7	13.5
			5. とても無理	6.1	6.5	5.7	4.1	8.3	5.4
			6. N.A	12.2	8.9	15.7	3.3	9.4	28.5
		ねー浪ったたら	1. きっと入れる	25.4	27.8	23.0	36.3	20.9	17.8
			2. なんとか入れる	27.9	28.1	27.6	32.6	28.5	20.4
			3. やや無理	17.3	16.7	17.9	15.2	19.4	16.7
			4. かなり無理	6.1	5.3	6.8	4.3	8.0	5.4
			5. とても無理	10.3	12.2	8.2	7.4	12.8	10.5
			6. N.A	13.1	9.9	16.4	4.1	10.4	29.2
18	どちらに入学したいか	1)	1. 有名大学ではないが、自分の希望する学部	73.2	72.4	74.2	77.9	77.2	60.8
			2. 有名大学の自分の希望とは異なる学部	14.6	18.7	10.1	18.8	13.3	10.9
			3. N.A	12.2	8.9	15.7	3.3	9.5	28.4
		2)	1. 偏差値55の大学の自分の希望する学部	75.6	75.6	75.6	77.4	81.0	64.6
			2. 偏差値60の大学の自分の希望とは異なる学部	12.0	15.3	8.6	18.9	9.5	6.8
			3. N.A	12.4	9.2	15.9	3.7	9.5	28.6
		3)	1. 就職実績はよくないが、自分の希望する学部	56.5	60.2	52.7	62.0	61.1	42.1
			2. 就職実績はよいが、自分の希望とは異なる学部	31.0	30.6	31.4	34.3	29.2	29.3
			3. N.A	12.4	9.2	15.9	3.7	9.6	28.6
19	大学や短大を選ぶときに大事なこと	伝統や大学の校風	1. とても大事	8.4	8.0	8.9	10.7	8.6	5.1
			2. わりと大事	26.4	21.1	32.3	27.3	29.1	21.2
			3. どちらでもよい	32.7	35.7	29.4	36.0	32.7	28.2
			4. あまり大事でない	10.3	11.3	9.2	10.9	10.7	8.9
			5. ぜんぜん大事でない	10.4	15.5	4.8	12.3	9.9	8.6
			6. N.A	11.8	8.5	15.4	2.9	9.1	28.1
		充実した施設や設備がある	1. とても大事	33.0	34.7	31.1	42.1	32.5	21.4
			2. わりと大事	39.8	38.9	40.7	40.6	43.5	33.1
			3. どちらでもよい	12.6	13.9	11.2	11.0	12.6	14.6
			4. あまり大事でない	1.7	2.1	1.4	2.0	1.5	1.7
			5. ぜんぜん大事でない	1.2	1.9	0.4	1.4	1.1	1.0
			6. N.A	11.8	8.5	15.2	2.8	8.9	28.2
		ラムびがたそいりてい	1. とても大事	50.5	45.3	56.0	57.6	52.3	38.1
			2. わりと大事	29.7	34.2	24.9	32.1	30.8	24.7
			3. どちらでもよい	6.6	9.5	3.4	6.0	6.6	7.4
			4. あまり大事でない	0.7	1.1	0.2	0.6	0.6	0.9
			5. ぜんぜん大事でない	0.8	1.4	0.2	0.9	0.8	0.7
			6. N.A	11.7	8.5	15.2	2.8	8.9	28.1
		取得できる資格がある	1. とても大事	43.6	37.3	50.3	43.9	43.8	42.8
			2. わりと大事	31.3	36.1	26.1	35.6	33.3	22.4
			3. どちらでもよい	11.0	14.3	7.5	14.0	11.9	5.6
			4. あまり大事でない	1.3	2.0	0.6	2.1	1.1	0.5
			5. ぜんぜん大事でない	1.1	1.9	0.3	1.5	1.1	0.6
			6. N.A	11.7	8.4	15.2	2.8	8.8	28.1

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別				
			男 子	女 子	A	B	C		
19	大学や短大を選ぶときに大事なこと	が難自分の学力と大学が合っている	1. とても大事	21.8	21.1	22.6	19.3	22.9	23.4
			2. わりと大事	33.7	32.9	34.5	36.8	36.3	25.5
			3. どちらでもよい	23.8	25.4	21.9	27.8	23.4	18.9
			4. あまり大事でない	5.1	5.9	4.3	7.2	5.1	2.3
			5. ぜんぜん大事でない	3.9	6.1	1.5	6.0	3.4	1.7
			6. N.A	11.7	8.5	15.2	2.8	8.9	28.2
		受験科目	1. とても大事	22.3	23.4	21.1	21.4	23.4	21.9
			2. わりと大事	37.5	36.3	38.7	40.6	40.0	29.4
			3. どちらでもよい	21.8	23.2	20.4	24.5	22.5	17.1
			4. あまり大事でない	3.9	4.4	3.3	6.4	2.7	2.4
			5. ぜんぜん大事でない	2.7	4.2	1.2	4.0	2.6	1.2
			6. N.A	11.8	8.5	15.3	3.0	8.9	28.1
		授業料が安い	1. とても大事	36.8	37.4	36.4	36.4	39.3	33.7
			2. わりと大事	29.8	29.1	30.5	33.5	31.4	22.4
			3. どちらでもよい	17.4	19.9	14.7	20.9	17.2	13.0
			4. あまり大事でない	2.7	2.8	2.4	3.6	2.3	2.0
			5. ぜんぜん大事でない	1.6	2.4	0.8	2.8	1.0	0.9
			6. N.A	11.7	8.4	15.2	2.8	8.8	28.1
		男女共学	1. とても大事	29.5	37.2	21.4	32.4	29.2	26.3
			2. わりと大事	24.9	24.4	25.5	27.2	27.6	17.8
			3. どちらでもよい	26.8	24.5	29.2	28.3	27.8	23.2
			4. あまり大事でない	3.1	2.1	4.1	4.3	3.0	1.6
			5. ぜんぜん大事でない	3.9	3.3	4.5	5.0	3.5	3.0
			6. N.A	11.7	8.4	15.3	2.8	8.9	28.1
		有名な大学である	1. とても大事	7.3	10.9	3.5	10.4	6.3	4.6
			2. わりと大事	24.5	26.6	22.3	33.1	23.3	14.8
			3. どちらでもよい	40.5	38.7	42.3	39.0	43.9	37.2
			4. あまり大事でない	7.6	6.6	8.6	6.4	8.2	8.2
			5. ぜんぜん大事でない	8.3	8.4	8.1	8.0	9.3	7.0
			6. N.A	11.9	8.8	15.2	3.0	9.0	28.2
		マスコミ・新聞など教授がいる	1. とても大事	4.2	5.8	2.5	6.1	3.8	2.3
			2. わりと大事	10.4	11.1	9.5	14.6	10.1	5.1
			3. どちらでもよい	43.8	44.7	42.7	44.4	47.3	37.5
			4. あまり大事でない	13.4	11.4	15.7	14.4	13.8	11.7
			5. ぜんぜん大事でない	16.4	18.3	14.5	17.6	16.1	15.3
			6. N.A	11.8	8.7	15.2	3.0	9.0	28.1
		一人暮らしができる	1. とても大事	15.9	21.1	10.4	17.7	17.8	10.6
			2. わりと大事	18.9	22.4	15.3	19.8	20.4	15.4
			3. どちらでもよい	34.0	34.2	33.6	35.3	34.8	31.1
			4. あまり大事でない	9.1	5.9	12.6	10.8	9.6	6.2
			5. ぜんぜん大事でない	10.0	7.4	12.8	13.3	8.4	8.1
			6. N.A	12.0	8.8	15.4	3.0	9.0	28.6
		自宅から通学できる	1. とても大事	15.9	13.5	18.5	15.7	13.5	19.7
			2. わりと大事	19.4	17.6	21.3	19.4	19.5	19.3
			3. どちらでもよい	30.3	33.8	26.5	32.5	32.5	23.8
			4. あまり大事でない	9.5	10.8	8.1	11.8	10.6	4.5
			5. ぜんぜん大事でない	12.9	15.6	10.0	17.3	14.6	4.3
			6. N.A	12.1	8.8	15.6	3.3	9.2	28.4

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別				
			男 子	女 子	A	B	C		
19	大学や短大を選ぶときに大事なこと	が企業に就職するトップの人や	1. とても大事	4.2	5.3	3.1	5.1	3.4	4.1
			2. わりと大事	8.7	9.4	8.0	11.4	8.1	6.0
			3. どちらでもよい	41.1	42.3	39.7	42.2	42.9	37.0
			4. あまり大事でない	13.9	12.6	15.4	14.8	14.8	11.4
			5. ぜんぜん大事でない	20.2	21.7	18.7	23.4	21.9	13.4
			6. N.A	11.8	8.7	15.2	3.0	8.9	28.1
		就職率が高い	1. とても大事	31.6	28.9	34.4	30.5	30.4	34.9
			2. わりと大事	36.6	37.5	35.5	39.3	40.3	27.1
			3. どちらでもよい	14.5	17.7	11.2	20.0	14.1	7.8
			4. あまり大事でない	2.6	3.0	2.3	3.4	3.1	1.0
			5. ぜんぜん大事でない	2.8	4.2	1.4	3.8	3.1	1.0
			6. N.A	11.9	8.7	15.2	3.0	9.0	28.2
		留学制度がある	1. とても大事	10.7	8.2	13.3	11.9	11.3	8.1
			2. わりと大事	14.2	12.6	15.9	17.3	13.9	10.6
			3. どちらでもよい	38.7	42.4	34.8	40.7	40.6	33.0
			4. あまり大事でない	10.7	11.9	9.5	10.8	11.6	9.3
			5. ぜんぜん大事でない	13.8	16.1	11.3	16.3	13.6	10.8
			6. N.A	11.9	8.7	15.2	3.0	9.0	28.2
		推薦で入学できる	1. とても大事	15.3	12.0	18.9	8.3	14.9	25.2
			2. わりと大事	17.1	15.1	19.3	13.1	20.5	17.4
			3. どちらでもよい	35.1	38.6	31.5	42.8	37.6	20.9
			4. あまり大事でない	8.6	9.6	7.4	13.3	8.0	3.0
			5. ぜんぜん大事でない	12.0	16.1	7.6	19.5	9.8	5.3
			6. N.A	11.9	8.7	15.3	3.0	9.1	28.2
		奨学金制度が充実している	1. とても大事	18.6	16.5	20.9	17.7	20.3	17.2
			2. わりと大事	21.0	22.0	19.9	22.0	21.8	18.2
			3. どちらでもよい	36.2	37.9	34.5	39.1	37.7	30.1
			4. あまり大事でない	6.4	7.1	5.6	9.3	5.8	3.6
			5. ぜんぜん大事でない	5.9	7.8	3.9	8.9	5.3	2.7
			6. N.A	11.9	8.7	15.3	3.0	9.0	28.2
		有名タレントが在籍している	1. とても大事	5.3	8.5	1.9	5.4	4.4	6.7
			2. わりと大事	5.1	7.3	2.7	4.1	5.4	5.7
			3. どちらでもよい	33.6	35.9	31.2	32.2	36.4	31.2
			4. あまり大事でない	12.6	10.8	14.5	14.2	13.2	9.5
			5. ぜんぜん大事でない	31.6	28.9	34.4	41.2	31.5	18.7
			6. N.A	11.8	8.6	15.3	2.9	9.0	28.2
良いキャンパスがき	1. とても大事	23.3	26.0	20.6	22.1	23.8	24.3		
	2. わりと大事	39.4	37.9	40.9	43.5	42.2	29.6		
	3. どちらでもよい	19.5	20.6	18.3	22.7	19.7	14.9		
	4. あまり大事でない	2.9	2.7	3.1	4.1	3.0	1.2		
	5. ぜんぜん大事でない	3.0	4.1	1.8	4.5	2.4	1.9		
	6. N.A	11.9	8.7	15.3	3.0	9.0	28.2		
20	大学や短大へ進学したい理由	1. とてもそう	33.7	29.0	38.7	40.4	34.8	23.0	
		2. わりとそう	28.4	30.1	26.7	31.7	31.0	20.1	
		3. 少しそう	16.4	19.6	12.9	16.1	16.1	17.2	
		4. あまりそうでない	6.8	8.1	5.5	5.9	6.6	8.6	
		5. ぜんぜんそうでない	2.7	4.3	1.0	2.8	2.5	2.7	
		6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5	

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別			
			男 子	女 子	A	B	C	
20	専門的な知識が学べるから	1. とてもそう	37.8	33.8	42.1	43.7	39.0	27.9
		2. わりとそう	29.9	32.4	27.2	32.2	32.3	23.1
		3. 少しそう	14.3	17.2	11.2	14.6	13.8	14.9
		4. あまりそうでない	4.0	4.6	3.3	4.2	3.9	3.8
		5. ぜんぜんそうでない	2.0	3.1	0.9	2.3	1.9	1.8
		6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5
	大学や短大へ進学したい理由	1. とてもそう	24.8	19.4	30.4	26.3	25.4	21.6
		2. わりとそう	22.8	23.4	22.3	24.1	24.2	18.8
		3. 少しそう	22.0	26.7	16.9	24.2	22.9	17.9
		4. あまりそうでない	13.5	15.2	11.8	15.5	13.7	10.5
		5. ぜんぜんそうでない	5.0	6.4	3.4	6.8	4.8	2.7
		6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5
	将来つなげたい仕事	1. とてもそう	49.9	45.5	54.8	55.9	49.9	41.8
		2. わりとそう	23.0	26.9	18.9	24.4	24.8	18.4
		3. 少しそう	9.0	11.5	6.2	9.6	9.9	6.8
		4. あまりそうでない	4.1	4.3	4.0	4.5	4.2	3.6
		5. ぜんぜんそうでない	1.9	2.9	1.0	2.5	2.1	0.9
		6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5
	就職に有利だと思	1. とてもそう	28.7	29.1	28.3	32.2	27.1	26.5
		2. わりとそう	27.6	28.9	26.1	29.2	29.8	22.2
3. 少しそう		18.8	19.6	17.9	19.6	20.9	14.8	
4. あまりそうでない		8.7	7.8	9.7	10.4	9.0	5.7	
5. ぜんぜんそうでない		4.2	5.5	2.8	5.5	4.2	2.4	
6. N.A		12.0	9.0	15.2	3.1	9.1	28.5	
社会的に高い地位	1. とてもそう	11.6	13.4	9.7	14.6	9.2	11.4	
	2. わりとそう	18.5	19.3	17.8	21.9	18.2	14.5	
	3. 少しそう	27.9	30.5	25.0	27.3	30.4	24.9	
	4. あまりそうでない	20.2	17.3	23.4	20.7	22.9	15.5	
	5. ぜんぜんそうでない	9.6	10.5	8.7	12.3	10.2	5.2	
	6. N.A	12.0	9.0	15.3	3.2	9.2	28.5	
自由な時間がほし	1. とてもそう	18.1	22.2	13.7	18.8	18.1	17.2	
	2. わりとそう	21.5	23.7	19.2	23.2	23.5	16.1	
	3. 少しそう	24.6	25.3	23.8	27.8	24.8	20.1	
	4. あまりそうでない	16.1	12.6	19.7	16.6	17.8	12.9	
	5. ぜんぜんそうでない	7.7	7.1	8.4	10.6	6.7	5.3	
	6. N.A	12.0	9.0	15.2	3.0	9.1	28.6	
キャンパスライフ	1. とてもそう	24.8	24.4	25.1	27.1	25.6	20.3	
	2. わりとそう	28.6	29.0	28.2	32.1	30.4	21.2	
	3. 少しそう	21.8	23.5	20.0	22.6	22.7	19.3	
	4. あまりそうでない	8.3	8.7	7.8	9.7	7.8	7.0	
	5. ぜんぜんそうでない	4.6	5.5	3.6	5.3	4.4	3.8	
	6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5	
友達を希望して大学進学	1. とてもそう	2.1	3.0	1.1	1.8	2.1	2.6	
	2. わりとそう	4.7	6.1	3.2	5.4	4.7	3.9	
	3. 少しそう	17.4	20.7	14.0	17.7	18.7	15.1	
	4. あまりそうでない	26.3	26.9	25.7	27.0	28.5	22.2	
	5. ぜんぜんそうでない	37.3	34.2	40.8	45.0	37.0	27.6	
	6. N.A	12.0	9.1	15.2	3.2	9.0	28.6	

資料2 基礎集計表

質問項目		全体	性別		学校グループ別				
			男子	女子	A	B	C		
20	大学や短大へ進学したい理由	つうだから行くのがふ	1. とてもそう	6.3	8.0	4.4	7.7	6.4	4.1
		2. わりとそう	12.9	15.9	9.8	16.0	12.8	9.0	
		3. 少しそう	25.1	27.0	23.0	26.5	26.3	21.4	
		4. あまりそうでない	19.8	19.1	20.5	18.9	22.3	17.0	
		5. ぜんぜんそうでない	23.9	21.0	27.1	27.8	23.0	19.9	
		6. N.A	12.0	9.0	15.2	3.2	9.0	28.6	
	らなさいと大学に行き	1. とてもそう	4.0	4.8	3.1	4.2	3.5	4.3	
	2. わりとそう	7.1	8.2	5.9	7.0	8.0	5.9		
	3. 少しそう	16.8	19.5	13.7	16.9	17.8	15.3		
	4. あまりそうでない	20.2	21.1	19.3	21.6	22.9	14.1		
5. ぜんぜんそうでない	40.0	37.4	42.8	47.3	38.8	31.9			
6. N.A	12.0	8.9	15.2	3.0	9.0	28.5			
21	一人暮らし	1. ぜひしたい	33.6	41.2	25.5	37.2	36.6	24.0	
		2. できればしたい	33.8	35.5	32.0	35.5	34.7	30.3	
		3. あまりしたくない	16.0	11.5	20.7	17.9	15.6	14.0	
		4. ぜんぜんしたくない	4.8	2.9	6.8	6.3	4.3	3.6	
		5. N.A	11.9	8.9	15.1	3.2	8.9	28.2	
	コンパ	1. ぜひしたい	22.2	28.4	15.5	25.5	21.5	18.7	
		2. できればしたい	35.3	35.5	35.1	38.4	37.4	27.6	
		3. あまりしたくない	23.4	20.1	26.9	24.3	24.8	20.2	
		4. ぜんぜんしたくない	7.0	7.0	7.1	8.5	7.1	4.9	
		5. N.A	12.1	9.0	15.4	3.2	9.2	28.6	
	サークル系の	1. ぜひしたい	14.7	14.7	14.6	18.8	14.0	10.2	
		2. できればしたい	28.8	26.8	30.9	30.8	30.5	23.6	
		3. あまりしたくない	32.4	34.0	30.8	33.4	35.1	27.0	
		4. ぜんぜんしたくない	12.0	15.5	8.3	13.7	11.3	10.9	
		5. N.A	12.0	8.9	15.3	3.3	9.1	28.3	
	ゼミナール・研究室	1. ぜひしたい	11.1	12.0	10.2	16.9	9.5	5.7	
		2. できればしたい	27.8	29.6	25.8	34.1	29.4	16.9	
		3. あまりしたくない	35.5	35.2	35.7	31.9	39.8	33.7	
		4. ぜんぜんしたくない	13.5	14.1	12.9	13.6	12.1	15.3	
		5. N.A	12.2	9.1	15.5	3.5	9.2	28.5	
	アルバイト	1. ぜひしたい	58.0	55.6	60.5	59.6	60.9	51.2	
		2. できればしたい	24.1	27.7	20.1	29.0	24.6	16.5	
		3. あまりしたくない	5.0	6.2	3.7	6.7	4.6	3.2	
		4. ぜんぜんしたくない	1.2	1.8	0.6	1.6	1.2	0.9	
		5. N.A	11.8	8.7	15.0	3.0	8.7	28.2	
	海外留学	1. ぜひしたい	20.4	16.7	24.3	23.8	20.3	16.1	
		2. できればしたい	24.8	23.5	25.9	29.5	25.9	16.7	
		3. あまりしたくない	25.7	29.7	21.6	26.3	27.3	22.5	
		4. ぜんぜんしたくない	17.0	21.1	12.7	17.3	17.2	16.3	
		5. N.A	12.1	9.0	15.4	3.2	9.3	28.4	
異性とのデート	1. ぜひしたい	34.8	41.2	27.9	39.1	34.6	29.2		
	2. できればしたい	37.8	35.9	39.7	40.8	40.2	29.8		
	3. あまりしたくない	11.2	9.7	12.9	12.0	11.7	9.5		
	4. ぜんぜんしたくない	3.9	4.0	3.7	4.7	3.8	2.9		
	5. N.A	12.4	9.2	15.8	3.4	9.7	28.6		
会スやサークルの同好	1. ぜひしたい	28.1	31.7	24.1	32.6	28.3	21.5		
	2. できればしたい	33.4	34.4	32.3	36.1	35.6	26.4		
	3. あまりしたくない	18.8	17.5	20.2	19.0	20.0	16.5		
	4. ぜんぜんしたくない	7.9	7.5	8.2	9.2	7.1	7.2		
	5. N.A	11.9	8.9	15.2	3.1	9.0	28.4		

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別				
			男 子	女 子	A	B	C		
21	大学や短大で体験したいこと	1. ぜひしたい	16.8	20.7	12.5	19.0	17.0	13.5	
			2. できればしたい	25.1	27.9	22.0	27.1	26.9	19.6
			3. あまりしたくない	31.7	30.0	33.7	34.0	33.3	26.1
			4. ぜんぜんしたくない	14.5	12.5	16.6	16.9	13.9	12.3
			5. N.A	11.9	8.9	15.2	3.1	8.9	28.5
22	へい入学する	1. とても無理だろう	33.8	27.4	40.5	16.0	36.3	53.9	
		2. かなり無理だろう	22.8	21.2	24.4	17.0	26.3	25.0	
		3. やや無理だろう	26.6	28.0	25.0	35.1	26.0	16.0	
		4. たぶん可能だろう	11.4	15.2	7.4	23.4	6.7	2.6	
		5. きっと可能だろう	4.3	6.8	1.6	7.4	3.5	1.3	
		6. N.A	1.2	1.3	1.1	1.2	1.2	1.3	
	大企業に就職する	1. とても無理だろう	25.9	21.5	30.6	14.7	27.5	38.7	
		2. かなり無理だろう	22.7	19.7	25.8	16.9	25.6	26.0	
		3. やや無理だろう	34.6	36.7	32.4	41.4	33.3	27.5	
		4. たぶん可能だろう	11.9	15.3	8.3	20.3	9.5	4.4	
		5. きっと可能だろう	3.4	5.2	1.5	5.3	2.6	2.1	
		6. N.A	1.4	1.6	1.3	1.3	1.6	1.4	
	結婚相手と	1. とても無理だろう	8.6	9.3	7.8	8.3	8.6	8.9	
		2. かなり無理だろう	7.6	8.3	6.8	7.2	7.6	7.9	
		3. やや無理だろう	26.3	27.1	25.4	26.7	25.9	26.4	
		4. たぶん可能だろう	38.3	36.6	40.2	38.7	40.5	34.4	
		5. きっと可能だろう	17.8	17.1	18.6	18.0	15.6	21.1	
		6. N.A	1.4	1.6	1.2	1.1	1.8	1.4	
	成功の面で	1. とても無理だろう	5.0	5.7	4.2	3.9	5.4	5.8	
		2. かなり無理だろう	6.0	5.6	6.5	5.1	6.4	6.6	
		3. やや無理だろう	30.3	29.9	30.7	27.6	32.0	31.2	
		4. たぶん可能だろう	44.5	42.1	47.1	47.0	43.5	42.8	
		5. きっと可能だろう	13.1	15.4	10.6	15.4	11.5	12.4	
		6. N.A	1.1	1.4	0.9	1.0	1.2	1.2	
	幸せな家庭を作る	1. とても無理だろう	6.3	7.8	4.6	6.5	6.0	6.4	
		2. かなり無理だろう	3.9	4.8	2.9	4.2	3.8	3.6	
		3. やや無理だろう	16.4	18.7	13.9	17.2	15.5	16.5	
		4. たぶん可能だろう	46.2	44.1	48.3	47.1	47.1	43.5	
		5. きっと可能だろう	26.1	23.2	29.3	24.1	26.2	28.7	
		6. N.A	1.2	1.4	1.0	0.9	1.4	1.2	
よい親になる	1. とても無理だろう	7.4	9.2	5.4	7.7	7.2	7.2		
	2. かなり無理だろう	4.6	4.9	4.4	4.4	5.2	4.1		
	3. やや無理だろう	18.2	20.8	15.4	18.4	17.6	18.7		
	4. たぶん可能だろう	44.6	40.2	49.2	45.0	46.7	40.9		
	5. きっと可能だろう	24.0	23.4	24.5	23.6	21.8	27.8		
	6. N.A	1.3	1.5	1.1	1.0	1.5	1.3		
経済的に豊かになる	1. とても無理だろう	5.3	6.5	4.0	4.8	5.9	5.1		
	2. かなり無理だろう	7.2	7.7	6.7	6.8	7.3	7.7		
	3. やや無理だろう	39.4	38.0	40.9	35.9	42.0	40.1		
	4. たぶん可能だろう	38.7	36.0	41.4	41.3	37.2	37.4		
	5. きっと可能だろう	8.1	10.3	5.7	10.2	6.1	8.4		
	6. N.A	1.3	1.5	1.2	1.1	1.5	1.3		

資料2 基礎集計表

質問項目			全 体	性 別		学校グループ別			
				男 子	女 子	A	B	C	
23	これから先の人生について	社会的に認められ	1. とても無理だろう	7.1	8.3	5.7	6.2	8.4	6.1
			2. かなり無理だろう	7.5	7.8	7.2	6.6	7.6	8.5
			3. やや無理だろう	37.1	36.1	38.0	34.5	39.2	37.2
			4. たぶん可能だろう	38.6	35.5	42.0	40.8	37.0	38.1
			5. きっと可能だろう	8.5	10.9	5.9	11.0	6.1	8.8
			6. N.A	1.3	1.4	1.2	0.9	1.7	1.3
24	がんばったらその仕事につけるか	新聞記者	1. とても無理	25.9	27.7	24.0	24.7	24.2	30.4
			2. かなり無理	24.6	22.7	26.4	24.6	25.3	23.4
			3. もしかしたらなれる	31.2	28.3	34.5	29.9	32.1	31.4
			4. たぶんなれる	10.0	10.6	9.3	10.8	10.8	7.8
			5. きっとなれる	7.1	9.2	4.9	9.0	6.3	5.8
			6. N.A	1.2	1.5	0.9	1.0	1.3	1.3
		大学教授	1. とても無理	54.9	47.4	62.9	40.1	56.3	72.7
			2. かなり無理	22.8	23.9	21.6	26.1	24.4	16.0
			3. もしかしたらなれる	12.8	15.2	10.4	19.2	11.0	7.2
			4. たぶんなれる	3.6	4.9	2.2	6.2	3.1	1.0
			5. きっとなれる	4.6	7.2	1.8	7.6	4.0	1.7
			6. N.A	1.2	1.4	0.9	0.9	1.2	1.4
		国会議員	1. とても無理	69.2	63.2	75.7	59.6	70.2	80.7
			2. かなり無理	16.5	17.7	15.2	21.3	16.4	10.2
			3. もしかしたらなれる	6.7	8.4	4.8	8.7	6.6	4.0
			4. たぶんなれる	2.3	3.0	1.5	3.7	1.7	1.3
			5. きっとなれる	4.1	6.2	1.8	5.6	3.8	2.6
			6. N.A	1.2	1.5	1.0	1.2	1.3	1.3
		大会社の社長	1. とても無理	59.8	51.5	68.7	51.7	62.1	67.2
			2. かなり無理	19.3	21.1	17.3	23.8	18.7	14.0
			3. もしかしたらなれる	11.3	14.0	8.4	13.4	10.3	10.0
			4. たぶんなれる	2.6	3.6	1.6	3.0	2.7	2.1
			5. きっとなれる	5.8	8.3	3.0	7.0	5.0	5.3
			6. N.A	1.2	1.6	0.9	1.1	1.3	1.4
医師	1. とても無理	63.8	59.9	67.8	55.7	65.7	71.5		
	2. かなり無理	18.0	18.5	17.6	18.9	18.4	16.2		
	3. もしかしたらなれる	10.1	10.8	9.4	13.5	8.9	7.4		
	4. たぶんなれる	2.8	3.6	2.0	4.3	2.4	1.4		
	5. きっとなれる	4.1	5.8	2.2	6.5	3.3	2.1		
	6. N.A	1.2	1.4	1.0	1.1	1.2	1.4		
コンピュータ技師	1. とても無理	38.6	30.0	47.9	33.8	40.9	41.6		
	2. かなり無理	18.2	15.4	21.2	16.7	19.5	18.2		
	3. もしかしたらなれる	24.5	27.9	20.8	26.1	22.6	25.4		
	4. たぶんなれる	10.6	14.7	6.2	12.4	9.9	9.3		
	5. きっとなれる	6.8	10.5	2.9	9.9	5.8	4.2		
	6. N.A	1.2	1.5	1.0	1.2	1.3	1.3		
弁護士	1. とても無理	52.4	48.1	56.8	40.7	54.0	65.8		
	2. かなり無理	22.2	22.0	22.4	24.7	23.2	17.2		
	3. もしかしたらなれる	15.0	16.3	13.6	19.7	13.9	10.2		
	4. たぶんなれる	4.3	5.1	3.5	6.6	3.8	2.1		
	5. きっとなれる	4.9	7.1	2.6	7.2	3.9	3.5		
	6. N.A	1.2	1.4	1.0	1.1	1.3	1.3		

資料2 基礎集計表

質問項目		全 体	性 別		学校グループ別			
			男 子	女 子	A	B	C	
24	がんばつ 仕事につ けるか その 役所の部 長	1. とても無理	35.2	30.6	39.9	26.3	36.7	44.9
		2. かなり無理	22.1	19.3	25.1	19.9	22.6	24.3
		3. もしかしたらなれる	26.1	28.7	23.5	29.8	27.1	19.6
		4. たぶんなれる	8.4	9.8	6.9	11.9	7.0	5.8
		5. きつとなれる	6.9	10.0	3.5	10.9	5.3	4.0
		6. N.A	1.3	1.6	1.1	1.2	1.4	1.4
25	つかでの てし大 まう学 うがを 決出 した	1. とてもそう思う	11.6	13.4	9.7	12.3	10.9	11.6
		2. まあそう思う	35.6	35.5	35.7	38.4	35.0	32.8
		3. あまりそう思わない	32.5	29.7	35.4	30.7	35.0	31.3
		4. ぜんぜんそう思わない	19.4	20.3	18.5	18.1	18.1	23.3
		5. N.A	0.9	1.1	0.7	0.6	1.0	1.1
	し力を てか学 ては歴 いるは な本 り人 反映 映実	1. とてもそう思う	10.3	10.8	9.7	9.5	8.9	13.6
		2. まあそう思う	34.8	33.9	35.8	35.6	36.1	31.8
		3. あまりそう思わない	35.3	32.2	38.5	35.3	36.9	32.8
		4. ぜんぜんそう思わない	18.7	21.9	15.2	18.8	17.2	20.8
		5. N.A	0.9	1.1	0.7	0.7	0.9	1.1
	るば有 こと名 高大大 い入学 が収入 で入行 ける得	1. とてもそう思う	12.4	16.1	8.4	12.2	10.9	15.0
		2. まあそう思う	36.4	38.7	34.1	38.8	35.4	34.7
		3. あまりそう思わない	34.5	29.0	40.2	33.6	36.3	32.8
		4. ぜんぜんそう思わない	15.8	15.2	16.5	14.8	16.4	16.3
		5. N.A	0.9	1.1	0.8	0.7	0.9	1.3
業ば有 につ希 け大 る望 した学 職に行 け	1. とてもそう思う	22.0	27.0	16.7	25.6	18.0	23.4	
	2. まあそう思う	45.7	46.9	44.5	48.5	45.9	41.8	
	3. あまりそう思わない	20.8	15.3	26.7	16.5	24.4	21.2	
	4. ぜんぜんそう思わない	10.5	9.7	11.3	8.8	10.8	12.3	
	5. N.A	0.9	1.1	0.8	0.7	0.9	1.3	
26	てどの 性がよ うな か能 力か 知っ つ	1. とてもあてはまる	8.7	11.0	6.3	9.5	8.3	8.4
		2. ややあてはまる	35.1	33.7	36.8	38.3	35.5	30.4
		3. どちらともいえない	37.8	36.9	38.7	35.1	38.3	40.5
		4. あまりあてはまらない	11.8	11.1	12.6	11.1	11.5	13.3
		5. ぜんぜんあてはまらない	5.4	6.1	4.8	5.3	5.3	5.9
		6. N.A	1.1	1.3	0.9	0.8	1.1	1.5
	あつ きた たい 職業 が	1. とてもあてはまる	41.4	36.9	46.1	41.2	38.5	46.1
		2. ややあてはまる	28.2	28.6	27.9	30.3	28.6	24.8
		3. どちらともいえない	15.6	18.1	12.9	15.4	17.2	13.5
		4. あまりあてはまらない	8.0	8.3	7.7	7.0	8.6	8.3
		5. ぜんぜんあてはまらない	5.8	6.9	4.7	5.5	6.1	5.8
		6. N.A	1.0	1.2	0.9	0.7	1.0	1.5
	標は つ来 を持に つりつ ついで いた目	1. とてもあてはまる	30.0	26.4	33.7	31.6	26.3	33.6
		2. ややあてはまる	26.9	26.6	27.3	27.8	28.1	23.7
		3. どちらともいえない	23.0	24.7	21.1	21.5	24.8	22.1
		4. あまりあてはまらない	10.7	11.8	9.6	11.0	11.2	9.6
		5. ぜんぜんあてはまらない	8.3	9.3	7.3	7.2	8.6	9.4
		6. N.A	1.1	1.2	1.0	0.7	1.0	1.6
つ重 き視 り路 するを こと選 がぶ は上 で	1. とてもあてはまる	20.9	20.0	21.9	22.2	19.7	21.2	
	2. ややあてはまる	30.2	28.9	31.6	30.1	31.0	29.3	
	3. どちらともいえない	32.1	33.6	30.6	30.6	33.8	31.6	
	4. あまりあてはまらない	10.4	9.9	11.0	11.0	9.7	10.7	
	5. ぜんぜんあてはまらない	5.2	6.3	4.0	5.2	4.7	5.9	
	6. N.A	1.1	1.3	0.9	0.9	1.1	1.4	

資料2 基礎集計表

質問項目			全 体	性 別		学校グループ別			
				男 子	女 子	A	B	C	
26	職業生活イメージ	ついでに最近の職業知識を持つ	1. とてもあてはまる	5.8	7.0	4.4	6.8	5.2	5.2
			2. ややあてはまる	21.0	18.3	23.8	21.5	21.3	19.7
			3. どちらともいえない	38.2	38.0	38.5	37.6	39.1	37.8
			4. あまりあてはまらない	23.4	23.3	23.6	23.0	23.2	24.2
			5. ぜんぜんあてはまらない	10.3	12.0	8.5	10.0	9.9	11.2
			6. N.A	1.3	1.5	1.2	1.0	1.2	1.9
	ついでに最近の産業・職業知識を持つ	1. とてもあてはまる	2.9	4.4	1.2	3.5	2.8	2.3	
		2. ややあてはまる	11.7	14.1	9.1	14.6	10.8	9.0	
		3. どちらともいえない	39.0	39.9	38.0	38.3	39.9	38.5	
		4. あまりあてはまらない	30.0	25.8	34.7	29.9	30.4	29.6	
		5. ぜんぜんあてはまらない	15.3	14.6	16.0	12.8	15.1	19.1	
		6. N.A	1.1	1.3	1.0	0.9	1.1	1.6	
	くわつていかにする	1. とてもあてはまる	4.4	5.0	3.7	5.1	4.2	3.8	
		2. ややあてはまる	15.1	14.2	16.1	16.6	15.1	13.0	
		3. どちらともいえない	38.3	39.1	37.4	36.9	41.1	35.7	
		4. あまりあてはまらない	27.8	26.1	29.5	27.4	26.9	29.7	
		5. ぜんぜんあてはまらない	13.1	14.0	12.1	12.9	11.4	16.1	
		6. N.A	1.3	1.5	1.1	1.2	1.3	1.6	
27	朝の起床	1. いつも自分でやる	33.5	29.7	37.7	32.9	31.5	37.5	
		2. 自分でやることが多い	19.0	18.0	20.0	20.4	18.3	18.3	
		3. 半々くらい	20.7	22.6	18.8	19.6	22.5	19.5	
		4. 親まかせにすることが多い	15.8	17.5	13.8	15.4	17.2	14.0	
		5. いつも親まかせ	9.9	10.9	8.8	11.0	9.3	9.2	
		6. N.A	1.1	1.3	0.8	0.7	1.1	1.5	
	自分の部屋の掃除	1. いつも自分でやる	45.9	40.0	52.1	40.6	45.1	54.2	
		2. 自分でやることが多い	22.2	23.1	21.3	22.5	23.7	19.4	
		3. 半々くらい	17.8	20.0	15.5	19.0	18.4	15.3	
		4. 親まかせにすることが多い	9.2	10.9	7.4	11.6	8.4	7.1	
		5. いつも親まかせ	3.7	4.6	2.7	5.2	3.3	2.4	
		6. N.A	1.2	1.4	1.0	1.1	1.1	1.6	
	ウスイシなどツヤブラ	1. いつも自分でやる	3.9	2.6	5.3	3.8	3.2	5.1	
		2. 自分でやるが多い	3.1	1.7	4.4	2.9	3.2	3.0	
		3. 半々くらい	9.8	7.1	12.7	9.3	8.5	12.6	
		4. 親まかせにすることが多い	25.0	20.7	29.6	24.6	26.2	23.8	
		5. いつも親まかせ	57.0	66.5	47.0	58.4	57.8	53.9	
		6. N.A	1.1	1.4	0.9	1.0	1.0	1.6	
ふしんぐ	1. いつも自分でやる	44.5	37.7	51.8	43.1	41.5	51.2		
	2. 自分でやるが多い	19.4	19.3	19.5	19.5	19.7	18.7		
	3. 半々くらい	16.4	19.3	13.4	17.1	16.9	14.9		
	4. 親まかせにすることが多い	10.0	11.6	8.2	10.2	11.4	7.5		
	5. いつも親まかせ	8.6	10.7	6.2	9.2	9.5	6.2		
	6. N.A	1.1	1.4	0.8	0.9	1.0	1.6		
自分の下着の洗濯	1. いつも自分でやる	6.6	3.1	10.4	6.3	6.0	8.0		
	2. 自分でやるが多い	3.9	1.7	6.3	4.0	4.3	3.3		
	3. 半々くらい	10.4	6.9	14.0	10.1	9.3	12.4		
	4. 親まかせにすることが多い	22.2	18.2	26.4	22.5	22.9	20.7		
	5. いつも親まかせ	55.7	68.8	41.8	56.1	56.5	54.0		
	6. N.A	1.2	1.3	1.0	1.0	1.1	1.6		

資料2 基礎集計表

質問項目			全 体	性 別		学校グループ別			
				男 子	女 子	A	B	C	
27	自分でやっているか	が制服のアイロン	1. いつも自分でやる	10.9	3.9	18.3	8.6	10.3	14.8
			2. 自分でやることが多い	6.4	2.8	10.3	6.7	6.4	6.2
			3. 半々くらい	12.9	9.0	17.0	12.9	12.6	13.3
			4. 親まかせにすることが多い	18.4	17.1	19.6	17.2	19.4	18.2
			5. いつも親まかせ	46.5	62.9	29.1	48.9	45.5	45.0
			6. N.A	4.9	4.3	5.6	5.8	5.8	2.5
	スポーツウェアなどの洗濯	1. いつも自分でやる	5.8	4.5	7.2	4.9	5.7	6.9	
		2. 自分でやることが多い	3.4	2.3	4.5	3.8	2.9	3.6	
		3. 半々くらい	9.7	7.9	11.7	9.3	8.7	11.9	
		4. 親まかせにすることが多い	21.5	17.5	25.8	20.9	22.6	20.9	
		5. いつも親まかせ	57.5	65.8	48.6	59.2	58.2	54.0	
		6. N.A	2.1	2.0	2.3	1.9	1.9	2.7	
28	か活性は結婚を望まないと望ましいならい生女	1. 結婚したら家庭に入る	12.2	15.2	9.1	11.8	10.8	15.0	
		2. 子どもが生まれるまで働く	22.2	27.5	16.5	20.0	21.1	26.7	
		3. 子育てを終えたらまた働く	35.0	31.4	38.8	33.4	37.7	33.1	
		4. ずっと仕事を続ける	27.4	21.4	33.9	31.1	27.7	21.9	
		5. N.A	3.2	4.4	1.6	3.7	2.4	3.3	
29	結婚後の家事分担	朝食作り	1. 妻が全部する	18.6	17.4	19.9	17.1	18.4	21.0
			2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	32.9	33.1	32.6	29.8	33.2	36.5
			3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	18.8	19.3	18.4	19.7	19.0	17.3
			4. 夫婦で同じくらい分担する	26.2	26.5	25.8	30.2	25.7	21.6
			5. 夫が半分以上する	0.5	0.4	0.5	0.5	0.6	0.3
			6. 夫がほとんどする	1.4	1.3	1.5	1.4	1.6	1.0
			7. N.A	1.6	2.0	1.2	1.2	1.5	2.3
		洗濯物を干す	1. 妻が全部する	18.6	16.0	21.3	15.6	17.8	23.9
			2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	27.5	26.7	28.4	25.7	28.1	29.0
			3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	18.6	20.0	17.1	19.2	18.9	17.4
			4. 夫婦で同じくらい分担する	30.7	31.7	29.5	34.9	30.5	25.5
			5. 夫が半分以上する	1.6	2.2	1.0	2.0	1.5	1.3
			6. 夫がほとんどする	1.2	1.1	1.4	1.4	1.5	0.5
			7. N.A	1.7	2.2	1.3	1.3	1.7	2.5
	夕食のための買い物	1. 妻が全部する	11.0	10.5	11.6	9.1	11.2	13.1	
		2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	20.2	18.4	22.1	18.2	21.0	21.4	
		3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	23.3	23.5	23.2	24.4	23.6	21.4	
		4. 夫婦で同じくらい分担する	40.6	41.1	40.0	43.9	39.2	38.4	
		5. 夫が半分以上する	1.9	3.0	0.8	1.7	1.9	2.4	
		6. 夫がほとんどする	1.3	1.6	0.9	1.4	1.4	0.8	
		7. N.A	1.7	2.0	1.4	1.2	1.7	2.4	
	夕食作り	1. 妻が全部する	13.1	13.8	12.4	12.3	12.5	15.1	
		2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	29.1	28.3	29.9	28.4	28.2	31.3	
		3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	25.3	24.6	26.0	25.3	26.5	23.5	
		4. 夫婦で同じくらい分担する	29.1	29.6	28.6	30.8	29.2	26.7	
		5. 夫が半分以上する	0.7	0.9	0.5	0.9	0.7	0.4	
		6. 夫がほとんどする	1.0	0.8	1.2	1.1	1.2	0.5	
		7. N.A	1.7	2.0	1.4	1.2	1.7	2.4	
夕食後の洗い物	1. 妻が全部する	10.1	10.3	10.0	8.6	9.7	12.9		
	2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	18.5	18.6	18.4	17.6	17.4	21.4		
	3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	19.3	20.3	18.3	17.9	20.4	19.5		
	4. 夫婦で同じくらい分担する	41.0	38.0	44.2	44.5	40.6	37.1		
	5. 夫が半分以上する	6.2	7.2	5.0	6.8	7.0	4.0		
	6. 夫がほとんどする	3.1	3.6	2.7	3.3	3.2	2.8		
	7. N.A	1.7	2.0	1.4	1.2	1.8	2.3		

資料2 基礎集計表

質問項目			全 体	性 別		学校グループ別			
				男 子	女 子	A	B	C	
29	結婚後の家事分担	食後にお茶を入れる	1. 妻が全部する	18.3	13.7	23.2	15.4	18.3	22.3
			2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	17.8	15.4	20.5	16.8	16.3	21.6
			3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	15.0	15.4	14.6	15.0	15.3	14.7
			4. 夫婦で同じくらい分担する	40.2	44.3	35.6	44.0	40.9	33.8
			5. 夫が半分以上する	3.8	5.3	2.1	4.1	3.9	3.1
			6. 夫がほとんどする	3.0	3.4	2.6	3.0	3.6	2.2
			7. N.A	1.9	2.4	1.3	1.6	1.7	2.4
	風呂の掃除	1. 妻が全部する	6.5	7.5	5.4	5.9	5.8	8.4	
		2. 妻がほとんどして、夫がたまに手伝う	10.0	10.1	9.9	8.4	10.0	12.1	
		3. 妻がだいたいするが、夫もかなり手伝う	12.9	12.6	13.1	13.0	12.6	13.0	
		4. 夫婦で同じくらい分担する	40.3	38.4	42.1	40.9	41.2	38.1	
		5. 夫が半分以上する	16.0	16.3	15.8	16.9	16.1	14.7	
		6. 夫がほとんどする	12.6	13.0	12.3	13.7	12.5	11.2	
		7. N.A	1.7	2.1	1.4	1.2	1.8	2.4	
30	経済状況の家の	1. とても豊か	2.3	2.8	1.8	2.1	2.2	2.8	
		2. わりと豊か	14.9	14.7	15.1	17.7	14.2	12.3	
		3. ふつう	47.9	49.0	46.7	45.2	53.3	43.2	
		4. あまり豊かでない	14.2	13.6	14.8	11.3	14.8	17.0	
		5. まったく豊かでない	4.5	5.6	3.4	4.2	4.2	5.6	
		6. N.A	16.2	14.3	18.1	19.5	11.3	19.2	
31	両親の最終学歴	父 親	1. 中学	4.1	4.2	4.1	2.5	4.4	6.0
			2. 高校	28.0	28.3	27.8	22.1	32.2	29.7
			3. 短大・高専	3.3	2.9	3.8	2.8	3.3	4.0
			4. 大学(大学院)	39.1	39.9	38.2	46.9	40.8	26.1
			5. その他	0.8	1.0	0.5	0.7	0.6	1.1
			6. わからない	6.8	7.8	5.8	4.3	5.7	12.0
			7. N.A	17.8	16.0	19.7	20.6	13.1	21.2
	母 親	1. 中学	2.6	2.3	2.9	1.9	1.9	4.7	
		2. 高校	36.3	36.3	36.5	30.8	40.6	37.1	
		3. 短大・高専	17.9	16.8	19.1	18.4	19.3	15.1	
		4. 大学(大学院)	17.1	18.1	16.0	21.4	18.0	9.9	
		5. その他	1.6	1.5	1.7	1.7	1.7	1.3	
		6. わからない	6.9	9.1	4.6	5.1	5.6	11.3	
		7. N.A	17.6	15.9	19.4	20.6	12.9	20.6	